TR3RW マネージャ Version1.30 取扱説明書 (ゲート型製品編)

発行日 2011 年 6 月 10 日 <u>Ver 1.00</u>



マニュアル番号: TDR-MNL-TR3RWMGRV130GATE-100

はじめに

このたびは、弊社製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。 本製品を安全に正しくご使用いただくため、本書をよく読み、いつでも参照できるよう、手近な所に保 管してください。

TR3RWマネージャ バージョンアップ履歴

2011/06/10 v1. 3. 0. 0 [動作OSの追加] • Windows 7 Professional Edition 64bit • Windows 7 Enterprise Edition 64bit ※ただし、アプリケーションは32bitアプリケーションとして動作 [機能の追加] ・EEPROM詳細設定画面にI-CODE SLIXとの交信を行うための設定項目を追加 ・インターフェース設定画面にフロー制御パラメータを追加 [仕様の変更] ・EEPROM詳細設定画面からリーダライタモジュールの通信速度を 変更できない仕様へ変更 ・リーダライタ自動検出中にキャンセルを行える仕様へ変更 [不具合の修正] ・TR3-LD003GW4Pとの通信時に一部の機能が正常動作しない不具合の修正 ・富士通製RFタグ(ブロックサイズ:8バイト)へのWriteMultiBlock実行時に 書き込みデータサイズが4バイトの整数倍に制限される不具合の修正 2010/12/01 v1. 2. 0. 0 [コマンドの追加] ・S6700互換モード設定の読み取り/書き込み IS015693ThroughCmd (IS015693スルーコマンド) I-CODE-SLIのカスタムコマンド Inventory read Set EAS Reset EAS Lock EAS EAS Alarm ・I-CODE-SLI-Sのカスタムコマンド Inventory page read Get Random Number Set password Write password Lock password Protect page Lock page protection condition Get multiple block protection status Destroy SLI-S Enable privacy 64bit password protection Set EAS Reset EAS Lock EAS EAS Alarm Password protect EAS Write EAS ID

- I-CODE-SLI-Lのカスタムコマンド Inventory page read Get Random Number Set password Write password Lock password Destroy SLI-L Enable privacy Set EAS Reset EAS Lock EAS EAS Alarm Password protect EAS Write EAS ID
- I-CODE-SLIXのカスタムコマンド Get Random Number Set password Write password Lock password Set EAS Reset EAS Lock EAS EAS Alarm

2010/09/09 v1. 1. 1. 0

[不具合の修正]

・RFタグデータの連続読み取り中にアプリケーションの終了処理を選択した場合に アプリケーションがフリーズすることがある不具合を修正

2010/08/17 v1. 1. 0. 0

[コマンドの追加]

- ・アンチコリジョンモードの読み取り/書き込み
- ・RF送信信号設定の読み取り/書き込み
- ・RFタグ通信設定の読み取り/書き込み
- LockBytes
- アドレス指定読み取り/書き込み
- ・My-d自動識別時のアクセス方式の読み取り/書き込み
- ・ReadBytes/RDLOOP系の内部処理の読み取り/書き込み

[機能の追加]

- ・受信データー覧のユーザデータ表示方法をSJIS変換文字列とHEX文字列から 選択する機能を追加
- ・コマンドの連続実行機能にInventory2とReadBytesなどの組み合わせを追加

[不具合の修正]

- ・Windows7で動作させた場合にEEPROM詳細設定のレイアウトが崩れる不具合を修正
- ・COMポートの存在しない端末で動作させた場合に例外が発生する不具合を修正
- ・富士通製RFタグ(ブロックサイズ:8バイト)へのWriteSingleBlockにおいて
 書き込みデータ長が4バイトに制限される不具合を修正

2010/03/05 v1.0.0.0 初版リリース

マニュアル番号: TDR-MNL-TR3RWMGRV130GATE-100

ソフトウエア使用許諾契約書

本契約は、お客様(個人・法人を問いません)とタカヤ株式会社との間の契約です。 お客様は、本ソフトウエアをコンピュータにインストールする、または複製する、またはコンピュータ にインストールされた本ソフトウエアを使用することで本契約に同意されたものとみなされます。 本契約に同意頂けない場合は、本製品(コンピュータプログラム、CD-ROM などの製品媒体、付帯ド キュメント、その他一切のもの)を当社あてにご返却下さい。また本ソフトウエアをネットワーク経由 でダウンロードして入手した場合は、入手したファイルをコンピュータから削除してください。

第1条 使用権の許諾

- 1)お客様は本契約への同意を前提にライセンス数に制限無く本ソフトウエアを使用することができます。
- 2) お客様は本契約書の添付を条件に本ソフトウエアを第三者に対し無償で配布することができます。

第2条 追加許諾条項

本ソフトウエアを定められた目的に従って使用した結果、作成された各種のファイルは、お客様の著作 物となります。

第3条 著作権

- 1) 本ソフトウエアに関する著作権、特許権、商標権、ノウハウおよびその他すべての知的財産権は、 当社に帰属することとします。
- 2) お客様は、本ソフトウエアに付された著作権表示等の注釈を削除または改変してはならないものと します。
- 3)本契約は、本契約に明示された場合を除き、本ソフトウエアに関する何らかの権利をお客様に許諾 あるいは譲渡するものではありません。

第4条 禁止事項

- 1) コンピュータプログラムのリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルを行うこ と。また、これらの方法やその他の方法でソースコードの解読を試みること。
- 2) 本ソフトウエアの一部またはすべてを変更すること。また、二次的著作物を作成すること。
- 3) 本ソフトウエアの販売、営利目的での配布を行うこと。

第5条 無保証

- 1)当社は、本ソフトウエアがお客様の特定目的のために適当であること、有用であること、本ソフト ウエアに瑕疵がないこと、その他本ソフトウエアに関していかなる保証もいたしません。
- 2)当社は、本ソフトウエアが第三者の知的財産権その他の権利を侵害していないことを一切保証しま せん。お客様は、お客様ご自身の判断と責任により本ソフトウエアをご使用になるものとします。
- 3) 本ソフトウエアや関連するすべての資料は、事前の通知なしに改良、変更することがあります。

第6条 免責

当社は、いかなる場合においても、本ソフトウエアの使用または使用不能から生ずるいかなる損害(事業利益の損害、事業の中断、事業情報の損失、またはその他金銭的損害)に関して、一切責任を負いません。

第7条 サポート

お客様が本ソフトウエアに関するサポートをご希望になる場合は、当社 RF 事業部までお問合せください。

連絡先 〒108-0074 東京都港区高輪 2-16-45 高輪中山ビル タカヤ株式会社 事業開発本部 RF 事業部 RF 営業部 E-MAIL: <u>rfid@takaya.co.jp</u>

第8条 契約の解除 お客様が本使用許諾契約に違反した場合、当社は本使用許諾契約を解除することができます。その場合、 お客様は本ソフトウエアの使用を中止し、プログラムをコンピュータからアンインストールし、本製品 を当社へ返却するものとします。また、本ソフトウエアをネットワーク経由でダウンロードして入手し た場合は、入手したファイルをコンピュータから削除してください。

(2011年6月版)



目次

第1章	セットアップ	9
1.1	動作環境	10
1.2	リーダライタ	11
1.3	インストーラの準備	12
1.4	インストール	13
第2章	起動と終了	18
2.1	起動する	19
2.2	終了する	20
第3章	リーダライタとの通信を開始する	21
3.1	RS-232C通信	22
3.1.1	インターフェースの設定画面(シリアルインターフェース)	23
3.1.2	? デバイスマネージャからCOMポートを確認する	25
3.1.3	COMポートを手動で入力して通信を開始する	26
3.1.4	リーダライタを自動で検出して通信を開始する	29
3.2	TCP/IP通信	31
3.2.1	インターフェースの設定画面(LANインターフェース)	32
3.2.2	2. リータライタ通信万式(サーバ接続万式と目動クライアント接続万式)	33
3.2.3	ト バソコンのIPアドレスを変更する	34
3.2.4	サーハ接続方式で通信を開始する	38
3.2.5) 目期リフイアンF接続力式 ご通信を開始する	41
第4章	メイン画面の機能	45
4.1		
4.1	インターノエース設定を確認する	46
4.1 4.2	インターノェース設定を催認する 受信データー覧を確認する	46 47
4.1 4.2 4.3	インターノェース設定を確認する 受信データー覧を確認する 送受信ログを確認する	46 47 49
4.1 4.2 4.3 4.4	インターノェース設定を確認する… 受信データー覧を確認する… 送受信ログを確認する… リーダライタの動作モードを確認・変更する…	46 47 49 50
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1	 インターノェース設定を確認する 受信データー覧を確認する	46 47 49 50 51
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2	インターノェース設定を確認する… 受信データー覧を確認する… 送受信ログを確認する… リーダライタの動作モードを確認・変更する… リーダライタ動作モードの書き込み画面… コマンドモード…	46 47 50 51 54
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3	 インターノェース設定を確認する	46 47 50 51 54 56
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4	 インターノェース設定を確認する 受信データー覧を確認する	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5	 インターノェース設定を確認する	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5	 インターノェース設定を確認する	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第 5 章	 インターノェース設定を確認する	
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章	 インターノェース設定を確認する	
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1	 インターノェース設定を確認する	
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1	インターノェース設定を確認する	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.2	 インターノェース設定を確認する	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4	インターノエース設定を確認する	
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.4	インターノエース設定を確認する	$\begin{array}{c} 46 \\ 47 \\ 49 \\ 50 \\ 51 \\ 54 \\ 56 \\ 59 \\ 66 \\ 66 \\ 66 \\ 67 \\ 71 \\ 72 \\ 75 \\ 75 \\ 76 \end{array}$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6	 インターノエース設定を確認する	$\begin{array}{c} 46 \\ 47 \\ 49 \\ 50 \\ 51 \\ 54 \\ 56 \\ 56 \\ 66 \\ 66 \\ 67 \\ 67 \\ 67 \\ 70 \\ 71 \\ 72 \\ 75 \\ 76 \\ 77 \\ 76 \\ 77 \\ 77 \\ 76 \\ 76 \\ 77 \\ 76 \\$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.6	 インターノェース設定を確認する	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.6 5.1.7 5.1.6	 インターノェース設定を催認する 受信データー覧を確認する 送受信ログを確認する リーダライタの動作モードを確認・変更する リーダライタ動作モードの書き込み画面 コマンドモード 連続インベントリモード RDLOOPモード オートスキャンモード リーダライタEEPROM設定 EEPROM簡易設定 RDLOOPモード動作時における読み取り範囲 アンテコリジョン設定 アンテナ切替設定 アンテナ切替設定 目動読み取りモード動作時におけるAFI指定読み取り リトライ回数 SimpleWriteコマンド実行時のUID指定 自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力 ノーリードコマンドの設定	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.7 5.1.8 5.1.8 5.1.8	 インターフェース設定を確認する 受信データー覧を確認する 送受信ログを確認する リーダライタの動作モードを確認・変更する リーダライタ動作モードを確認・変更する リーダライタ動作モードの書き込み画面 コマンドモード 連続インベントリモード RDLOOPモード オートスキャンモード リーダライタとの通信内容を消去する リーダライタEEPROM設定 EEPROM簡易設定 RDLOOPモード動作時における読み取り範囲 アンテコリジョン設定 アンテナ切替設定 自動読み取りモード動作時におけるAFI指定読み取り リトライ回数 SimpleWriteコマンド実行時のUID指定 自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力 ノーリードコマンドの設定 	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.7 5.1.8 5.1.9 5.1	 インターノェース設定を確認する。 受信データー覧を確認する。 リーダライタの動作モードを確認・変更する。 リーダライタ動作モードの書き込み画面。 コマンドモード。 連続インベントリモード RDLOOPモード。 オートスキャンモード。 リーダライタとの通信内容を消去する UーダライタEEPROM設定 UーダライタEEPROM設定 EEPROM簡易設定 RDLOOPモード動作時における読み取り範囲 アンチョリジョン設定 アンチョリジョン設定 アンチョリジョン設定 ジージナリ材替設定 自動読み取りモード動作時におけるAFI指定読み取り リトライ回数 SimpleWriteコマンド実行時のUID指定 自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力 ノーリードコマンドの設定 ブザー種別の設定 0 自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.6 5.1.7 5.1.8 5.1.9 5.1.1 5.1.1	インターフェース設定を確認する. 受信データー覧を確認する. リーダライタの動作モードを確認・変更する. リーダライタ動作モードの書き込み画面. コマンドモード. 連続インベントリモード. アレビアモード	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.7 5.1.8 5.1.9 5.1.1 5.1.1 5.1.1 5.1.1 5.1.1 5.1.1	インターフェース設定を確認する	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
4.1 4.2 4.3 4.4 4.4.1 4.4.2 4.4.3 4.4.4 4.4.5 4.5 第5章 5.1 5.1.1 5.1.2 5.1.3 5.1.4 5.1.5 5.1.6 5.1.7 5.1.6 5.1.7 5.1.8 5.1.9 5.1.1	インターノエース設定を確認する. 受信データー覧を確認する. メーター覧を確認する. リーダライタの動作モードを確認・変更する. リーダライタ動作モードの書き込み画面. コマンドモード. 連続インベントリモード. アレロのPモード. オートスキャンモード. リーダライタEEPROM設定. UPダライタEEPROM設定. EEPROM簡易設定 RDLOOPモード動作時における読み取り範囲. アンチョリジョン設定 アンチナリ替設定. 自動読み取りモード動作時におけるAFI指定読み取り. リトライ回数 SimpleWriteコマンド実行時のUID指定 自動読み取りモード動作時における「力」 ブザー種別の設定. 0 ブボー和別の設定. 0 1 RFタグのメモリブロックサイズ. 2 RFタグ通信設定 3 RS485 接続設定	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$

52.1 EEPRONB設定 96 52.2 リーダライタ助作モード設定 88 52.4 汎用ボート設定 99 52.5 万ナブナ切替設定 99 52.6 各種設定1 99 52.7 設定保存 グ気元 99 53.8 EEPRONB変化気 100 53.3 EEPRONB変化気 100 53.4 EEPRONB変化 100 53.5 アンテナ切替設定 101 53.6 AEB設定 102 53.7 アンテナ切替設定 102 53.8 経定保存 グ電元 102 53.8 経定保存 グ電元 112 53.8 経定保存 グ電元 112 6.1 EEPRONB変定 122 6.1 EEPRONB変定 122 6.1 EEPRONB変定 122 6.1.4 赤り線センサー設定 122 6.1.5 外部リレー設定 122 6.1.6 外部リレー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 小部リレー設定 123 6.1.9 設定保存 グ電元 133 6.10 加ジレーンシンン <td< th=""><th>5.2</th><th>EEPROM詳細設定[ROMversion1.34 以前]</th><th></th></td<>	5.2	EEPROM詳細設定[ROMversion1.34 以前]	
5.22 リーダライタ動作モード設定 57 5.23 FF ダラ動作モード設定 58 5.24 汎用ポート設定 59 5.25 アンデナ切替設定 09 5.26 各種設定 99 5.27 設定保存 / 気元 09 5.3 EEPROM整定 FQ 00 5.3 EEPROM整定 FQ 100 5.3.1 EEPROM整定 FQ 100 5.3.3 FF ダブ動作モード設定 100 5.3.4 ILPY プグリ酸化モード設定 100 5.3.5 F ダブガーモード設定 100 5.3.6 各種設定 100 5.3.7 F ダブガードの意定 100 5.3.8 R 定保存 / 低元 110 5.3.8 R 定保存 / 低元 111 5.3.8 R 定 化 / 111 5.3.9 C / 111 5.3 F F POM設定 122 <td>5.2.1</td> <td>EEPROM設定一覧</td> <td></td>	5.2.1	EEPROM設定一覧	
5.2.3 FF々グ部件モード設定 88 5.2.4 汎用ボート設定 99 5.2.5 アンデナ切替設定 99 5.2.6 各種設定 99 5.3.1 EEPROM設定 100 5.3.3 EEPROM設定 100 5.3.4 I=PROM設定 100 5.3.5 アンデナ切替設定 101 5.3.6 Kall 102 5.3.7 A EdB文定 100 5.3.8 Rb定保存 / 復元 102 5.3.6 Kall 104 5.3.7 V=VFydPahrt=r-KB2c 100 5.3.8 Rb定保存 / 復元 110 5.3.8 Rb定保存 / 復元 112 5.6 ゲート専用メニュー [TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 117 6.1.1 EEPROM設定 122 6.1.2 ゲート専用メニュー [TR3-G001B] 115 6.1.3 Re 型セン 一 設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 アシン認定 122 6.1.6 <t< th=""><td>5.2.2</td><td>リーダライタ動作モード設定</td><td></td></t<>	5.2.2	リーダライタ動作モード設定	
524 汎用ボート設定 88 525 アンテナ切替設定 90 526 527 設定保存/復元 90 53 EEPRONB設定「型 100 53.1 EEPRONB定一型 100 53.2 T.Y.F.Y.G.M.Y.RESOLISS UM 101 53.3 EEPRONB定 102 53.4 T.Y.F.Y.G.M.Y.RESOLISS 102 53.5 T.Y.F.J.G.M.Y.RESOLISS 104 53.6 A EEDRON MB定 102 53.7 S.Y.F.J.G.M.Y.RESOLISS 104 53.8 Breger A 112 54.1 Apstretone abover and abover a	5.2.3	RFタグ動作モード設定	
52.5 アンテナリ制構設定 92 52.6 各種設定1 92 52.7 設定保存/復元 96 5.3 EEPROM資産の 95 5.3.1 EEPROM資産の 100 5.3.2 リーダブイ9動作モード設定 100 5.3.3 RFタグ動作モード設定 100 5.3.4 第20 102 5.3.5 アンテナリ制構設定 104 5.3.6 各種設定1 106 5.3.7 各種設定2 106 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 117 6.1.2 ブザー/音声設定 117 6.1.3 テンプ設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 集電センサー設定 122 6.1.6 各種設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 本種設定 123 6.1.9 設定保存/復元 123 6.1.10 初期化 124 6.13 オビッサー設定 124 6.14 ガザレッシッシン 125	5.2.4	汎用ポート設定	
5.26 各種設定1 96 5.3 EEPROM詳細設定IROMVERSION1.35 以降] 96 5.3 EEPROM設定一覧 100 5.3.1 EEPROM設定二覧 100 5.3.2 リーダライタ助作モード設定 100 5.3.3 RF9グ動作モード設定 100 5.3.4 汎用ボート設定 100 5.3.5 アンテナ切替設定 100 5.3.6 各種設定 1 100 5.3.7 各種設定 2 110 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 1 116 6.1.1 EEPROM設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 122 6.1.6 外部レー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 133 6.19 助能化モードの読み取り 143 6.10 初期化 138 6.2 ゲート動作モードの読み取り 144 6.3 ケード動作モードの読み取り 144 6.4 オザレンサン設定 145 6.5 オーレランオンに設定 145 7.1	5.2.5	アンテナ切替設定	
5.2 設定保存/復元 96 5.3 EEPROM¥#細設定(ROMVERSON1.35 以降) 96 5.3.1 EEPROM¥#二 100 5.3.2 リーダライpSm作モード設定 100 5.3.3 Rアタグ動作モード設定 100 5.3.4 汎用ボート設定 100 5.3.5 アンラナ切留設定 100 5.3.6 設定保存/復元 110 5.3.7 S4種設定 2 110 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 117 6.1 EEPROM設定 117 6.1.2 ブザー・専用メニュー[TR3-G001B] 117 6.1.2 ブザー/音声設定 117 6.1.3 集電センサー設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 集電センサー設定 122 6.1.6 外部リレー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 名種設定 123 6.19 設定保存/復元 133 6.19 設定保存/復元 133 6.10 小期化 136 6.11 カワント協定 134 6.12 <td>5.2.6</td> <td>各種設定 1</td> <td></td>	5.2.6	各種設定 1	
5.3 EEPROM群棚設定(POMVERSION1.35 以降) 96 5.3.1 EEPROM設定一覧 100 5.3.2 U-ダライタ助作モード設定 100 5.3.3 RFダグ動作モード設定 100 5.3.4 沢用ボート設定 100 5.3.5 アンテナ切替設定 100 5.3.6 各種設定 2 100 5.3.7 S基礎設定 4 100 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 6.1 EEPROM設定 116 6.1.1 EEPROM設定 122 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.4 #APA線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 122 6.1.6 外部リレー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 122 6.1.9 設定保存/復元 133 6.19 設定保存/復元 133 6.10 が部化ードの読み取り 144 6.2 ゲート動作モードの読み取り 142 6.3 ブートンド数の読み取り 144 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部ルレー大数の読み取り 144	5.2.7	設定保存/復元	
5.3.1 EEPRONR設定一覧 100 5.3.2 リーダライタ動作モード設定 101 5.3.3 RFダづ物作モード設定 102 5.3.4 汎用ボート設定 103 5.3.5 アンテナ切替設定 104 5.3.6 各種設定 1 106 5.3.7 S4種設定 2 110 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定一覧 117 6.1.2 ブザー/音声設定 116 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.5 紙電センサー設定 122 6.1.6 各種設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 122 6.1.9 小部作モードの読み取り 126 6.10 小部作モードの読み取り 126 6.1.10 小部作モードの読み取り 136 6.1.2 ブザー/ランブノにD/外部リレー状態の読み取り 144 6.3 プサード動作モードの読み取り 144 6.4 プザー/ランブノにD/外部リレー状態の読み取り 144 6.5 プザー/ランブノビD/外部リレーが態の読み取り 144 6.6 カウント値の読	5.3	EEPROM詳細設定[ROMversion1.35 以降]	
5.3.2 リーダライタ動作モード設定 101 5.3.3 RFタグ動作モード設定 102 5.3.4 RFタグ動作モード設定 104 5.3.5 アンテナ切替設定 104 5.3.6 各種設定 2 110 5.3.7 各種設定 2 111 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 二 116 6.1.1 EEPROM設定 112 6.1.2 ブザー/育声設定 116 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.4 朱が線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 122 6.1.6 外部リー設定 122 6.1.7 大数カウント設定 123 6.1.8 各種設定 133 6.19 設定保存/復元 133 6.19 設定保存/復元 134 6.1 小部リー版上ードの読み取り 142 6.2 ゲート動作モードの読み取り 142 6.3 グート動作モードの読み取り 142 6.4 ブザー/ランブノED/外部リーレサW 認の制御 144 6.7 赤外線センサー状認の読み取り 144	5.3.1	EEPROM設定一覧	100
53.3 RF9グ動作モード設定 102 53.4 汎用ポート設定 103 53.5 アンテナ切智設定 104 53.6 各種設定 2 110 53.7 各種設定 2 110 53.8 第定保存/復元 112 第6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 第 117 6.1.2 ブザー/音声設定 118 6.1.3 第官センサー設定 122 6.1.4 赤が線センサー設定 122 6.1.5 集電センサー設定 122 6.1.6 各種設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 122 6.1.9 基定保存/復元 133 6.10 初期化 133 6.11 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの書を込み 144 6.4 ブザー/ランプレビレノ林部リレー状態の読み取り 144 6.5 オー動作モードの書を込み 144 6.6 介部リレー解除スイッデノンレレ状態の読み取り 144 6.6 介部リレー解除スイッデノンレレ状態の読み取り 144 6.7 オー動作車用メニュー[TR3-G003] 144 <tr< th=""><td>5.3.2</td><td>リーダライタ動作モード設定</td><td> 101</td></tr<>	5.3.2	リーダライタ動作モード設定	101
5.3.4 汎用ボート設定 103 5.3.5 アンテナ切替設定 104 5.3.6 各種設定1 106 5.3.7 各種設定2 110 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定一覧 116 6.1.1 EEPROM設定一覧 117 6.1.2 ブザー/音声設定 118 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.4 赤外緑センサー設定 122 6.1.5 朱電センサー設定 122 6.1.6 外部リレー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 122 6.1.9 設定保存/復元 133 6.10 初期化 133 6.11 初期化 138 6.2 ゲート動作モードの書を込み 140 6.4 ブザー/ランプノLED/外部リレー状態の読み取り 144 6.5 ブザー/ランプノLED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレーマガンプノLED/外部リレー状態の読み取り 144 6.7 オッ省とゲーマ、状態の読み取り 145 6.8 集電センサー状態の読み取り 145	5.3.3	RFタグ動作モード設定	
53.5 アンテナ切替設定 104 53.6 各種設定 1 106 5.3.7 各種設定 2 111 53.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 117 6.1.1 EEPROM設定 117 6.1.2 ブザー/音声設定 117 6.1.3 ランブ設定 120 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 K電センサー設定 122 6.1.6 外部リレー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 123 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.10 初増化 133 6.1.10 初増化 134 6.2 グート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.6 外部リレー線除スイッチ/ワDPSW状態の読み取り 144 6.7 赤が線センサー状態の読み取り 144 6.8 第電レンサー状態の読み取り 144 6.7 カウント値を含みの 147	5.3.4	汎用ポート設定	103
5.3.6 各種設定1 106 5.3.7 各種設定2 110 5.3.8 設定保存/復元 112 第 6 章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 117 6.1.1 EEPROM設定 117 6.1.2 ブザー/音声設定 117 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 集電センサー設定 122 6.1.6 外部リレー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 122 6.1.8 各種設定 123 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.9 勘定保存/復元 133 6.1.1 初期化 134 6.2 ゲート動作モードの読み取り 134 6.3 ゲート動作モードの読み取り 144 6.6 外部リレー製成 142 6.7 ブザー/支ンブ/LED/外部以し大態の読み取り 144 6.8 集電センサー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー製成 145 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 <t< th=""><td>5.3.5</td><td>アンテナ切替設定</td><td> 104</td></t<>	5.3.5	アンテナ切替設定	104
5.3.7 各種設定 2	5.3.6	各種設定 1	106
53.8 設定保存/復元 112 第6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 116 6.1.1 EEPROM設定 117 6.1.2 ブザー/音声設定 122 6.1.3 方ンブ設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 122 6.1.6 糸部しー設定 127 6.1.7 人数カウント設定 127 6.1.8 各種設定 133 6.1.0 初期化 136 6.1.10 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 144 6.3 グート動作モードの読み取り 144 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.5 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 オ部レー「解念ペッチン「DEW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 紫電センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 紫電センサー状態の読み取り 144 6.1 カウント値の読み取り 145 6.1 カウント値の読み取り 146	5.3.7	各種設定 2	
第6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B]	5.3.8	設定保存/復元	
第6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 115 6.1 EEPROM設定 117 6.1.1 EEPROM設定 117 6.1.2 ブザー、「音声設定 117 6.1.3 テンブ設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 122 6.1.6 朱電センサー設定 122 6.1.7 人数カウント設定 126 6.1.8 各種設定 133 6.1.0 初期化 136 6.1.1 朝散定保存、復元 133 6.1.1 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 136 6.3 ゲーー動作モードの読み取り 140 6.4 ブザー/ランブノLED/外部リレー状態の読み取り 144 6.5 ブザー/ランプレED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 オデレー教験をなりテノンPSW状態の読み取り 144 6.8 焦電センサー状態の読み取り 144 6.8 焦電センサー状態の読み取り 144 6.9 カウント値の読み取り 144 6.10 カウント値の読み取り 145 6.11 カウント値の読み取り <td< th=""><th></th><th></th><th></th></td<>			
6.1 EEPROM設定一覧 116 6.1.1 EEPROM設定一覧 117 6.1.2 ブザー/音声設定 118 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 127 6.1.6 小部リレー設定 127 6.1.7 人数カウント設定 127 6.1.8 各種設定 133 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.9 初定保存/復元 133 6.1.9 初定保存/復元 133 6.1 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 グーサーカキモードの読み取り 142 6.5 ブザー/ランプノLED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー雑胞の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 熊電センサー状態の読み取り 144 6.9 カウント値の読み取り 144 6.1 カウント値の読み取り 144 6.1 カウント値の読み取り 144 6.2 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 156 <td< th=""><th>第6章</th><th>ゲート専用メニュー[TR3-G001B]</th><th>115</th></td<>	第6章	ゲート専用メニュー[TR3-G001B]	115
6.1.1 EEPRON設定一覧 117 6.1.2 ブザー/音声設定 118 6.1.3 ランブ設定 120 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 127 6.1.6 外部リレー設定 127 6.1.7 人数カウンド設定 127 6.1.8 各種設定 128 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.0 初川化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書を込み 140 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 集電センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 小力ント値の読み取り 144 6.1 カウント値の読み取り 145 6.10 カウント値の読み取り 145 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156	6.1	EEPROM設定	
6.1.2 ブザー/音声設定 118 6.1.3 ランブ設定 122 6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 127 6.1.6 外部リレー設定 127 6.1.7 人数カウント設定 127 6.1.8 外部リレー設定 127 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.0 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.5 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー保険スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.6 外部リレー保険スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 ホケリント値の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 144 6.9 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値を書を込み 147 6.11 カウント値の読み取り 145 7.1.1 EEPROM設定 155 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 1	6.1.1	EEPROM設定一覧	
61.3 ランブ設定 120 61.4 赤外線センサー設定 122 61.5 焦電センサー設定 127 61.6 小部リレー設定 127 61.7 人数カウント設定 127 61.8 各種設定 133 61.9 設定保存/復元 133 61.10 初期化 136 62 ゲート動作モードの書き込み 142 63 ゲート動作モードの書き込み 142 64 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 143 6.6 外部リレー解除スイッチノDIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 焦電センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 魚電センサー状態の読み取り 144 6.7 ホケ線の読み取り 145 6.8 魚電センサー状態の読み取り 145 6.10 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の書を送し 157 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 156	6.1.2		
6.1.4 赤外線センサー設定 122 6.1.5 焦電センサー設定 125 6.1.6 外部リレー設定 127 6.1.7 人数カウント設定 126 6.1.8 各種設定 131 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.0 初期化 133 6.1.10 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 焦電センサー状態の読み取り 144 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の読み取り 146 6.11 カウント値の読み取り 145 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 166 7.1.5 外部リレー設定 166	6.1.3	ランプ設定	120
6.1.5 焦電センサー設定 125 6.1.6 外部リレー設定 127 6.1.7 人数カウント設定 129 6.1.8 各種設定 133 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.0 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー解除スイッチノのPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.7 ホウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の読み取り 146 6.11 カウント値の読み取り 146 6.11 カウント値の読み取り 145 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 156 7.1.5 外部リレー設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 156	6.1.4	赤外線センサー設定	
6.1.6 外部リレー設定 127 6.1.7 人数カウント設定 128 6.1.8 各種設定 133 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.0 初期化 136 6.1.0 初期化 136 6.1.0 初期化 136 6.1.0 初期化 137 6.1.0 初期化 138 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書さ込み 140 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 146 6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.11 カウント値の読み取り 147 6.11 カウント値の読み取り 147 6.11 カウント値の読み取り 147 7.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 157 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 166 7.1.5 <td>6.1.5</td> <td>焦雷センサー設定</td> <td></td>	6.1.5	焦雷センサー設定	
6.1.7 人数カウント設定 129 6.1.8 各種設定 131 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.0 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の制御 143 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 集電センサー状態の読み取り 144 6.7 ホクト検察とメーッ状態の読み取り 144 6.8 集電センサー状態の読み取り 144 6.7 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の読み取り 144 6.11 カウント値の読み取り 145 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランブ設定 166 7.1.1 EEPROM設定 166 7.1.5 外部リレー設定 166 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 166	6.1.6	Minio (1)	
6.1.8 各種設定 131 6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.10 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの読み取り 140 6.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 焦電センサー状態の読み取り 144 6.7 ホク線センサー状態の読み取り 144 6.8 ホ電センサー状態の読み取り 144 6.7 ホクッ線センサー状態の読み取り 144 6.8 集電センサー状態の読み取り 144 6.7 ホクシド値送信タイマのリセット 145 6.8 集電センサー状態の読み取り 147 6.10 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の読み取り 145 7.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 164 7.1.5 外部リレー設定	6.1.7	人数カウント設定	
6.1.9 設定保存/復元 133 6.1.10 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.8 焦電センサー状態の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の読み取り 146 6.11 カウント値の読み取り 146 6.11 カウント値の読み取り 147 6.11 カウント値の読み取り 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第 7 章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 赤杉線センサー設定 164 7.1.5 外部リレー会定 164 7.1.6 人数カウント設定	6.1.8	各種設定	
6.1.10 初期化 136 6.2 ゲート動作モードの読み取り 138 6.3 ゲート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランプノLED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプノLED/外部リレー状態の読み取り 144 6.6 外部リレー解除スイッチノOIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.7 ホケ線をクイマのリセット 144 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の読み取り 145 6.11 カウント値の読み取り 145 6.11 カウント値の読み取り 145 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 ホケ線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 166 7.1.8 各種設定 170 7.1.10 初期化 172	6.1.9	設定保存/復元	
6.2 ゲート動作モードの読み取り	6.1.1	0 初期化	
6.3 ゲート動作モードの書き込み 140 6.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御 143 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 145 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の読み取り 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第 7 章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 155 7.1.1 EEPROM設定 155 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 157 7.1.3 ランブ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 164 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 176 </th <td>6.2</td> <td>ゲート動作モードの読み取り</td> <td> 138</td>	6.2	ゲート動作モードの読み取り	138
6.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 142 6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り 143 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値送信タイマのリセット 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第 7 章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 164 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.1.2 ゲート動作モードの読み取り 176 7.1.3 ランプ設定 166 7.1.4 赤外線センサー設定 <t< th=""><td>6.3</td><td>ゲート動作モードの書き込み</td><td></td></t<>	6.3	ゲート動作モードの書き込み	
6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御 143 6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の読み取り 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003専用設定 166 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.10 初期化 172 7.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 176 7.3 ゲート動作モードの読み取り 176	6.4	ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り	
6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り 144 6.7 赤外線センサー状態の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の読み取り 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランプ設定 156 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 166 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003専用設定 166 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの読み取り 178	6.5	ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御	
6.7 赤外線センサー状態の読み取り 145 6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値の書き込み 147 6.11 カウント値の読み取り 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 156 7.1.3 ランブ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 164 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	6.6	外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り	
6.8 焦電センサー状態の読み取り 146 6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値送信タイマのリセット 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザーノ音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 164 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 173 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	6.7	赤外線センサー状態の読み取り	
6.9 カウント値の書き込み 147 6.10 カウント値送信タイマのリセット 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定一覧 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 166 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの読み承 180	6.8	焦電センサー状態の読み取り	
6.10 カウント値送信タイマのリセット 148 6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 166 7.1.8 各種設定 170 7.1.10 初期化 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	6.9	カウント値の書き込み	
6.11 カウント値の読み取り 149 第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 156 7.1.1 EEPROM設定 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003専用設定 166 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	6.10	カウント値送信タイマのリセット	
第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003] 154 7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定一覧 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 168 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.3 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	6.11	カウント値の読み取り	149
第7年 グーマチボノーユ [INS G003]		ゲート車田メニュー[TP3-C002]	154
7.1 EEPROM設定 155 7.1.1 EEPROM設定一覧 156 7.1.2 ブザー/音声設定 157 7.1.3 ランプ設定 159 7.1.4 赤外線センサー設定 161 7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003専用設定 166 7.1.8 各種設定 168 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	777 / 早		
7.1.1 EEPROM設定一覧	7.1	EEPROM設定	155
7.1.2 ブザー/音声設定	7.1.1	EEPROM設定一覧	156
7.1.3 ランプ設定	7.1.2	ブザー/音声設定	157
7.1.4 赤外線センサー設定	7.1.3	ランプ設定	159
7.1.5 外部リレー設定 164 7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003 専用設定 168 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	7.1.4	赤外線センサー設定	161
7.1.6 人数カウント設定 166 7.1.7 G003専用設定 168 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	7.1.5	外部リレー設定	164
7.1.7 G003 専用設定 168 7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	7.1.6	人数カウント設定	166
7.1.8 各種設定 170 7.1.9 設定保存/復元 172 7.1.10 初期化 175 7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み 180	7.1.7	G003 専用設定	168
7.1.9 設定保存/復元	7.1.8	各種設定	170
7.1.10 初期化	7.1.9	設定保存/復元	
7.2 ゲート動作モードの読み取り 178 7.3 ゲート動作モードの書き込み	7.1.1	0 初期化	175
7.3 ゲート動作モードの書き込み	7.2	ゲート動作モードの読み取り	
	7.3	ゲート動作モードの書き込み	180

7.4	ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り	
7.5	ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御	
7.6	外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り	
7.7	赤外線センサー状態の読み取り	
7.8	カウント値の書き込み	
7.9	カウント値送信タイマのリセット	
7.10	音声スピーカ音量の読み取り[ロータリーSW]	
7.11	音声スピーカ音量の書き込み[EEPROM]	
7.12	IO基板ROMバージョンの読み取り	
7.13	音声&ランプの制御	
7.14	カウント値の読み取り	
変更履	歴	

第1章 セットアップ

本章では、本ソフトウエアのセットアップ手順を説明します。

1.1 動作環境

セットアップを始める前に、お使いになっているパソコンの動作環境をご確認ください。 本ソフトウエアを快適にご利用いただくためには、以下の環境を満たしていることが必要です。

CPU 周波数	: 1.0 GHz 以上
メモリ容量	: 512 MB 以上
OS	: Windows XP Professional Edition 32bit版 SP2 以上
	Windows Vista Business Edition 32bit版 SP1 以上
	Windows 7 Professional Edition 32bit 版
	Windows 7 Professional Edition 64bit 版
	Windows 7 Enterprise Edition 64bit 版
ディスプレイ解像度	:1024 x 768 以上

※ ただし、64bit 版 OS で動作させた場合においても本アプリケーションは(64bit 版 OS 上で) 32bit アプリケーションとして動作します。

また、本ソフトウエアには、外部ファイルからのデータ読み取りや外部ファイルへのデータ出力機 能が備えられています。それらの機能を利用する場合には、管理者権限を必要とする場合がありま すのでご注意ください。

1.2 リーダライタ

本ソフトウエアがサポートするリーダライタは以下のとおりです。

● S6700 シリーズリーダライタ

レンジ	S6700 シリーズ			
(出力)	RS-232C TCP/IP USB		\mathbf{CF}	
ショートレンジ		TR3-C201		—
(100mW)	TR3-D002B	—	TR3-U002B	—
	TR3-D002B-C	—	TR3-U002B-C	—
	TR3-D002C-8	—	TR3-U002C-8	—
ミドルレンジ		TR3-L301		—
(300mW)	TR3-MD001E-L/-S	—	TR3-MU001E-L/-S	—
	TR3-MD001C-8	-	TR3-MU001C-8	—
ロングレンジ	TR3-LD003C-L/-S	TR3-LN003D-L/-S	—	_
(1W)	TR3-LD003D-4 TR3-LD003D-8	TR3-LN003D-8	—	—
ロングレンジ (4W)	TR3-LD003GW4LM-L TR3-LD003GW4P	TR3-LN003GW4LM-L	—	—
ゲートアンテナ	TR3-G001B		_	
(1.2W/4W)	TR3-G003			
CF (45mW)	_	_	_	TR3-CF002

● TR3-C202 系リーダライタ

レンジ (出力)	製品型式
ショートレンジ	TR3-C202
(100mW)	TR3-C202-A0-1 (FCC 規格認証)
	TR3-C202-A0-8(FCC 規格認証)

1.3 インストーラの準備

本ソフトウエアのインストーラをご準備ください。 インストーラは、WEB サイトからダウンロードすることができます。

● WEBサイト http://www.takaya.co.jp/products/rfid/manuals.htm

本ソフトウエアのインストーラは次のファイルから構成されます。 Install------DotNetFX------dotnetfx.exe

setup.exe ファイルをダブルクリックするとインストールウィザードが起動します。

1.4 インストール

- 1) 管理者権限のあるローカルユーザアカウントで Windows にログオンしてください。
- 2) Windows で動作中のソフトウエアをすべて終了させてください。
- setup.exe ファイルをダブルクリックするとインストールウィザードが起動します。
 本ソフトウエアは、Microsoft .NET Framework 2.0 (以降、フレームワーク 2.0) 上で動作するソフトウエアです。
 お使いのパソコンにフレームワーク 2.0 がインストールされていない場合は、始めにフレームワーク 2.0 のインストールが開始されます。
 以降、4)~5)はフレームワーク 2.0 のインストールに関する説明です。
 お使いのパソコンにフレームワーク 2.0 がインストールされている場合は、4)~5)がスキップされます。
- 4) フレームワーク 2.0 のライセンス条項が表示されます。 内容をよく読み納得いただいた上で、[同意する]ボタンをクリックしてください。

🐞 TR3RWManager セットアップ 🛛 🔀
インストールするコンポーネント
.NET Framework 2.0 (x86)
次のライセンス条項をお読みください。PageDown キーを使ってスクロールしてください。
マイクロソフト ソフトウェア追加使用許諾契約書 MICROSOFT .NET FRAMEWORK 2.0 FOR MICROSOFT WINDOWS OPERATING SYSTEM MICROSOFT WINDOWS INSTALLER 2.0
MICROSOFT WINDOWS INSTALLER 3.1 マイクロソフト (お住まいの地域によっては、その子会社) は、本追加ソフトウェアのラ イヤンスをお客様に供与します。 Microsoft Windows オペレーティング システム ソフ 🎽
印刷用のライセンス条項 (MSLT) を表示する ライセンス条項に同意しますか?
「同意しない」を選ぶとインストールを中止します。インストールするには、この契約に同意 してください。
<u>同意する(A)</u> 同意しない(D)

5) インストールが終了するまでしばらくお待ちください。 この作業には数分かかることがあります。

🐞 TR3 F	RWManager セットアップ	
6	.NET Framework 2.0 (x86) をインストールしています	

6) 本ソフトウエアのセットアップウィザードです。
 [次へ]ボタンをクリックしてください。

🚰 TR3RWManager v1.3.0.0	
TR3RWManager v1.3.0.0 セットアップ ウィザードへようこそ	
インストーラは TR3RWManager v1.3.0.0 をインストールするために必要な手順を示	します。
この製品は、著作権に関する法律および国際条約により保護されています。この製 または一部を無断で複製したり、無断で複製物を頒布すると、著作権の侵害となり 注意ください。	品の全部 ますのでご
キャンセル 〈 戻る(B) こ	<u> </u>

7)本ソフトウエアのインストールフォルダと使用するユーザアカウントを選択してください。 既定のインストールフォルダは以下の通りです。フォルダが存在しない場合は、自動的に作成 されます。

C:¥Program Files¥タカヤ株式会社¥TR3Software¥TR3RWManager v1.3.0.0¥

既定のインストールフォルダを変更する場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストールフ オルダを選択してください。以降、本書では、既定のインストールフォルダにインストールさ れたこととして説明します。

本ソフトウエアの使用者を現在ログイン中のユーザアカウントに限定する場合は、[このユーザ ーのみ]を選択してください。

お使いのパソコンに登録されたすべてのユーザアカウントで使用する場合は、[すべてのユーザ ー]を選択してください。

🔀 TR3RWManager v1.3.0.0	
インストール フォルダの選択	
インストーラは次のフォルダへ TR3RWManager v1.3.0.0 をインストールし このフォルダにインストールするには[次へ]をクリックしてください。別の5 ルするには、アドレスを入力するか[参照]をクリックしてください。	ます。 フォルダにインストー
C¥Program Files¥匀力ヤ株式会社¥TR3Software¥TR3RWManager,	参照(<u>R</u>) ディスク領域(<u>D</u>)
TR3RWManager v1.3.0.0 を現在のユーザー用か、またはすべてのユーザー用 ③ すべてのユーザー(E) ○ このユーザーのみ(M)	用にインストールします:
キャンセル < 戻る(B)	>>>>

インストールの準備が整いました。
 [次へ]ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

🛃 TR3RWManager v1.3.0.0	
インストールの確認	
TR3RWManager v1.3.0.0 をインストールする準備ができました。	
[次へ]をクリックしてインストールを開始してください。	
キャンセル < 戻る(B)	次へ図>

インストールが終了しました。
 [閉じる]ボタンをクリックしてください。

i∰ TR3RWManager v1.3.0.0	
インストールが完了しました。	
TR3RWManager v1.3.0.0 は正しくインストールされました。	
終了するには、 [閉じる] をクリックしてください。	
Windows Update で、.NET Framework の重要な更新があるかどうかを確認して	ください。
キャンセル < 戻る(B)	閉じる(©)

10) デスクトップ上に本ソフトウエアのショートカットが作成されます。



11) プログラムメニューに本ソフトウエアのショートカットが作成されます。



第2章 起動と終了

本章では、本ソフトウエアの起動方法と終了方法を説明します。

2.1 起動する

本ソフトウエアの起動方法を説明します。



デスクトップ上に作成されたショートカットアイコン TR3RWMana... をダブルクリックすると 「TR3RWManager」が起動します。

または、スタートメニューから[プログラム] – [TR3Software] – [TR3RWManagerV130]をクリッ クすると「TR3RWManager」が起動します。

	1	プログラム(型)	, 📾	TR3Software	TR3RWManagerV130
onal	C	最近使ったファイル(D)	•	Weigelt	
essid	V	設定(2)	•	*	ALL DESCRIPTION OF THE OWNER
Prof	P	検索©)	•		
XP	?	ヘルプとサポート(<u>H</u>)	1		 and the state of the second
dows		ファイル名を指定して実行(<u>R</u>)			
Win	0	シャットダウン(山		Specific 4	

起動すると次の画面が表示されます。

💾 T R3 RWManager [T R3-G003]						
ファイル(E) リータライク制御コマンド(B) リータライ	雑類をコマンド(型) RFタグ通信コマンド(型) リーダライタEEPROME設定(型) ゲート専用メニュー(型) 通信設定(型) ヘルプ(型)					
リーダライタ動作モード 通信できません	設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定					
コマンド 連続インパンド RD100P	オートステッシ ReadBytes WriteBytes デージジリア(F9)				
受信データー覧送受信ログ		1				
	リーダライタ接続インターフェース ○ シリアルインターフェース ③ LANインターフェース					
	シリアルインターフェース LANインターフェース					
	リーダライダ通信方式 サーバ ● サーバ IPアドレス: 10 IPアドレス: 10 16 77 ● 自動クライアント 自動クライアント接続 リーダライターPC) ICPボート番号: 2035 金 リーダライタがものコネクション要求に応答する為の TOPボート番号: 2035 金 リーダライタかものコネクション要求に応答する為の TOPボート番号: 2035 金 リーダライタのLANインターフェース設定 ネットワーク接続を開く リーダライタのIPアドレス: 自動技術設定:キーブアライブ設定など LANインターフェースの設定を行います。 設定					

2.2 終了する

メニューバーの[ファイル] – [終了]をクリックすると「TR3RWManager」が終了します。

受信データー覧 送受信ログ 02/16 16:29:46.093	[cmt] /* コネクションの確立 */
02/16 16:29:46.171	[cmt] コネクションの確立に成功しました。
02/16 16:29:46.171	[cmt] IPアドレス : 10.16.77.170
02/16 16:29:46.171	icmt」 ホート留号:10777
02/16 16:29:46.171	[cmt] /* ROMバージョンの読み取り */
02/16 16:29:46.187	[send] 02:00:4F:01:90:03:E5:0D
02/16 16:29:46.312	[recv] 02 00 30 0A 90 31 33 30 30 36 30 38 32 38 03 98 0D
02/16 16:29:46.312	[cmt] ROMバージョン:1.30 060828
02/16 16:29:46.312	[met] (* リーヴェンク新作用・1つ語の取用)*(
02/16 16:29:46.312	lowic) /* クータフィン動/Fモートの記(の取文の */
02/16 16:29:46.312	[send] 02 00 4F 01 00 03 55 0D
02/16 16:29:46.375	[recv] 02 00 30 09 00 00 00 10 00 00 00 00 03 5A 0D
02/16 16:29:46.375	[cmt] リーダライタ動作モード : コマンドモード
02/16 16:29:46.375	[cmt] アンチコリジョン : 有効
02/16 16:29:46.375	LontJ 記み取り動作 : 理統記み取り
02/16 16:29:46.375	[ont] ブザー : 鳴らす
02/16 16:29:46.375	[ont] 送信データ : ユーザデータのみ
02/16 16:29:46.375	[cmt] 通信速度 : 19200bps

第3章 リーダライタとの通信を開始する

本章では、リーダライタとの通信を開始する方法について説明します。

3.1 RS-232C 通信

RS-232C で接続されたリーダライタとの通信方法を説明します。

※ RS-232Cを USB に変換するコンバータ コンバータを利用して RS-232C インターフェースリーダライタを USB 接続する場合には、各 コンバータメーカ製の専用ドライバが必要になることがあります。詳細は、各コンバータの仕 様書等を参照ください。 なお、WEB サイトの FAQ の中で、弊社にて動作確認を実施したコンバータを紹介しています。 http://www.takaya.co.jp/products/rfid/faq.htm 3.1.1 インターフェースの設定画面(シリアルインターフェース)



- リーダライタ接続インターフェース リーダライタのインターフェースを選択します。 RS-232C または USB での接続の場合は、シリアルインターフェースを選択します。
- ② 選択されている COM ポート
 現在、選択されている COM ポートの情報が表示されます。
- COM ポート一覧 パソコン内で認識されている COM ポートの一覧です。 リーダライタの接続された COM ポートを一覧から選択します。
- ④ 通信速度
 リーダライタと通信する際の通信速度を選択します。
- デバイスマネージャを開く Windowsのデバイスマネージャを起動します。

⑥フロー制御

フロー制御を選択します。

- ・無手順
- $\boldsymbol{\cdot} \operatorname{RTS/CTS}$

フロー制御に対応しないリーダライタと通信する場合には「無手順」を選択してください。 フロー制御に対応しないリーダライタに対して「RTS/CTS」を選択した場合は、リーダライタ と通信することができません。

⑦ リーダライタ自動検出

リーダライタを自動で検出して通信を開始します。

3.1.2 デバイスマネージャから COM ポートを確認する

COM ポート(USB ドライバのインストールによって仮想的に割り当てられた COM ポートを含む) をデバイスマネージャから確認します。 デバイスマネージャは、インターフェース設定画面(シリアルインターフェース)上の[デバイスマ

ネージャを開く]ボタンをクリックすることで起動します。 また、マイコンピュータ – [プロパティ] – [システムのプロパティ – ハードウェア] – [デバイスマ ネージャ]から起動することも可能です。

管理者権限のないユーザアカウントで Windows にログオンしている場合、次のような警告メッセージが表示されますが COM ポートの確認は可能です。

[OK]ボタンをクリックするとデバイスマネージャが起動します。 デバイスマネージャ
ア
デバイスを削除したり、デバイスのプロパティやドライバを変更したりするのに必要なセキュリティ特権が不足しています。サイト管理者に問い合わせるか、または
ログアウトしてから管理者としてもう一度ログインし、再実行してください。

次の画面では、[ポート(COM と LPT)] – [USB Serial Port(COM10)]より、COM ポートの 10 番が 割り当てられていることが確認できます。

島 デバイス マネージャ	
ファイル(E) 操作(A) 表示(V) ヘルブ(H)	
$ \begin{array}{c} \bullet \\ \bullet $	

3.1.3 COM ポートを手動で入力して通信を開始する

リーダライタとの通信に使用する COM ポートとリーダライタの通信速度が分かっている場合には、 それぞれを手動で入力してリーダライタとの通信を開始します。

COM ポート:6、通信速度:19200bps で通信を開始する場合には、次の画面のように入力して[OK] ボタンをクリックします。

💾 T R3 RW Manager						
	雑数定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) 追	創言設定(<u>C</u>) ヘルプ(H)				
リーダライタ動作モード 通信できません	設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes	インターフェース設定				
コマンド 遠急化パンド RD100P	Interface	×	データクリア(F9)			
受信データー覧送受信ログ	インターフェースの設定					
	リーダライタ接続インターフェース ③ シリアルインターフェース ○ LANインターフェース					
	シリアルインターフェース LANインターフェース					
	シリアルポート番号 通信速度					
	COM6 COM3 COM4 COM5 COM7 ③ 19200bps ③ 38400bps ③ 38400bps ブロー制御:無手順 「リーダライタ自動検出 認識をれているシリアルボートを順次検査して、リーダライタとの 通信ボートを見つけます。	K				

- COM ポート一覧 「COM6」を選択します。 現在選択されている COM ポートの表示が「COM6」となります。
- 通信速度
 「19200bps」を選択します。
- フロー制御 フロー制御に対応しているリーダライタと通信する場合には、リーダライタと同じ設定を選択 します。フロー制御に対応しないリーダライタと通信する場合には、「無手順」を選択します。
- リーダライタ自動検出
 チェックを外します。
- ※ リーダライタ自動検出 チェックが入っている場合は、手動入力された内容は無効となり、「3.1.4 リーダライタを自動 で検出して通信を開始する」に記載された自動検出処理が優先して行われます。

リーダライタとの通信が正常に開始された場合は、次の画面のように表示されます。 COM ポートのオープンに成功し、リーダライタの ROM バージョンと動作モードの読み取りが行われています

🖞 TR3RWManager
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定(C) ヘルブ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 COM6 19200bps
コマンド 連続インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データクパア (F9)
<pre>08/09 10:37:26.147 [cmt] /* COMボートのオーブン */ 06/09 10:37:26.210 [cmt] COMボートのオーブンに成功しました。 08/09 10:37:26.210 [cmt] COM : 6 06/09 10:37:26.210 [cmt] 通信速度 : 19200bps 08/09 10:37:26.210 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 06/09 10:37:26.335 [rev] 02 00 4F 01 90 03 E5 00 08/09 10:37:26.335 [rev] 02 00 30 0A 90 31 30 32 30 54 52 46 30 30 03 DE 0D 08/09 10:37:26.335 [rev] 02 00 30 0A 90 31 30 32 30 54 52 46 30 30 03 DE 0D 08/09 10:37:26.335 [rev] 02 00 30 0A 90 31 30 32 30 54 52 46 30 30 03 DE 0D 08/09 10:37:26.350 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */ 06/09 10:37:26.350 [send] 02 00 4F 01 00 03 55 00 08/09 10:37:26.381 [rev] 02 00 30 09 00 00 02 20 00 00 00 00 3 6A 0D 08/09 10:37:26.381 [rev] U - ダライタ動作モード : コマンドモード 08/09 10:37:26.381 [cmt] アンチコリジョン : 有効 06/09 10:37:26.381 [cmt] アンチコリジョン : 本有効 06/09 10:37:26.381 [cmt] ブザー : 鳴らさない 06/09 10:37:26.381 [cmt] ブザー : 鳴らさない 06/09 10:37:26.381 [cmt] 送信データ : ユーザデータ + UID 06/09 10:37:26.381 [cmt] 通信速度 : 19200bps</pre>

COM ポートのオープンに失敗した場合は、次の画面のように表示されます。 リーダライタとの通信に使用する COM ポート番号を再度確認ください。

U TR3RWManager	
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(E) リーダライク設定コマンド(G) RFカグ通信コマンド(E) リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログニ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 COM6	19200bps
コマンド 連続インペン内 RDL00P オートスキャン ReadBytes. WriteBytes. データリア	(F9)
受信データー覧 送受信ログ	
06/09 10:38:00.697 [cmt] /* COMボートのオーブン */ 06/09 10:38:00.712 [cmt] COMボートのオーブンに失敗しました。 06/09 10:38:00.712 [cmt] COM : 6 06/09 10:38:00.712 [cmt] 通信速度 : 19200bps	

リーダライタとの通信速度が異なっていた場合は、次の画面のように表示されます。 通信速度を変更して再試行するか、または「3.1.4 リーダライタを自動で検出して通信する」を参 照してリーダライタの自動検出を行ってください。

🗄 TR3 RWManager						
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(D) リーグライタEEPROM設定(E) 通信設定(Q) ヘルプ(L)						
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定	COM6 19200bps					
コマンド 連続インペントリ RDL00P オートスキッン ReadBytes WriteBytes	デ <i>ータ</i> クリア (F9)					
受信データー暫						
06/09 10:38:49.403 [cmt] /* COMボートのオーブン */ 06/09 10:38:49.497 [cmt] COMボートのオーブンに成功しました。 06/09 10:38:49.497 [cmt] COM : 6 06/09 10:38:49.497 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 06/09 10:38:49.497 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 0D 06/09 10:38:54.513 [recv] リーダライタは無応答です。						

3.1.4 リーダライタを自動で検出して通信を開始する

リーダライタとの通信に使用する COM ポート、またはリーダライタの通信速度が分からない場合には、リーダライタの自動検出処理を行ってください。

リーダライタ自動検出にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックすることでリーダライタの自動 検出処理が実行されます。

💾 TR3 RWManager		🔳 🗖 🔀
ファイル(E) リーダライタ制(師コマンド(E)) リーダライ	確認定コマンド(型) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(生) 通信	設定(2) ヘルプ(II)
リーダライタ動作モード 通信できません	設定ダイアログ ReaBytes / Write Bytes	インターフェース設定
コマンド 速気インペン円 RDL00P	Interface	▼ - ジルア (F9)
受信データー覧送受信ログ	インターフェースの設定	
	リーダライタ接続インターフェース ③ シリアルインターフェース ○ LANインターフェース	
	シリアルインターフェース LANインターフェース	
	<u>シリアルボート番号</u> 通信速度	
	COM6 ○ 9600bps COM4 ○ 9600bps COM6 ○ 19200bps COM7 ○ 38400bps	
	デバイスマネージャを開く	-
	 ✓ リーダライタ自動検出 認識をれているシリアルボートを損次検査して、リーダライタとの 通信ボートを見つけます。 	

- COM ポート一覧 任意の COM ポートを選択します。 自動検出を実施する場合、ここで選択された値は無視されます。 (どの値を選択しても動作に変わりありません)
- 通信速度

任意の通信速度を選択します。 自動検出を実施する場合、ここで選択された値は無視されます。 (どの値を選択しても動作に変わりありません)

● フロー制御
 フロー制御に対応しているリーダライタと通信する場合には、リーダライタと同じ設定を選択します。フロー制御に対応しないリーダライタと通信する場合には、「無手順」を選択します。

自動検出を実施する場合においても、本設定値は有効となります。 (選択されている値で自動検出処理が実施されます)

 リーダライタ自動検出 チェックします。 リーダライタの自動検出処理は、パソコン内で認識されている COM ポートを順次検査しながらリ ーダライタとの通信に使用する COM ポートを自動で探索・検出します。

パソコン内で COM3/COM4/COM6/COM7 が認識されている場合には、「COM3:通信速度 9600bps で確認」→「COM3:通信速度 19200bps で確認」→「COM3:通信速度 38400bps で確認」→「COM4:通信速度 9600bps で確認」、、のように検査を行い、正しい組み合わせが見つか るまで繰り返します。

正しい組み合わせが見つかった場合は、その時点で検査処理を中止してリーダライタとの通信を開始します。

リーダライタの自動検出処理が正常に終了すると次の画面のように表示されます。

当 TR3RWManager						
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) 通信設定(C) ヘルプ(H)						
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定	COM6 19200bps					
コマンド 連続インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	デ <i>ータ</i> クリア (F9)					
受信データー 暫						
06/09 10:42:46.866 [cmt] COMボートのオーブンに成功しました。	~					
06/09 10:42:46.866 [cmt] COM : 6						
06/09 10:42:46.866 [cmt] 通信速度 : 9600bps						
06/09 10:42:46.866 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */						
06/09 10:42:46.866 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 0D						
06/09 10:42:51.882 [recv] リーダライタは無応答です。						
06/09 10:42:52.944 [cmt] /* COMポートのオーブン */						
06/09 10:42:55.038 [cmt] COMボートのオーブンに成功しました。						
06/09 10:42:55.038 [cmt] COM : 6						
06/09 10:42:55.038 [cmt] 通信速度 : 19200bps						
06/09 10:42:55.038 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */						
06/09 10:42:55.038 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 0D						
06/09 10:42:55.147 [recv] 02 00 30 0A 90 31 30 32 30 54 52 46 30 30 03 DE OD						
06/09 10:42:55.147 [cmt] ROMバージョン:1.02 OTRF00						
06/09 10:42:55.257 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */						
06/09 10:42:55.257 [send] 02 00 4F 01 00 03 55 0D						
06/09 10:42:55.351 [recv] 02 00 30 09 00 00 02 20 00 00 00 00 03 6A 0D						
06/09 10:42:55.351 [cmt] リーダライタ動作モード : コマンドモード						
06/09 10:42:55.351 [cmt] アンチコリジョン :有効						
06/09 10:42:55.351 [cmt] 読み取り動作 : 連続読み取り						
06/09 10:42:55.351 [cmt] ブザー :鳴らさない						
06/09 10:42:55.351 [cmt] 送信データ : ユーザデータ + UID						
06/09 10:42:55.351 [cmt] 通信速度 : 19200bps						
1	×					

3.2 TCP/IP 通信

LAN に接続されたリーダライタ、または LAN クロスケーブルでパソコンに直接接続されたリーダ ライタとの通信方法を説明します。 3.2.1 インターフェースの設定画面(LAN インターフェース)

Interface		X			
	インターフェースの設定				
リーダライタ接続インターフ	エース	-			
1 🔿 シリアルインターフ	フェース 💿 LANインターフェース				
シリアルインターフェース	ANインターフェース	-			
リーダライタ通信方式ー	サーバ接続 (PC→リーダライタ)				
⁽²⁾ _{⊙ サーバ}	③IPアドレス: 10 16 77 170				
	④TCPポート番号: 10777 <				
○ 自動クライアント	自動クライアント接続 (リーダライタ→PC)				
	5 TCPポート番号: 3335 (1)				
	リーダライタからのコネクション要求に応答する為の TCPポート番号を設定します。				
	6 ネットワーク接続を開く				
リーダライタのLANインターフェース設定					
リーダライタのIPアドレス、自動接続設定、キープアライブ設定など CANインターフェースの設定を行います。					
OK Cancel					

- リーダライタ接続インターフェース リーダライタのインターフェースを選択します。
- ② リーダライタ通信方式 リーダライタとの通信方式を「サーバ接続方式」、「クライアント接続方式」から選択します。
- ③ IP アドレス(サーバ接続方式) リーダライタの IP アドレスを入力します。 この値は、通信方式に「サーバ接続方式」を選択した際に有効になります。
- ④ TCP ポート番号(サーバ接続方式)
 通信に利用するリーダライタ側の TCP ポート番号を入力します。
 この値は、通信方式に「サーバ接続方式」を選択した際に有効になります。
- ⑤ TCP ポート番号(自動クライアント接続方式) 通信に利用するパソコン側の TCP ポート番号を入力します。 この値は、通信方式に「自動クライアント接続方式」を選択した際に有効になります。
- ⑥ ネットワーク接続を開く
 Windows のネットワーク接続画面を起動します。
- ⑦ 設定 リーダライタの LAN インターフェース設定ツールを起動します。
 ツールの使用方法については、別紙「LAN インターフェース設定ツール IPSet 取扱説明書」を 参照ください。

- 3.2.2 リーダライタ通信方式(サーバ接続方式と自動クライアント接続方式)
 - サーバ接続方式 パソコン – リーダライタ間の通信において、パソコンをクライアント、リーダライタをサー バと見立てて通信を確立する接続方式をサーバ接続方式と表現しています。 サーバ接続方式では、パソコン側のアプリケーション(TR3RWManager)からリーダライタ の IP アドレスと TCP ポート番号を指定して通信の確立を要求します。 サーバ接続方式の詳細については、別紙「LAN インターフェース製品取扱説明書 2.4.サーバ 接続方式」を参照ください。
 - 自動クライアント接続方式

パソコン – リーダライタ間の通信において、パソコンをサーバ、リーダライタをクライアン トと見立てて通信を確立する接続方式を自動クライアント接続方式と表現しています。

自動クライアント接続方式では、リーダライタ側からパソコン側のアプリケーション (TR3RWManager) へ対して通信の確立を要求します。(パソコン側のアプリケーションは、 特定の TCP ポートでリーダライタからの通信確立要求を待ち受けます)

自動クライアント接続方式の詳細については、別紙「LAN インターフェース製品取扱説明書 2.2.自動クライアント接続方式」を参照ください。 3.2.3 パソコンの IP アドレスを変更する

パソコン – リーダライタ間で TCP/IP 通信を行うためには、双方の端末同士で IP アドレスとサブ ネットマスクを通信可能な状態に設定しておくことが必要です

本項では、リーダライタの IP アドレスとサブネットマスクが以下の設定であるケースを例に、パ ソコン側の設定変更手順を説明します。

リーダライタの IP アドレス: 10.16.77.170

リーダライタのサブネットマスク: 255.255.0.0(マスク長:16ビット)

なお、次に示す手順を行うには管理者権限のあるユーザアカウントで Windows にログオンしていることが必要です。

1) ネットワーク接続画面を起動する

Windowsのネットワーク接続画面を起動します。 ネットワーク接続画面は、インターフェース設定画面(ネットワークインターフェース)上の [ネットワーク接続を開く]ボタンをクリックすることで起動します。 また、マイネットワーク – [プロパティ]から起動することも可能です。

🏂 ネットワーク接続			
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気(こ入り(<u>A</u>) ツール(T) 詳細設定	(N) ヘルプ(H)	1
🜀 戻る 🕤 🕥 🔺 🏂 🔎 検知	索 🎼 フォルダ 🛄 🏾		
アドレス(D) 🕥 ネットワーク接続			🖌 🄁 移動
	▲ 名前	種類	状態
 新しい接続を作成する Windows ファイアウォールの 設定を変更する このネットワーク デバイスを無 効加にする この接続を修復する この接続の名前を変更する この接続の状況を表示する この接続の設定を変更する 	LAN または高速インタース ▲ローカル エリア接続 ▲1394 接続	トラト LAN または高速インターネ LAN または高速インターネ	接続 接続
その他 🙁			
コントロール パネル マイ ネットワーク マイ ドキュメント マイ コンピュータ			
	~ <		>

2) ローカルエリア接続のプロパティを開く

			構成()
の接続は次の項	目を使用します():		
 ✓ > Microso ✓ > ネットワ・ ✓ > ネーネットワ・ ✓ > インター 	ft TCP/IP version 6 -クモニタドライバ ペット プロトコル(TCP/IP)		^
<)			
インストール(説明 伝送制御プロ ネットワーク間 ルです。	♪ アンインストール トコル/インターネット プロトコ D通信を提供する、既定のひ	(U) フリ ル。相互接続され ソイド エリア ネット	ロパティ(<u>R)</u> たさまざまな フーク プロトコ
	領域にインジケータを表示す ているか利用不可能な場合	る(<u>W</u>) (ご通知する(M)	

管理者権限のないユーザアカウントで Windows にログオンしている場合、次のメッセージが 表示され、3) 以降の手順を行うことができません。

ローカル ネットワーク			
į	このプロパティシートの一部のコントロールにアクセスしたり変更したりするのに十分な特権がないため、一部のコントロールは無効になっています。		
	OK		
3) インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを開く

インターネット プロトコル (TCP/IP)のプロ	パティ				? 🔀
全般					
ネットワークでこの機能がサポートされている場 きます。サポートされていない場合は、ネットワー てください。	合は、IP i -ク管理者	設定を自 計に適切	自動的 Jな IP	に取得す 設定を問	ることがで い合わせ
○ IP アドレスを自動的に取得する(Q)					
◎ 次の IP アドレスを使う(S):	10				
IP <i>P</i> FUXΦ:	10	16	<i>II</i>	1/1	
サブネットマスク(型):	255	255	0	0	
デフォルトゲートウェイ(①):					
○ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得	身する(<u>B</u>)				
○次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):	-				
優先 DNS サーバー(P):					
代替 DNS サーバー(<u>A</u>):					
			C	言羊糸田言殳:	定()
	(C)K		キャンセル

IPアドレスとサブネットマスクを入力する
 IPアドレス入力欄に「10.16.77.171」を入力します。

	шлтт				
	暑会付 TP ≣	設定を自	白蛋白的	に取得す	ることがで
きます。サポートされていない場合は、ネットワ	フーク管理者	に適切	は、IP)	設定を問	い合わせ
○ IP アトレスを目動的に収得する (型) ○ 5 (5 (1) P アドレスを使う(S))					
IP アドレス型:	10	16	77	171	
サブネット マスク(山):	255	255	0	0	
デフォルト ゲートウェイ (<u>D</u>):					
○ ○ DNS サーバーのアドレスを自動的に取	(得する(<u>B</u>)				
┌─● 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):				
優先 DNS サーバー(<u>P</u>):					
代替 DNS サーバー(<u>A</u>):					
				詳細設	定₩
		_			

[OK]ボタンをクリックすることで入力した設定値が反映されます。

 パソコンに IP アドレス「10.16.77.171」を割り当てた理由 IPv4 ネットワークでは、全 32 ビットの IP アドレスをネットワークアドレスとホストア ドレスに分割して管理しています。
 同一のネットワークアドレスを持つ端末同士によって一つのネットワークが構成され、特 定のネットワーク内に属する端末同士は一意に割り当てられたホストアドレスによって 識別されます。

本項記載の設定例では、リーダライタのサブネットマスクを「255.255.0.0」と定義していますが、この定義は IP アドレスの前半 16 ビットをネットワークアドレス、後半 16 ビットをホストアドレスとすることを示しており、そのため前半 16 ビット(ネットワークアドレス)が等しく、且つ後半 16 ビット(ホストアドレス)が異なる「10.16.77.171」のIP アドレスをパソコン側に割り当てています。

リーダライタの IP アドレス	10.16.77.170
パソコンの IP アドレス	10.16.77.171

3.2.4 サーバ接続方式で通信を開始する

IPアドレス「10.16.77.170」の割り当てられたリーダライタとサーバ接続方式(パソコン側からリーダライタへ通信の確立を要求する方式)で通信を行う場合には、次の画面のように入力して[OK] ボタンをクリックします。

	インターフェースの設定
-ダライタ接続インターフェ 〇 シリアルインターフェ	ース ニース ③ LANインターフェース
リアルインターフェース LAN	Nインターフェース
リーダライタ通信方式	サーバ接続 (PC→リーダライタ)
 ● サーバ 	IPアドレス: 10 16 77 170
	TCPポート番号 10777 📚
○ 自動クライアント	自動クライアント接続 (リーダライタ→PC)
	TCPポート番号: 3335 💿
	リーダライタからのコネクション要求に応答する為の TCPボート番号を設定します。
	ネットワーク接続を開く
ノーダライタのLANインターフ:	エース設定
ノーダライタのIPアドレス、自動打 -ANインターフェースの設定を行	接続設定、キーファライブ設定など ういます。

- リーダライタ通信方式 「サーバ」を選択します。
- IP アドレス(サーバ接続方式) 「10.16.77.170」を入力します。 ここで入力する IP アドレスは、リーダライタの IP アドレスです。
- TCP ポート番号(サーバ接続方式) 「10777」を入力します。 ここで入力するTCPポート番号は、リーダライタ側が接続を待ち受けるTCPポート番号です。 製品の工場出荷時には「10777」が設定されています。 変更する場合は、別紙「LAN インターフェース設定ツール IPSet 取扱説明書」を参照ください。

リーダライタとの通信が正常に開始された場合は、次の画面のように表示されます。 通信の確立に成功し、リーダライタのROMバージョンと動作モードの読み取りが行われています。

🖺 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(I) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(Q) 通信設定(C) ヘルブ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170	10777
マンド 注続インベントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データクリア (.F9)
受信データー智 送受信口グ	
02/16 16:46:38.562 [cmt] /* コネクションの確立 */	
02/16 16:46:38.609 [cmt] コネクションの確立に成功しました。	
02/16 16:46:38.609 [cmt] IPアドレス:10.16.77.170	
02/16 16:46:38.609 [cmt] ボート番号 : 10777	
02/16 16:46:38.609 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */	
02/16 16:46:38.625 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 0D	
02/16 16:46:38.734 [recv] 02 00 30 0A 90 31 33 30 30 36 30 38 32 38 03 98 0D	
02/16 16:46:38.734 [cmt] ROMバージョン: 1.30 060828	
02/16 16:46:38.750 [cmt] /* リータライタ動作モードの読み取り */	
U2/16 16:46:38.750 [send] U2 U0 4F U1 UU U3 55 UD	
02/16 16:46:38.786 [recv] 02 00 30 09 00 00 10 00 10 00 00 00 03 5A 00	
U2/10 10:40:30 / 300 [CMT] ソージフィン朝JFモート・コマントモート 02/10 10:40:30 700 [CMT] マンボーロンジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
UZ/10 10:40:30:720 [CML] アンテコリンヨン ・1 [32] 19/16 16:40:20 706 [cml] 法に取り掛佐 : 演奏講会の時間	
02/10/10-10-30-300 [UIIL] 記(の取り動)トーー・理論にすう 19/16:16-36-30 708 [wil] ゴザーー・・暗心す	
02/16 16-46-38 708 [cm+] 洋信デーク ・コンザデータのみ	
02/16 16:46:38,708 [cm] 通信速度 : 10200ha	

通信の確立に失敗した場合は、次の画面のように表示されます。

💾 TR3RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(B) リーダライク教徒ニコマンド(D) RFタグ通信コマンド(D) リーグライクEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘル	プ(H)
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログー ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16	77.170 10777
コマンド 連続インパントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes デ	–ቃታሀア (F9)
02/16 16:48:43.796 [cmt] /* コネクションの確立 */ 02/16 16:48:58.843 [cmt] コネクションの確立に失敗しました。 02/16 16:48:58.843 [cmt] IPアドレス : 10.16.77.170 02/16 16:48:58.843 [cmt] ボート番号 : 10777	

別紙「LAN インターフェース製品取扱説明書 8.3 コネクションが開設できない(サーバ接続方式)」 を参照して問題を解消してください。 リーダライタの内部で LAN インターフェース側の通信速度とリーダライタモジュール側の通信速度が異なっている場合には、次の画面のように表示されます。

📙 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライ 対数定コマンド(Q) RF タグ通信コマンド(D) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログ_ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 ママッド 体気インパンナリ RD100P オートスキャック ReadBytes WriteBytes データリアイアログ	10777
	<u></u>
	1
UZ/16 16:50:18:337 [cmt] /* コネクションの確立 */ 02/16 16:60:18 004 [cmt] コウクションの確立にはす」ました	
102/16 16:50:18:984 [cmt] IPアビス:10.16.77.170	
02/16 16:50:18.984 [cmt] ボート番号 : 10777	
02/16 16:50:18.984 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */	
02/16 16:50:19.000 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 0D	
U2/16 16:50:24.015 [recv] リータライタは無応答です。	

別紙「LAN インターフェース製品取扱説明書 8.4.1 シリアルインターフェースデータレートの確認」を参照して問題を解消してください。

3.2.5 自動クライアント接続方式で通信を開始する

IPアドレス「10.16.77.170」の割り当てられたリーダライタと自動クライアント接続方式(リーダ ライタ側からパソコンへ通信の確立を要求する方式)で通信を開始する場合には、次の画面のよう に入力して[OK]ボタンをクリックします。

	インターフェースの設定
Jーダライタ接続インターフェ ○ シリアルインターフェ	ース ース ③ LANインターフェース
シリアルインターフェース LAN	インターフェース
リーダライタ通信方式	サーバ接続 (PC→リーダライタ)
○ サーバ	IPアドレス: 10 16 77 170 TCPポート番号 10777 (1)
⊙ 自動クライアント	自動クライアント接続 リーダライタ→PC)
	TCPポート番号: 3335 ♀ リーダライタからのコネクション要求に応答する為の TCPポート番号を設定します。
	ネットワーク接続を開く
リーダライタのLANインターフ リーダライタのIPアドレス、自動: LANインターフェースの設定を行	エース設定 接続設定、キープアライプ設定など 行います。
0	K Cancel

● リーダライタ通信方式
 「自動クライアント」を選択します。

● TCP ポート番号(自動クライアント接続)

 「3335」を入力します。
 ここで入力する TCP ポート番号は、リーダライタからの接続を待ち受ける TCP ポート番号です。
 製品の工場出荷時には「3335」が設定されています。
 変更する場合は、別紙「LAN インターフェース設定ツール IPSet 取扱説明書」を参照ください。

Windows ファイアウォールが有効に設定されている場合、次の画面が表示されることがあります。

😺 Windo	ws セキュリティの重要な警告
٢	コンピュータを保護するため、このブログラムの機能の一部が Windows ファイアウォ ールでブロックされています。
このプログ	プラムをブロックし続けますか?
B	名前(<u>N</u>): TR3RWManager 発行元(<u>P</u>): タカヤ株式会社
	ブロックする(<u>K</u>) (ブロックを解除する(<u>U</u>) 後で確認する(<u>A</u>)
Windows しました。 できます。	ファイアウォールで、このプログラムでのインターネットやネットワークからの接続の受信をブロック プログラムを認識している場合、または発行元が信頼できる場合は、ブロックを解除することが <u>どのプログラムに対してブロックを解除できるか表示します。</u>

このメッセージは、リーダライタからの通信確立要求を Windows ファイアウォールがブロックするかどうかを示します。

リーダライタからの通信確立要求を受け取ってリーダライタとの通信を開始するために[ブロック を解除する]ボタンをクリックしてください。

[ブロックする]をクリックした場合、本ソフトウエアはリーダライタからの通信確立要求を受け取れないため、リーダライタとの通信を開始することができません。

リーダライタとの通信が正常に開始された場合は、次の画面のように表示されます。 通信の確立に成功し、リーダライタのROMバージョンと動作モードの読み取りが行われています。

🖺 TR3 RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライダ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10	777
マンド 速続インベンド/ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データカリア (F9)	
受信データー暫 送受信口グ	
02/16 16:54:10.687 [cmt] /* コネクションの確立 */	
02/16 16:54:16.171 [cmt] コネクションの確立に成功しました。	
02/16 16:54:16.171 [cmt] IPアドレス:10.16.77.170	
02/16 16:54:16.171 [cmt] ボート番号 : 10777	
02/16 16:54:16.171 [cmt] /* R0Mバージョンの読み取り */	
U2/16 16:54:16.171 [send] U2 U0 4F U1 90 03 E5 UD	
UZ/16 16:34:16:312 [recv] UZ/U0 3U UA 9U 31 33 3U 3U 36 3U 38 3Z 38 U3 9B UU 02/16 16:54:16 312 [recv] UZ/U0 3U UA 9U 31 33 3U 30 00000	
2/10 0:34:10:312 Cml] KVm/ハーンヨン:1:30 000250 02/18 5:54:18 200 [cml] (* - ガニノク新作工 - いの読み取り * /	
02/18 16:54:18 328 [cm,1] 0 / 4 0 / 2 0 1 / 2	
102/16 16:54:16.375 [recv] 02 00 30 09 00 00 00 10 00 00 00 00 00 03 54 00	
102/16 16:54:16.375 [cmt] リーダライタ動作モード: コマンドモード	
02/16 16:54:16.375 [cmt] アンチコリジョン : 有効	
02/16 16:54:16.375 [cmt] 読み取り動作 : 連続読み取り	
02/16 16:54:16.375 [cmt] ブザー :鳴らす	
02/16 16:54:16.375 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ	
02/16 16:54:16.375 [cmt] 通信速度 : 19200bps	

通信の確立に失敗した場合は、次の画面のように表示されます。

💾 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(E) リーダライダ設定コマンド(C) RFタグ)通信コマンド(C) リーグライグEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 自動りライアント接続	3335
コマンド 遠鏡インペンドリ RD100P オートスキャン ReadBytes WriteBytes Gr-byte C	9)
受信于一次一覧 送受信口グ	
02/16 18:55:56.921 [cmt] /* コネクションの確立 */ 02/16 16:56:11.984 [cmt] コネクションの確立に失敗しました。 02/16 16:56:11.984 [cmt] 自動クライアント接続 02/16 16:56:11.984 [cmt] ポート番号 : 3335	

別紙「LAN インターフェース製品取扱説明書 8.2 コネクションが開設できない(自動クライアン ト接続方式)」を参照して問題を解消してください。 リーダライタの内部で LAN インターフェース側の通信速度とリーダライタモジュール側の通信速度が異なっている場合には、次の画面のように表示されます。

📓 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(B) リーダライダ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(D) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード 通信できません 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 自動クライアンド接続 コマクド 連続インバンドリ RDL00P オートクチャッシュ ReadBytes WriteBytes データグリア 〈F9)	3335
受信データー覧 送受信ログ	
02/16 16:57:28.734 [cmt] /* コネクションの確立 */ 02/16 16:57:32.218 [cmt] コネクションの確立に成功しました。 02/16 16:57:32.218 [cmt] IPアドレス : 10.16.77.170 02/16 16:57:32.218 [cmt] パート番号 : 10777 02/16 16:57:32.218 [cmt] /* ROMパージョンの読み取り */ 02/16 16:57:32.218 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 00 02/16 16:57:37.250 [recv] リーダライタは無応答です。	

別紙「LAN インターフェース製品取扱説明書 8.4.1 シリアルインターフェースデータレートの確認」を参照して問題を解消してください。

第4章 メイン画面の機能

本章では、メイン画面に含まれる機能と操作方法について説明します。

4.1 インターフェース設定を確認する

🖞 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(I) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログー ReaBytes/WiteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777	
マンド 連続インペンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグリア(F9)	
02/16 17:55:32.078 [cmt] /* コネクションの確立に成功しました。 02/16 17:55:32.125 [cmt] コネクションの確立に成功しました。 02/16 17:55:32.125 [cmt] ドレス: 10.16.77.170 02/16 17:55:32.125 [cmt] ドレス: 10.16.77.170 02/16 17:55:32.125 [cmt] ドレス: 10.16.77.170 02/16 17:55:32.125 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 02/16 17:55:32.125 [send] 02 00 4F 01 90 03 E5 00 02/16 17:55:32.265 [rev] 02 00 30 0A 90 31 33 30 30 36 30 38 32 38 03 98 00 02/16 17:55:32.265 [cmt] ROMバージョン: 1.30 060828 02/16 17:55:32.281 [send] 02 00 4F 01 00 35 5 00 02/16 17:55:32.328 [cmt] リーダライタ動作モードの読み取り */ 02/16 17:55:32.328 [cmt] リーダライタ動作モード: コマンドモード 02/16 17:55:32.328 [cmt] アンチョリジョン : 有効 02/16 17:55:32.328 [cmt] アンチョリジョン : 有効 02/16 17:55:32.328 [cmt] ブザー : 連続読み取り 02/16 17:55:32.328 [cmt] ジザー :	

現在のインターフェース設定が表示されます。

RS-232C 通信の場合には、COM 番号と通信速度が表示されます。 例.「COM10」「19200bps」

TCP/IP 通信の場合には、リーダライタの IP アドレスと TCP ポート番号が表示されます。 例.「10.16.77.170」「10777」

4.2 受信データー覧を確認する

[受信データー覧]ページは、リーダライタ動作モードがコマンドモード以外(連続インベントリモ ード・RDLOOP モードなど)に設定されている場合に更新されます。 (リーダライタから受信したデータを表示します) 次の画面は、RDLOOP モードで読み取った RF タグデータが表示されている様子を示します。

INSTRUMENTAGET [INSTGUUS] AUTOMATING AND	
ノディルモノ リーダライダ制備コマンドモノ リーダライダ設定コマンドロ/ REダの創造コマンドロ/ リーダライダEEFRO	
リーダライタ動作モード RDLOOPモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes	インターフェース 設定 10.16.77.170 10777
コマンド 連続インペンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	6 データ数: 0002 データクリア (F9)
受信データー覧送受信ログ	
No. データ数 ユーザデータ	
1 4 1234	E00700001BB87F2 0
$(1)^2 O^2 ABCD O$	E0040100031EE201
	4

1) No.

一覧内の行番号が表示されます。

② データ数

データを受信した回数が表示されます。

③ ユーザデータ

リーダライタから受信したデータの中から、RF タグのユーザデータ部分を抜き出した結果が表示されます。(リーダライタからの受信データを Shift-JIS 変換した結果を表示します) 例) 0x41 0x42 0x43 0x44 の 4 バイトを受信 → ABCD

4 UID

リーダライタから受信したデータの中から、RF タグの UID 部分を抜き出した結果が表示されま す。(リーダライタからの受信データを 16 進文字列に変換した結果を表示します)

例) 0xE0 0x04 0x01 0x00 0x03 0x1E 0xE2 0x01 の 8 バイトを受信 → E0040100031EE201

⑤ 入/出

赤外線センサーによる入出判断モードを「有効」(入方向のみ/出方向のみ/入出方向)として いる場合、入方向であれば「0」、出方向であれば「1」が表示されます。 入出判断モードを「無効」(OFF)としている場合、常に「0」が表示されます。

⑥ データ数

一覧内に表示中のデータ数(行数と等しい値)が表示されます。

4.3 送受信ログを確認する

[送受信ログ]ページには、リーダライタとの通信ログが表示されます。

表示形式:

[日付][時刻][種別][データ]

種別:

[cmt] : コメントを示します。

[send] : 本ソフトウエアからリーダライタへ送信されたコマンドを示します。

[recv] : 本ソフトウエアがリーダライタから受信したコマンドを示します。

💾 TR3 RWManager [TR3-G003]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(Q) 通信設定(Q) ヘルプ(H)
リーダライク動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 決続インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグリア(F9)
受信データー智を受信ログ
02/16 18:09:26.421 [cmt] /* コネクションの確立に成功しました。 02/16 18:09:26.453 [cmt] コネクションの確立に成功しました。 02/16 18:09:26.453 [cmt] IPアドレス: 10.16.77.170 02/16 18:09:26.453 [cmt] /* FVFレス: 10.16.77.170 02/16 18:09:26.453 [cmt] /* FVFレス: 10.16.77.170 02/16 18:09:26.453 [cmt] /* FVFVLA: 10.177 02/16 18:09:26.453 [cmt] /* FVFVLA: 10.77 02/16 18:09:26.453 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 02/16 18:09:26.503 [rev] 02:00:30:04.90:31:33:30:30:38:32:38:03:98:00 02/16 18:09:26.503 [rev] 02:00:30:04.90:31:33:30:30:38:32:38:03:98:00 02/16 18:09:26.509 [cmt] アンラ コ ション: 1:30:060828 02/16 18:09:26.609 [smt] 02:00:35:500 02/16 18:09:26.609 [smt] 02:00:30:09:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00:00

4.4 リーダライタの動作モードを確認・変更する

7

現在のリーダライタ動作モードが表示されます。 また、ボタン操作によってリーダライタ動作モードを変更できます。

- 設定ダイアログ リーダライタ動作モードの書き込み画面を起動します。
 詳細については「4.4.1 リーダライタ動作モードの書き込み画面」を参照ください。
- コマンド リーダライタ動作モードをコマンドモードへ変更します。 詳細については「4.4.2 コマンドモード」を参照ください。
- 連続インベントリ リーダライタ動作モードを連続インベントリモードへ変更します。
 詳細については「4.4.3 連続インベントリ」を参照ください。
- RDLOOP リーダライタ動作モードを RDLOOP モードへ変更します。
 詳細については「4.4.4 RDLOOP モード」を参照ください。

● オートスキャン リーダライタ動作モードをオートスキャンモードへ変更します。 詳細については「4.4.5 オートスキャンモード」を参照ください。

4.4.1 リーダライタ動作モードの書き込み画面 リーダライタ動作モードの各パラメータについて説明します。

RWActionMode	×
リーダ	ライタ動作モードの書き込み
リーダライタ動作モ	
設定パラメータ	
アンチコリジョン:	② ◎ 無効 ○ 有効
読み取り動作:	3 🔘 1回読み取り 💿 連続読み取り
ブザー:	④ ⑤ 鳴らさない ◎ 鳴らす
送信データ:	 ⑤ ユーザデータのみ ○ ユーザデータ+ UID
通信速度:	6 19200bps 🗸
ポーリング時間:	7 0 × 200ms
<mark>⑧</mark> □ EEPROMへの	書き込みを行う
	OK Cancel

- ① リーダライタ動作モード
 - リーダライタの動作モードを以下の7種類から選択します。
 - ・コマンドモード
 - ・連続インベントリモード
 - ・RDLOOPモード
 - ・オートスキャンモード
 - ・トリガーモード
 - ・ポーリングモード
 - ・EASモード

 アンチコリジョン リーダライタのアンチコリジョン機能を選択します。

「無効」

常時1枚以下のRFタグと交信する場合に無効とします。

有効であっても RF タグとの交信は可能です。ただし、無効とすることで RF タグとの交信速度 が向上します。

「有効」

2枚以上の RF タグと同時に交信する場合に有効とします。

2枚以上の RF タグから一括してデータを読み取ることが可能です。

本パラメータは、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード・ RDLOOP モードなど)を選択している場合のみ有効となります。

③ 読み取り動作

リーダライタの読み取り動作を選択します。

「1回読み取り」

アンテナの交信範囲に滞在する RF タグのデータを1回だけ読み取ります。

「連続読み取り」

アンテナの交信範囲に滞在する RF タグのデータを連続して読み取ります。 読み取り処理は、RF タグがアンテナの交信範囲外へ移動するまで継続します。

本パラメータは、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード・ RDLOOP モードなど)を選択している場合、および Inventory・Inventory2 の実行時に有効と なります。

④ ブザー

リーダライタのブザー動作を選択します。

「鳴らさない」

ブザーの自動鳴動を行いません。 上位アプリケーションからブザー鳴動を指示(コマンド送信)した場合には鳴動します。

「鳴らす」

リーダライタの電源 ON 時にブザーを鳴らします。

また、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード・RDLOOP モードなど)で RF タグのデータを読み取った際にブザーを鳴らします。

⑤ 送信データ リーダライタ側から上位アプリケーションへ送信するデータを選択します。

「ユーザデータのみ」 RF タグのユーザデータ(ユーザ領域に書き込まれたデータ)のみを送信します。

「ユーザデータ + UID」 RF タグのユーザデータと UID を同時に送信します。

本パラメータは、以下いずれかのリーダライタ動作モード時のみ有効となります。 ・オートスキャンモード

- ・トリガーモード
- ・ポーリングモード
- ・SimpleRead (コマンドモード)
- ⑥ 通信速度 リーダライタモジュールの通信速度を選択します。

※本パラメータは、RS-232C 通信時のみ選択が可能です。 TCP/IP 通信時は選択不可となります。

⑦ ポーリング時間

ポーリングモードの動作時間を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~65535」です。

本パラメータは、ポーリングモードを選択している場合のみ入力可となります。

⑧ EEPROM への書き込みを行う

各パラメータの値をリーダライタの EEPROM へ書き込む場合にチェックします。 EEPROM へ書き込まれたデータは、リーダライタの電源再起動後も保持されます。 EEPROM へ書き込まれなかったデータは、リーダライタの電源 OFF まで保持されます。

4.4.2 コマンドモード

7

リーダライタ動作モード「コマンドモード」について説明します。

コマンドモードは、上位アプリケーションからのコマンド指示によってリーダライタを制御する場合に使用する動作モードです。

本アプリケーションの各種メニュー・ボタンなどを使用してリーダライタにコマンドを送信する場 合には、リーダライタ動作モードをコマンドモードに設定します。

コマンドモードに設定されたリーダライタは、上位アプリケーションからのコマンド指示を受ける まで何も処理を行わずに待機します。

画面上の[コマンド]ボタンをクリックするとリーダライタは「コマンドモード」へ遷移します。 メニューバーに配置された各種メニュー(リーダライタ制御コマンドメニュー・リーダライタ設定 コマンドメニューなど)からリーダライタへコマンドを送信できます。

	🗒 TR3RWManager[TR3-G003]	le le	- C 🛛
	ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタダ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) /	シルプ(円)	
ſ	リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10	.16.77.170	10777
l	マンド 遠鏡インペンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	データクリア (F	9)
	02/17 09:46:40.953 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書ぎ込み */ 02/17 09:46:40.953 [send] 02 00 4E 04 00 00 10 03 73 00 02/17 09:46:41.015 [recv] 02 00 30 00 03 35 00		

リーダライタ動作モードがコマンドモード以外(連続インベントリモード・RDLOOP モードなど) に設定されている場合は、各種メニューが使用不可となります。

E	TRAR	WMana ->	ger [TR	3-G003	3]	dire / in	and the second second second	(10)	or in Million and Incom		or a set of setting (set)		· عند الاحترار ال	(a)	Ŀ
	ファイル低) 19-	954 2制1	即口交之序	(B) 1	一學习什麼	設定コマンド	1 <u>0</u> 0 f	その外通信コマンドの	リーダライタEEPR	OM設定(E)	ゲート専用メニュー(<u>G</u>)	通信設定(<u>C) ヘルプ(H)</u>	
	リーダラー	19動作	モード	連続イン	1X21	リモード	設定ダイス	7ログ	ReaBytes/Write	Bytes		インターフェ	ース設定	10.16.77.170	
	לאב	۶F	連続イン	て く く	RDI	LOOP	オートス	F#2	ReadBytes	. WriteBytes				データクリア((F9
6	受信デー	如一覧	送受信口公	ÿ											
	02/17 02/17 02/17	09:47 09:47	:31.42 :31.42 :31.48	1 LC1 1 [si 4 [ri	mtj ecv]	/* 9 02 00 02 00	- ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	1 2 興0 00 50 03 35	TFで「下切書。 00 1C 03 C3 00	ව∐් */ 0D					
															_

4.4.3 連続インベントリモード

リーダライタ動作モード「連続インベントリモード」について説明します。

連続インベントリモードは、上位アプリケーションからのコマンド指示を受けることなく、リーダ ライタが自動的に RF タグの UID を読み取る動作モードです。

連続インベントリモードに設定されたリーダライタは、アンテナの交信範囲内に滞在する RF タグの UID を自動的に読み取り、読み取り結果を上位アプリケーションへ送信します。

読み取り処理をリーダライタ内部で完結するため、上位アプリケーションからのコマンド送信に要 するオーバヘッドがなく、高速な読み取り処理が可能となります。

画面上の[連続インベントリ]ボタンをクリックするとリーダライタは「連続インベントリモード」 へ遷移します。

メニューバーに配置された各種メニュー(リーダライタ制御コマンドメニュー・リーダライタ設定 コマンドメニューなど)は使用不可となります。

コマンド 連続イ	バントリ RD	DLOOP オートスキャン	ReadBytes WriteBytes	データクリア (F9)
●受信データ→覧 送受信[5			
02/17 09:47:31.4 02/17 09:47:31.4 02/17 09:47:31.4	21 [cmt] 21 [send] 84 [recv]	/* リーダライタ 02 00 4E 04 00 5 02 00 30 00 03 3	動作モードの書き込み */ ;0 00 1C 03 C3 0D ;5 0D	



連続インベントリモードで動作するリーダライタから送信されたデータは、本アプリケーションの [受信データー覧]ページと[送受信ログ]ページに表示されます。

[受信データー覧]ページには、次の情報が表形式で表示されます。
①読み取った回数
② RF タグの UID
③読み取ったアンテナの番号 (アンテナ番号は「0」を起点としています)

また、[受信データー覧]ページに表示中のデータ件数が[データクリア(F9)]ボタンの左側(④)に表示されます。

🗒 TR3 RWManager [TR3	-6003]			
ファイル(E) リーダライク制御	コマンド(E) リーダライダ設定コマンド(Q) RF/	妙通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C)	ヘルプ(圧)
リーダライタ動作モード 通	続インベントリモード 設定ダイアログ	ReaBytes/WriteBytes	インターフェース設定 1	0.16.77.170 10777
コマンド 連続インペ	ンHJ RDLOOP オートスキャン	ReadBytes WriteBytes	(4) データ数: 0003	データクリア (F9)
受信データー覧は受信ログ				
No. データ数	<u>ב</u>	ーザデータ	UID	入/出
1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 +			2 E007000001BB87F2	
3 1			E007000001BB8761	0

[送受信ログ]ページには、リーダライタから送信されたコマンドが 16 進文字列	刂で表示され	します。
💾 TR3RWManager[TR3-G003]		
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(E) リーダライク設定コマンド(Q) RFタグ)動信コマンド(T) リーグライクEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(Q) 通信設定	(の) ヘルプ(円)	
リーダライタ動作モード 連続インベントリモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定	10.16.77.170	10777
マンド 速装インペントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	データクリア (F	9)
		1.0
02/17 09:51:44.750 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */		
02/17 09:51:44.750 [send] 02 00 4E 04 00 50 00 10 03 B7 0D		
02/17 09:51:51.828 [recv] 02 00 64 08 F2 87 BB 01 00 00 07 E0 03 8D 0D		
02/17 09:51:52.250 [recv] 02 00 64 08 F2 87 BB 01 00 00 07 E0 03 8D 0D		
1 U2/17 U9:51:52.671 [recv] U2 UU 64 U8 F2 87 BB UT UU UU U7 EU U3 80 UU 102/17 09:51:53.140 [recv] 02 00 64 08 F2 87 BB 01 00 00 07 ED 03 80 00		
02/17 09:51:53.546 [recv] 02 00 64 08 F2 87 BB 01 00 00 07 E0 03 8D 0D		
02/17 09:51:53.968 [recv] 02 00 64 08 F2 87 BB 01 00 00 07 E0 03 8D 0D		
02/17 09:52:01.406 [recv] 02 00 64 08 68 87 BB 01 00 00 07 E0 03 03 00		
102/17 09:52:01.781 [recv] 02 00 64 08 68 87 68 01 00 00 07 E0 03 03 00		

4.4.4 RDLOOP モード

リーダライタ動作モード「RDLOOP モード」について説明します。

RDLOOP モードは、上位アプリケーションからのコマンド指示を受けることなく、リーダライタ が自動的に RF タグの UID とユーザデータ (ユーザ領域に書き込まれたデータ)を読み取る動作モ ードです。

RDLOOP モードに設定されたリーダライタは、アンテナの交信範囲内に滞在する RF タグの UID とユーザデータを自動的に読み取り、読み取り結果を上位アプリケーションへ送信します。 読み取り処理をリーダライタ内部で完結するため、上位アプリケーションからのコマンド送信に要 するオーバヘッドがなく、高速な読み取り処理が可能となります。

なお、ユーザ領域のどの部分を読み取るかについては、あらかじめリーダライタの EEPROM へ登録しておくことが必要です。

読み取り範囲の登録方法については「5.1.1 RDLOOP モード動作時における読み取り範囲」を参照 ください。

画面上の[RDLOOP]ボタンをクリックするとリーダライタは「RDLOOP モード」へ遷移します。 メニューバーに配置された各種メニュー(リーダライタ制御コマンドメニュー・リーダライタ設定 コマンドメニューなど)は使用不可となります。

TR3RWManager[TR3-G003]		
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(B) リーダライク建設定コマンド(D) RFタグ通信コマンド(D) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用:	以ニュー(G) 通信設定(C) /	ヘルプ(円)
リーダライタ動作モード RDLOOPモード 設定ダイアログ… ReaBytes/WriteBytes	インターフェース設定 10	.16.77.170 10777
マンド 法装インペントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes		データクリア (F9)
受信データー智慧法受信ログ		
02/17 09:56:10.781 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書ぎ込み */ 02/17 09:56:10.781 [send] 02 00 4E 04 00 58 00 10 03 BF 0D 02/17 09:56:10.828 [recv] 02 00 30 00 03 35 0D		



RDLOOP モードで動作するリーダライタから送信されたデータは、本アプリケーションの[受信デ ーター覧]ページと[送受信ログ]ページに表示されます。

[受信データー覧]ページには、次の情報が表形式で表示されます。
①読み取った回数
② RF タグのユーザデータ
③ RF タグの UID
④読み取ったアンテナ番号 (アンテナ番号は「0」を起点としています)

また、[受信データー覧]ページに表示中のデータ件数が[データクリア(F9)]ボタンの左側(⑤)に表示されます。

🖹 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(E) リーダライタ数定コマンド(E) REタグ3動信コマンド(E) リーダライタEEPROM設定	④ ゲート専用メニュー(3) 通信設定(©) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード RDLOOPモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes	インターフェース 設定 10.16.77.170 10777
コマンド 連続インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	5 データ数: 0002 データクリア (F9)
受信データー覧」送受信ログ	
No. データ数 ユーザデータ	
$1 + \frac{1}{2} + \frac{1234}{2} + \frac{1234}{ABCD} + \frac{12}{2} +$	

[送受信ログ]ページには、リーダライタから送信されたコマンドが 16 進文字列で	表示されます。
💾 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライク制御コマンド(B) リーダライク教徒ニマンド(D) RFタグ通信コマンド(D) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ハ	シルプ田)
リーダライタ動作モード RDLOOPモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10	(16.77.170 10777
マンド 速続インペントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	デ <i>ー</i> タクリア (F9)
受信データー智 送受信ログ	
02/17 09:58:10.781 [send] 02 00 4E 04 00 58 00 10 03 BF 0D	
UZ/17 U9:56:10.828 [recv] U2 U0 30 U0 U3 35 UD	
02/17 09:56:16.656 [recv] 02 00 4C 0C F2 87 BB 01 00 00 07 E0 31 32 33 34 03 43 0D	
02/17 09:56:17.031 [recv] 02 00 4C 0C F2 87 BB 01 00 00 07 E0 31 32 33 34 03 43 0D	
02/17 09:56:19.875 [recv] 02 00 4C 0C 82 87 BB 01 00 00 07 E0 41 42 43 44 03 13 0D	
02/17 09:56:20.328 [recv] 02 00 4C 0C 82 87 BB 01 00 00 07 E0 41 42 43 44 03 13 0D	
]	

4.4.5 オートスキャンモード

リーダライタ動作モード「オートスキャンモード」について説明します。

オートスキャンモードは、上位アプリケーションからのコマンド指示を受けることなく、リーダラ イタが自動的に RF タグのデータを読み取る動作モードです。 読み取り対象のデータは、「ユーザデータのみ」または「UID + ユーザデータ」を選択できます。 選択方法については、「4.4.1 リーダライタ動作モードの書き込み画面」を参照ください。

オートスキャンモードに設定されたリーダライタは、アンテナの交信範囲内に滞在する RF タグの UID とユーザデータを自動的に読み取り、読み取り結果を上位アプリケーションへ送信します。 読み取り処理をリーダライタ内部で完結するため、上位アプリケーションからのコマンド送信に要 するオーバヘッドがなく、高速な読み取り処理が可能となります。

ただし、オートスキャンモードで RF タグの読み取りを行うためには、RF タグへのデータエンコ ードを TR3 シリーズ独自の可変長データ書き込みコマンドである SimpleWrite で行うことが必要 です。(オートスキャンモードは、SimpleWrite でエンコードされた RF タグのみを対象にした読 み取りを行う動作モードです)

※ SimpleWrite でエンコードしていない RF タグは、オートスキャンモードで読み取ることができません。
ただし、以下 2 つの条件が揃っている場合に限り、SimpleWrite でエンコードしていない RF
タグの UID をオートスキャンモードで読み取ることができます。

条件1: RFタグの DSFID 値「0x00」

条件 2 :

リーダライタ動作モードのパラメータ[送信データ]において「UID + ユーザデータ」が選択されている。

画面上の[オートスキャン]ボタンをクリックするとリーダライタは「オートスキャンモード」へ遷移します。

メニューバーに配置された各種メニュー(リーダライタ制御コマンドメニュー・リーダライタ設定 コマンドメニューなど)は使用不可となります。

ファイル化 リーダライタ動物コマンド(2) ドラグラ強なモンド(2) ドラグラ強なモンド(2) パックライタ動物モンド(2) パックラフェース設定 1016.77.170 10777 ママンド 基金 クベンパ RDICOP オードスキャン Peoplytes/WitteBytes インターフェース設定 1016.77.170 10777 マンド 基金 クベンパ RDICOP オードスキャン Peoplytes/WitteBytes アータジリア (FD) フレイ 基金 クベンパ RDICOP オードスキャン アークジリア (FD) 受信データー転 送空信ログリ Peoplytes/WitteBytes WriteBytes テークジリア (FD) 02/17 10:04:18.578 [cat1] /* リーダライタ動作モードの書ぎ込み*/ 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 88 00 02/17 10:04:18.625 Freev) 02 00 30 00 03 35 00	ファイルを リーダライタ制御コマンド(2) リーダライダ設定コマンド(2) リーダライタEPROM設定(2) ゲート専用メニュー(2) 通信設定(2) ヘルブ(4) リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログニ コマンド 建築インベンド RDLOOP オートスキャン ReaBytes/WriteBytes ReaBytes. インターフェース設定 10.16.77.170 マンド 建築インベンド RDLOOP オートスキャン ReaBytes./WriteBytes アータウリア(FB 受信データー覧 (逆受信ログ) ReaBytes./WriteBytes アータウリア(FB 02/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */ 02/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 00 02/17 10:04:18.625 [recv] 02 00 30 00 03 35 00 00	
リーダライク動作モード コマンドモード 読法ダイアログ_ PeaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777 コマンド またイメペンが RDLOOP オーンスキャン ReadBytes. WriteBytes. テージジリア(F9) 受信データー転 運営信ログ テージジリア(F9) 受信データー転 10777 10777 10777	リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 101677.170 マンド 注意インペン川 RDLOOP オートスキャン ReaBytes WriteBytes データグリア(FS 受信データー転 送受信ログ アータグリア(FS ワンパ 注意(シペン川 RDLOOP オートスキャン ReaBytes WriteBytes アータグリア(FS 受信データー転 送受信ログ	設定コマンド(2) RFタグ通信コマンド(1) リーダライタEEPROM設定(2) ゲート専用メニュー(2) 通信設定(2) ヘルブ(H)
マンド 球点マンベ村 RDLOOP オージネャン ReadBytes. WriteBytes. デージリア(F9) 受信データー幅 送気信ひろ	マンド 接名(ノベンリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes. WriteBytes データグリア(PS 受信データー覧 送受信ログ 02/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */ 02/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 00 02/17 10:04:18.625 [recv] 02 00 30 00 03 35 00 00 03 35 00	設定ダイアログ BeaBytes /WriteBytes 10.16.77.170 10777
<u>愛信データー転 送受値のグ </u> [02/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */ 02/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 0D 02/17 10:04:18.625 [recv] 02 00 30 00 03 35 0D	<u>受信データー報 [送受信ログ]</u> 02/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */ 02/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 00 02/17 10:04:18.625 [recv] 02 00 30 00 03 35 00	オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグルア (F9)
D2/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */ D2/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 00 D2/17 10:04:18.625 [recv] 02 00 30 00 03 35 00	02/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */ 02/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 0D 02/17 10:04:18.625 [recv] 02 00 30 00 03 35 0D	
		ーダライタ動作モードの書き込み */ 4E 04 00 01 00 10 03 68 0D 30 00 03 35 0D

オートスキャンモードで動作するリーダライタから送信されたデータは、本アプリケーションの[受信データー覧]ページと[送受信ログ]ページに表示されます。

[受信データー覧]ページには、次の情報が表形式で表示されます。
①読み取った回数
② RF タグのユーザデータ
③ RF タグの UID
④読み取ったアンテナ番号 (アンテナ番号は「0」を起点としています)

また、[受信データー覧]ページに表示中のデータ件数が[データクリア(F9)]ボタンの左側(⑤)に表示されます。

🗒 TR3RWManager[TR3-G003]			
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ詩	設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(I) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(<u>G</u>) 通信設定(<u>C</u>)	ヘルプ(円)
リーダライタ動作モード コマンドモード	設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes	インターフェース設定	10.16.77.170 10777
	redubytes	う データ数: 0002	5 - 9997 (19)
	コーキジーカ	LID	1 / ш
$ \begin{array}{c} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 3 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7 \\ 7$	2	3	
			[لـــــ

[送受信ログ]ページには、リーダライタから送信されたコマンドが16進文字列で表示されます
🗒 TR3 RWManager [TR3-G003]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルブ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 遠袋インペンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグリア (F9)
受信データー 送受信ログ
02/17 10:04:18.578 [cmt] /* リーダライタ動作モードの書き込み */
02/17 10:04:18.578 [send] 02 00 4E 04 00 01 00 10 03 68 0D
02/17 10:04:10:823 [recv] 02 00 50 00 53 50 0 02/17 10:04:27.156 [recv] 02 00 44 10 83 49 81 58 83 67 83 58 83 4C 83 83 83 93 30 31 03 12 0D
02/17 10:04:27.531 [recv] 02 00 44 10 83 49 81 5B 83 67 83 58 83 4C 83 83 83 93 30 31 03 12 0D
02/17 10:04:27.875 [recv] 02 00 44 10 83 49 81 58 83 67 83 58 83 46 83 83 83 93 30 31 03 12 0D
02/17 10:04:28.265 [recv] 02 00 44 10 83 49 81 58 83 67 83 58 83 4C 83 83 93 30 31 03 12 0D
<u></u>

4.5 リーダライタとの通信内容を消去する

🗒 TR3 RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777	
コマンド 建築インペン村 RDL00P オートスキャン ReadBytes WriteBytes データガルア (F9)	J
受信データー智」送受信ログ	
02/17 10:24:48.515 [cmt] /* コネクションの確立 */ 02/17 10:24:48.546 [cmt] コネクションの確立に成功しました。 02/17 10:24:48.546 [cmt] IPアドレス: 10.16.77.170 02/17 10:24:48.546 [cmt] ボート番号: 10777 02/17 10:24:48.546 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 02/17 10:24:48.548 [cmt] /* ROMバージョンの読み取り */ 02/17 10:24:48.687 [cmt] 02 00 4F 01 90 03 E5 00 02/17 10:24:48.687 [cmt] ROMバージョン: 1.30 060828 02/17 10:24:48.687 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */ 02/17 10:24:48.703 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */ 02/17 10:24:48.703 [cmt] /* リーダライタ動作モードの読み取り */ 02/17 10:24:48.705 [cmt] ワンダライタ動作モード・コマンドモード 02/17 10:24:48.750 [cmt] アンチコリジョン : 有効 02/17 10:24:48.750 [cmt] デンチコリジョン : 196うす 02/17 10:24:48.750 [cmt] ブザー : 鳴らす 02/17 10:24:48.750 [cmt] 送信データ : ユーザデータのみ 02/17 10:24:48.750 [cmt] 遥信速度 : 19200bps	

● データクリア(F9)

[データクリア(F9)]ボタンをクリックする、またはキーボードの「F9」を押すことで、 [送受信ログ]ページと[受信データー覧]ページに表示されている情報を全て消去します。

第5章 リーダライタ EEPROM 設定

本章では、リーダライタ EEPROM の設定項目と設定方法について説明します。

5.1 EEPROM 簡易設定

EEPROM 簡易設定画面について説明します。

メニューバー – [リーダライタ	'EEPROM 設定] -	[EEPROM 簡易設定]
------------------	---------------	---------------

🛱 TR3RWManager[TR3-G003]		
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T)	リーダライ々FEPROM設定(F) ゲート専用メニュー(G)	通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログー ローのしょう (ルル・	EEPROM簡易設定(A)	<mark>ス設定</mark> 10.16.77.170 10777
マンド 連続インペンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes.	EEPROM詳細設定(B)	データカリア (F9)
	アドレス指定読み取り(<u>©</u>)	
	アドレス指定書き込み(D)	
		d

第5章 リーダライタ EEPROM 設定 5.1 EEPROM 簡易設定

EPROMSimpleConf				
	EEPROM簡易設定			
設定内容				更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0 🗢	
アンチコリジョンモード		通常処理モ	-×	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	;	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 📚 🛛	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		⊙ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		⊙ 無効	○有効	
ノーリードコマンドの設定		💿 無効	○有効	
ブザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		⊙ 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	○ 8/Ÿ1 ト	
RFタグ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	
	更新		E.	閉じる

設定値の内容を変更すると右列の更新欄が自動的にチェックされます。 更新欄がチェックされている設定値のみが設定変更の対象となります。 更新欄は手動(クリック)でチェックする(またはチェックをはずす)こともできます。

5.1.1 RDLOOPモード動作時における読み取り範囲

RDLOOP モードで動作する際に読み取りの対象とするユーザ領域の範囲を設定します。

	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0 🗢	
アンテコリジョンモード		通常処理モ [、]	-14	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	● ● ● ● ● ● ● 年効 ● 有効	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		⊙ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 📚 🛛	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		③ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		③ 無効	○ 有効	
ノーリードコマンドの設定		⊙ 無効	○ 有効	
ブザー種別の設定		◉ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		⊙ 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		 ④ 4/Ÿイト 	🔘 8/ና/ተ	
RFタグ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	

- 読み取り開始ブロック番号
 読み取りを開始するブロック番号を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~255」です。
- 読み取りバイト数
 読み取るデータ量(バイト数)を入力します。
 入力可能な値の範囲は「1~247」です。

5.1.2 アンチコリジョン設定

アンチコリジョン処理(複数のRFタグと同時に交信する際に発生する衝突を回避するための処理) の速度を設定します。

	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定	值	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロック)番号:	0 🗘	
	読み取りバイト数:		4 📚	
アンチコリジョンモード		通常処理モ		
フテナ切替設定	製品種別:	シュートレング	7 🗸	
	接続アンテナ教	10100		
	アンテナ自動切替・	(④) 細かり	○ 有効	
			○ 有効	
	7000000	U www	(有効	
目動読み取りモート動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 📚 👝	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		⑥ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		() 無効	○ 有効	
ノーリードコマンドの設定		⊙ 無効	○ 有効	
^ダ ザー種別の設定		◎ 標準	○ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		() 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	○ 8/Ÿイト	
RFタグ通信設定		⊙ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS485接続設定		◎ 無効	() 右袖	
		(● 無効	(11)	
	リータライタのID:		U	
	T T T			

本設定値は、リーダライタの ROM バージョンによって設定値の選択肢が異なります。

● ROM バージョン 1.34 以前のリーダライタとの通信時に表示される選択肢

- ・通常処理モード
- ・高速処理モード1
- ROM バージョン 1.35 以降のリーダライタとの通信時に表示される選択肢
 - ・通常処理モード
 - ・高速処理モード1
 - ・高速処理モード2
 - ・高速処理モード3

また、本設定値は、次の動作に適用されます。

- コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOPモードな) ど)においてアンチコリジョン設定を「有効」としている場合の読み取り
- Inventory2
- ・ RDLOOPCmd においてアンチコリジョン設定を「有効」としている場合の読み取り

71
5.1.3 アンテナ切替設定

1台のリーダライタ制御部に複数のアンテナを接続して利用する際に必要な情報を設定します。 本設定は、[製品種別]選択欄の値によって設定内容の一部が異なります。

- 製品種別
 - リーダライタの製品種別を以下の4種類から選択します。
 - ・ショートレンジ
 - ・ミドルレンジ/ロングレンジ
 - ・ミドルレンジ[9ch 以上]
 - ・ロングレンジ[9ch 以上]

製品種別:ショートレンジ、またはミドルレンジ/ロングレンジの場合

				×	
	EEPROM簡易設定				
設定内容		設定	値	更新	
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	2番号:	0 🗘		
アンチコリジョンモード		通常処理モ	-×		
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	;		
自動読み取りモート動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	◎ 有効		ľ
リトライ回数			1 📚 🛛		
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		⑥ 無効	◯ 有効		
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		④ 無効	○ 有効		
ノーリードコマンドの設定		④ 無効	○ 有効		
ブザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大		
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		💿 無効	○ 有効		
RFタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	○ 8/Ÿ7ト		
RFタグ通信設定		● 通常設定	O MB89R116/MB89R118		
RS485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	◎ 有効		

● 接続アンテナ数

リーダライタに接続されたアンテナ数-1を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~7」です。

E	EPROM簡易設定			
設定内容		設定	直	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0 🗢	
アンチコリジョンモード		通常処理モー	-۲	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	● ● ◆ 日 後 読 数 -1] ● 有 効	
自動読み取りモート動作時におけるAFI値指定読み取り		⊙ 無効	◯ 有効	
リトライ回数			1 🗢 💿	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		④ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		⑥ 無効	○ 有効	
/ーリードコマンドの設定		⑥ 無効	○ 有効	
プザー種別の設定		◎ 標準	○ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力	-	💿 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/57ト 	○ 8/14ト	
RFタグ通信設定		● 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS405接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	

製品種別:ミドルレンジ[9ch 以上]、またはロングレンジ[9ch 以上]の場合

● 接続アンテナ数

[設定]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

EEPROMAntCascade	
アンテナ切替カ	スケード接続
1段目	2段目(0-8[0:未使用])
カスケードポート1の接続アンテナ数:	0 🗢
カスケードボート2の接続アンテナ数:	0 😂
カスケードボート3の接続アンテナ数:	0
カスケードボート4の接続アンテナ数:	0
カスケードボート5の接続アンテナ数:	0 📚
カスケードボート6の接続アンテナ数:	0 😂
カスケードボート7の接続アンテナ数:	0
カスケードボート8の接続アンテナ数:	0 😂
	OK Cancel

各カスケードポート毎に接続アンテナ数を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~8」です。 アンテナを接続しないカスケードポートには「0」を入力します。 ● アンテナ自動切替 リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

● アンテナ ID 出力 リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用した アンテナ番号を送信データ内に含める機能です。 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。 コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど) 時に RF タグの AFI 値を指定した読み取りを行うかどうかを設定します。

	EPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロック 読み取りバイト数:	7番号:	0 🗘 4 🗘	
アンチコリジョンモード	-	通常処理モ	- 4	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	ショートレンジ● 無効● 無効	 ○ ○ 有効 ○ 有効 	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		⊙ 無効	○ 有効	
アンゴ回数			1 📚 🛛	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		④ 無効	◯ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		() 無効	○ 有効	
ノーリードコマンドの設定		⊙ 無効	○ 有効	
ブザー種別の設定		◉ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		💽 無効	◯ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		④ 4/57 ト	○ 8/5/1 ト	
RFタグ通信設定		● 通常設定	MB89R116/MB89R118	
RS485接 說定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	

本設定値を「有効」にした場合は、リーダライタの EEPROM に書き込まれた AFI 指定値と同じ AFI 値を持つ RF タグのみと交信します。

本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

75

^{5.1.4} 自動読み取りモード動作時における AFI 指定読み取り

5.1.5 リトライ回数

リーダライタが RF タグとの交信を行う際のコマンドリトライ回数を設定します。 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

読み取り開始ブロック 読み取りパイト数:	設定 2番号:	値	更新	1
読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0		1
		4 📚		
	通常処理モ	-F		
製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効) ● ◆ 日 (接続数 - 1] ● 有効		
	◉ 無効	◯ 有効		
		1 💭 💿		
	③ 無効	◎ 有効		┢
-	⑥ 無効			
1	⊙ 無効	有効		
	◎ 標準			
+	⊙ 無効			
+	 ● 4/Ÿイト 	○ 8/Ÿ7 ト		
1	● 通常設定	O MB89R116/MB89R118		
RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効		
	 製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力: ロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	製品種別: ショートレンジ 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: ● 無効 アンテナID出力: ● 無効 ● ●	製品種別: ショートレンジ マ 接続アンテナ数: 0 (年) アンテナ自動切替: ● 無効 有効 アンテナID出力: ● 無効 有効 ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● 無効 有効 ● ● ● 無効 有効 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	製品種別: ショートレンジ 接続アンテナ数: 0 () アンテナ自動切替: ● 無効 アンテナロ出力: ● 無効 ● 無効 有効 ● ● 無効 ● 無効 有効 ● ● 無効 ● 無効 有効 ● ● 無効 ● ● 無効 ● ● 有効 ● ● 目 ● ● 目 ● ● 目 ● ● 目 ● ● 目 ● ● 目 ● ● ● ● ● ● ● ●

本設定値は上位システムからの1回のコマンド指示に対してリーダライタが実行するコマンドの最 大試行回数を設定します。

例.リトライ回数1回

上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは1回だけコマンドを実行して結果を返します。

例.リトライ回数3回 part1

上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは最大3回コマンドを実行して結 果を返します。

- リーダライタは、
- 1回目で RF タグからの応答が得られなかった場合に2回目のコマンドを実行します
- ・ 2回目で RF タグからの応答が得られた場合、コマンド実行結果を上位システムへ返します

例.リトライ回数3回 part2

上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは最大3回コマンドを実行して結果を返します。

リーダライタは、

- ・ 1回目で RF タグからの応答が得られなかった場合に 2回目のコマンドを実行します
- ・ 2回目で RF タグからの応答が得られなかった場合に3回目のコマンドを実行します
- ・ 3回目のコマンド実行結果を上位システムへ返します

5.1.6 SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定

リーダライタが SimpleWrite を実行する際に、RF タグとの交信に UID を使用するかどうかを設 定します。

EPRUMSImpleCont				X
	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:		
アンチコリジョンモード		通常処理モ	-¥	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	》	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 🔹 🗖	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		◉ 無効	◎ 有効	
自動読み取りモート動作時におけるトリガー信号入力		⑥ 無効	◎ 有効	
ノーリードコマンドの設定		④ 無効	○ 有効	
グザー種別の設定		◎ 標準	◯ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		◉ 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		 ④ 4/Ÿイト 	<mark>○</mark> 8/Ÿ7 ト	
RFタグ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS405接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	◎ 無効	○ 有効	

リーダライタの SimpleWrite は、以下の手順で実行されます。

手順1. UID の読み取り

RF タグの UID を読み取ります。

手順2. ユーザデータの書き込み RF タグのユーザ領域へ TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを書き込みます。

本設定値を「有効」にした場合は、手順1で読み取った UID を指定して手順2のデータ書き込み を実行します。

(手順2の実行時点で、手順1の実行時点では存在しなかった RF タグがアンテナ交信範囲内に存在していても、手順1で読み取った UID を持つ RF タグのみにデータを書き込むことができます。)

5.1.7 自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力 RFタグの読み取り条件にトリガー信号入力を指定するかどうかを設定します。

	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:)番号:	0 📚	
アンチコリジョンモード		通常処理モ	й •	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	;	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		● 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 🔹 🗖	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		③ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		④ 無効	○ 有効	
ノーリートコマンドの設定		◉ 無効	◎ 有効	
ブザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		💿 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	<mark></mark> 8/ĭ́1ト	
RFタグ通信設定		◎ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
₹\$485接機設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	

本設定値を「有効」に設定した場合は、トリガー信号未入力時には RF タグの読み取りを行わず、 トリガー信号入力時にのみ RF タグの読み取りを行います。

本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

5.1.8 ノーリードコマンドの設定

RF タグが読み取れなかった場合に、リーダライタがノーリードコマンドを送信するかどうかを設定します。

EEPROMSimpleConf				×	
	EEPROM簡易設定				
設定内容		設定	値	更新	
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロック 読み取りバイト数:	り番号:	0 🗢		
アンチコリジョンモード		通常処理モ	-×		
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	ショートレンジ ③ 無効 ③ 無効	;		
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◎ 無効	○ 有効		
リトライ回数			1 🗘 💿		
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		⊙ 無効	○ 有効		
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		⑥ 無効	○ 有効		
ノーリードコマンドの設定		④ 無効	○ 有効		
プザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大		Ρ
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		💿 無効	○ 有効		
RFタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	<mark></mark>		
RFタグ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118		
RS485接棘設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効		
	更新		ļ	 肌じる	

本設定は、連続インベントリモード時に適用されます。

5.1.9 ブザー種別の設定

リーダライタに搭載されているブザーの種別を設定します。

E	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定(直	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロック 読み取りバイト数:	7番号:		
アンチコリジョンモード		通常処理モー	- х	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	 ○ ● (接続数 - 1) ● 有効 	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 🔹 💿	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		④ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		◉ 無効	○ 有効	
ノーリードコマンドの設定		⊙ 無効	◯ 有効	
ブザー種別の設定		◎ 標準	○ ブザー音大	
目動読み取りモート動作時における読み取りエフー信号出力		◎ 無効	◯ 有効	
RFダグのメモリプロックサイズ	-	 ● 4/37 ト 	🔘 8/ነኀ/ ኮ	
RFタグ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	◉ 無効	○ 有効	

リーダライタ型式に「(B)」の含まれるリーダライタの場合は、「ブザー音大」を選択します。 その他のリーダライタの場合は「標準」を選択します。

リーダライタ型式に含まれる「(B)」は、ブザー音量の大きなブザーが搭載されていることを示し、 TR3-N001E(B)などの機種が該当します。

誤ったブザー種別を選択した場合は、ブザーが鳴動しなくなります。

^{5.1.10} 自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力 RF タグが読み取れなかった場合に、読み取りエラー信号(汎用ポート 3)を出力するかどうかを 設定します。

EPROMSimpleConf				X
	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:)番号:	0 💠	
アンチコリジョンモード		通常処理モ	-×	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	ショートレンジ ● 無効)	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		⊙ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 💭 💿	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		⊚ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		◎ 無効	○有効	
ノーリードコマンドの設定		() 無効	○ 有効	
ブザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		💿 無効	○ 有効	
RFタヴのメモリブロックサイズ		 ④ 4/Ÿイト 	0 8/571-	
RFタグ通信設定		⊙ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	
	更新		E B	見じる 📄

本設定値は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)においてアンチコリジョン設定を「無効」としている場合のみ適用されます。

本設定値を「有効」に設定した場合は、

- RF タグの読み取りを行っている間、汎用ポート3の値が「0」となります
- ・ RF タグの読み取りを行っていない間、汎用ポート3の値が「1」となります。

5.1.11 RF タグのメモリブロックサイズ

利用する RF タグのメモリブロックサイズを設定します。

	and an a state of the state of			
設定内容		設定	値	更新
DLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0 🛟	
ンチコリジョンモード		通常処理モ	→	
ンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	;	
動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
トライ回数			1 💭 👩	
mpleWriteコマンド実行時のUID指定		(③ 無効	○ 有効	
動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		() 無効	○ 有効	
ーリードコマンドの設定		• 無効	○ 有効	
ザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大	
動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		💿 無効	○ 有効	
Fタグのメモリブロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	<mark></mark> । 8/ү́1	
キタワ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
S485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	

5.1.12 RF タグ通信設定

利用する RF タグが富士通社製(MB89R116 または MB89R118) である場合には、

「MB89R116/MB89R118」を選択します。その他の RF タグを利用する場合は、「通常設定」を選択します。

なお、本設定は TR3-CF002 のみで利用できます。TR3-CF002 以外のリーダライタは、富士通製 RF タグ (MB89R116/MB89R118) をサポートしません。

	EEPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0 🗢	
アンチコリジョンモード		通常処理モ	-×	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	 ショートレンジ ● 無効 ● 無効 	;	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 📚 👝	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		(③ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		⑥ 無効	○ 有効	
/ーリードコマンドの設定		● 無効	○ 有効	
^プ ザー種別の設定		◉ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力		() 無効	○ 有効	
RFタグのメモリブロックサイズ		● 4/Ÿイト	○ 8/Ÿ7 ト	
RFタグ通信設定		⊙ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
75485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	
				115

5.1.13 RS485 接続設定

RS485 接続を利用する際に必要な情報を設定します。

E	EPROM簡易設定			
設定内容		設定	値	更新
RDLOOPモード動作時における読み取り範囲	読み取り開始ブロッ? 読み取りバイト数:	7番号:	0 🛟	
アンチコリジョンモード		通常処理モ	<u>ч</u>	
アンテナ切替設定	製品種別: 接続アンテナ数: アンテナ自動切替: アンテナID出力:	ショートレンジ● 無効● 無効)	
自動読み取りモード動作時におけるAFI値指定読み取り		◉ 無効	○ 有効	
リトライ回数			1 💭 👝	
SimpleWriteコマンド実行時のUID指定		(③ 無効	○ 有効	
自動読み取りモード動作時におけるトリガー信号入力		⑥ 無効	○ 有効	
/ーリードコマンドの設定		• 無効	○ 有効	
プザー種別の設定		◎ 標準	◎ ブザー音大	
自動読み取りモード動作時における読み取りエラー信号出力	-	⊙ 無効	○ 有効	
RFタグのメモリプロックサイズ		 ● 4/Ÿイト 	○ 8/ĭ1 ト	
RFタグ通信設定		③ 通常設定	O MB89R116/MB89R118	
RS485接続設定	RS485接続: リーダライタのID:	● 無効	○ 有効	

5.2 EEPROM 詳細設定[ROMversion1.34 以前]

ROM バージョン1.34以前のリーダライタとの通信時に表示される EEPROM 詳細設定画面について説明します。

- ※ リーダライタの ROM バージョン(1.34 以前または 1.35 以降)によって、EEPROM 詳細設定 画面の表示項目の一部が異なります。
- ※ EEPROM の設定値変更後は、リーダライタをリスタートすることが必要です。

メニューバー – [リーダライタ EEPROM 設定] – [EEPROM 詳細設定]

U TR3RWManager[TR3-G003]		
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート	専用メニュー@) 通信設定@	・ ヘルプ(円)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/Writ(B) EEPROM簡易設定(A)	インターフェース設定	10.16.77.170 10777
マンド 速続インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes EPPrOMai###atty,定しない。	J 🛪 🛛 🗖	デ <i>ー ዓ</i> クリア (F9)
アドレス指定読み取り(C)		
アドレス指定書き込み(D)		

5.2.1 EEPROM 設定一覧

本ソフトウエアで変更可能な EEPROM 設定値が一覧表示されます。

		EEPROM詳細設定		
	FEPROM設定一覧			
	設定内容	設定値	設定内容	設定値
	汎用ポート1の機能	LED制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード	コマンドモード
	汎用ポート2の機能	トリガー制御信号入力ポート	リーダライタ動作モード - アンチコリジョン	無効
	汎用ポート3の機能	機能選択	リーダライタ動作モード - 読み取り動作	連続読み取り
ーダライタ動作モード設定	汎用ポート7の機能	ブザー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - ブザー	鳴らす
	汎用ポート3の機能選択	RS485制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - 送信データ	ユーザデータのみ
RFタグ動作モード設定	汎用ポート1の入出力設定	入力	リーダライタ動作モード - 通信速度	19200bps
	汎用ポート2の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 符号化方式	ISO15693(1/4)
汎用ポート設定	汎用ポート3の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 変調度	10%
and the second second second	汎用ポート4の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - サブキャリア	デュアルサブキャリア(FSK)
アンテナ切替設定	汎用ポート5の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号	1
	汎用ポート6の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取りデータ長	4
合種設定し	汎用ポート7の入出力設定	入力	アンチコリジョンモード	通常処理モード
クチョンロー	汎用ポート8の入出力設定	入力	AFI値の設定(HEX)	0
1011年6月7月2	汎用ポート1の初期値	1	自動読み取りモード動作時のAFI指定	無効
	汎用ポート2の初期値	1	RFタグ通信コマンドのリトライ回数	1
	汎用ポート3の初期値	1	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定	無効
設定保存/復元	汎用ポート4の初期値	1	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	無効
	汎用ポート5の初期値	1	ノーリードコマンドの設定	無効
	汎用ポート6の初期値	1	ブザー種別の設定	標準
	汎用ポート7の初期値	1	1ブロック当たりのバイト数	4/5/L
	汎用ポート8の初期値	1	RFタグ通信設定	通常設定
	アンテナ自動切替	無効	リーダライタのID (HEX)	0
	接続アンテナ数	0	I-CODE SLIx サポート	無効
	アンテナ自動切替制御信号	通常ポート	RF送信信号設定	起動時ON
	アンテナ自動切替時のアンテナID出力	無効	My-d自動識別時のアクセス方式	My-dカスタムコマンド
	カスケード接続	無効	ReadBytes/RDLOOP系の内部処理	ReadSingleBlock
	カスケードポート1の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート2の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート3の接続アンテナ数	0		
語定線了	カスケードボート4の接続アンテナ数	0		1
BAAENS J	カスケードボート5の接続アンテナ数	0		
	カスケードボート6の接続アンテナ数	0		
	カスケードボート7の接続アンテナ数	0		
	カスケードボート8の接続アンテナ数	0		

5.2.2 リーダライタ動作モード設定

リーダライタの動作モードに関するパラメータを設定します。

EPROMConf	
	EEPROM詳細設定
EEPROM設定一覧	リーグライダ動作モード: コマンドモード
●リーダライク動作モード設定 <u>RFタグ動作モード設定</u> <u>汎用ポート設定</u> アンテナ切替設定 <u>各種設定1</u> 設定保存/復元	設定パラメータ アンチコリジョン: ● 無幼 有効 読み取り動作: ① 1回読み取り ● 連続読み取り ブザー: ● 鳴らさな(ハ) ● 鳴らす 送信データ: ● ユーザデータのみ ● ユーザデータ+ UID 通信速度: 19200bps ● ボーリング時間: ● 金 × 200ms
設定終了	

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、RF タグ動 作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

各パラメータの説明は、「4.4.1 リーダライタ動作モードの書き込み画面」を参照ください。 なお、通信速度は本設定画面から変更することはできません。 5.2.3 RF タグ動作モード設定 RF タグの動作モードに関するパラメータを設定します。

	EEPF	OM詳細設定		
	RFタグ動作モード設定			
EEPROM設定一覧	リーダライタ → RFタグ			
ーダライタ動作モード設定	符号化方式: ③ ISO15693(1/4) ③ ISO15693(1/256)			
●RFタグ動作モード設定	変調度: 💿 10% 🔿 100%			
<u>汎用ポート設定</u> アンテナ切替設定	RF Ø J → J - Ø 5 1 4			
<u>各種設定1</u>	サブキャリア: ○ シングルサブキャリア(ASK) ● デュアルサブキャリア(FSK)			
設定保存/復元	設定			

5.2.4 汎用ポート設定

汎用ポートに関するパラメータを設定します。

		EEPROM詳細設定					
	汎用ポート設定						
EEPROM設定一覧	汎用ポート	機能	<u>کا</u>	出力設定	初期	初期値	
	汎用ポート1	● LED制御信号出力ポート ○ 汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	⊙ 1	
動作モード設定	汎用ポート2	● トリガー制御信号入力ポート ○ 汎用ポート	⊙ 入力	〇出力	00	⊙ 1	
<u>用ポート設定</u> テナ切替設定 各種設定1	汎用ポート3	 ● 機能選択 ○ 汎用ポート 機能選択 ● RS485制御信号出力ポート ○ エラー制御信号出力ポート 	⊙ 入力	○ 出力	0	1	
	汎用ポート4	汎用ポート	⊙ 入力	〇出力	00	③ 1	
2/復元	汎用ポート5	汎用ポート	◎ 入力	〇出力	0 0	③ 1	
	汎用ポート6	汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	③ 1	
	汎用ポート7	◎ ブザー制御信号出力ポート 🛛 汎用ポート	⊙ 入力	◯ 出力	00	I	
	汎用ポート8	汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	③ 1	
設定終了						設定	

5.2.5 アンテナ切替設定

アンテナ切替に関するパラメータを設定します。

EEPROM設定=15 アンテナ切替設定 アンテナ自動切替: ● 無効 ● 有効 増核アンテナ数: ● ② (接続数 - 1) アンテナ自動切替制御信号: ● 通常未-ト ● 拡張ホート アンテナ自動切替制御信号: ● 通常未-ト ● 拡張ホート アンテナロ出力: ● 運始未-ト ● 拡張ホート パ用ボート設定 アンテナD出力: ● 無効 ● 有効 パ用ボート設定 アンテナD出力: ● 無効 ● 有効 カスケード扱奈: ● 無効 ● 有効 カスケード扱係: ● 無効 ● 有効 カスケード扱奈: ● 無効 ● 有効 カスケード恐ゃートの接続アンテナ数: ● (0+8 [0+8 [0+8 (0+8 [0+8 [0+8 [0+8 [0+8 [0+8 [0+8 [0+8 [EEPROM詳緒	設定	
正EPROM設定=13 ワンテナ自動切替: ● 無効 有効 ガジウク動作モード設定 アンラナ自動切替制御信号: ● 通常ポート ● 道常ポート アンラナ自動切替制御信号: ● 通常ポート ● 拡張ホート アンラナ回出力: ● 無効 ● 有効 カスクード接続: ● 無効 ● 有効 アンラナ切替設定 118日 248目(0-8 [0+k(使用]) 各種設定1 148日 248目(0-8 [0+k(使用]) カスクードボートロ協統アンラナ数: 0 ⊕ カスクードボート2の接続アンラナ数: 0 ⊕ カスケードボート6の接続アンラナ数: 0 ⊕ カスケードボート6の接続アンラナ数: 0 ⊕ カスケードボート6の接続アンラナ数: 0 ⊕ カスケードボート5の接続アンラナ数: 0 ⊕ カスケードボート6の接続アンラナ数: 0 ⊕ カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 ⊕	アンテナ	切替設定			
-グライク動作モード設定 「総売アンテナ数: 0 @ [接続数 - 1] アンラナ自動切替制御官号: 通常ポート 近線ポート アンラナ自動切替制御官号: 通常ポート 近線ホート プレラナ印登設定 アンラナ印登設定 16日 クアンラナ切替設定 16日 260日 (0-8 [0-8 [0-8 [0-8 [0-8 [0-8 [0-8 [0-8 [<u>OM設定一覧</u> アンテナ	自動切替:	● 無効	○ 有効	
-グライク動作モード設定 アンラナ自動切替制御信号: ④ 通常ボート ① 拡張ボート RF女グ動作モード設定 アンラナロ出力: ● 無効 ● 有効 カスケード接続: ● 無効 ● 有効 クンラナ切替設定 162目 248目(0-8[0未使用]) カスケードボート10増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート10増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート20増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート30増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート40増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート30増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート30増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート30増続アンテナ数: 0 個 カスケードボート60増続アンテナ数: 0 個	接続アン	/テナ数:	0 🗢 [接続数 - 1]	
PC-ダウ動作モード設定 アンテナロ出力: ● 無効 有効 ル用ボート設定 カスケード接続: ● 無効 有効 ●アンテナ切替設定 1段目 2段目(0-8[0未使用]) 各種設定: 1段目 2段目(0-8[0未使用]) カスケードボート1の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート2の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 合	<u>作モード設定</u> アンテナ	自動切替制御信号:	⊙ 通常ポート	○ 拡張ポート	
汎用ボート設定 カスケード接続: ● 無効 有効 ●アンテナ切替設定 162目 242日(0-8[0未使用]) 各種設定i カスケードボート1の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート2の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート3の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0 合 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 合	作モード設定 アンテナ	ID出力:	● 無効	○有効	
●アンテナ切替設定 1段目 2段目(0-8[0未使用]) ふスケードボート1の接続アンテナ数: 0金 カスケードボート2の接続アンテナ数: 0金 カスケードボート3の接続アンテナ数: 0金 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0金 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0金 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0金	用ポート設定 カスケー	ド接続:	() 無効	○ 有効	
各種設定は カスケードボート1の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート2の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート3の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 含	5 力切替設定	1段目	2段目(0-8[():未使用])	
設定保存/復元 カスケードボート2の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート3の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 0	<u>各種設定1</u> カスケー	ドポート1の接続アンテナ数:	0 🕹		
設定保存/復元 カスケードボート3の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート7の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート7の接続アンテナ数: 0 0 カスケードボート8の接続アンテナ数: 0 0	カスケー	ドポート2の接続アンテナ数:	0 5		
設定保存/復元 カスケードボート4の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート5の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート6の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート7の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート7の接続アンテナ数: 0 含 カスケードボート8の接続アンテナ数: 0 含	カスケー	ドボート3の接続アンテナ数:	0 💠		
カスケードポート5の接続アンテナ数: 0 金 カスケードポート6の接続アンテナ数: 0 金 カスケードポート7の接続アンテナ数: 0 金	保存/復元 カスケー	ドボート4の接続アンテナ数:	0 0		
カスケードポート6の接続アンテナ数: 0 ☆ カスケードポート7の接続アンテナ数: 0 ☆ カスケードポート8の接続アンテナ数: 0 ☆	カスケー	ドボート5の接続アンテナ数:	0 👙		
カスケードボート7の接続アンテナ数: 0 金	カスケー	ドボート6の接続アンテナ数:	0 🔅		
カスケードボート8の接続アンテナ数:	カスケー	ドポート7の接続アンテナ数:	0 🗢		
	カスケー	ドボート8の接続アンテナ数:	0 🗘		
設定	EA			設定	
	設定於了				

- アンテナ自動切替 リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- 接続アンテナ数
 リーダライタに接続されたアンテナ数 -1を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~7」です。
 本設定値は、アンテナ切替機をカスケード接続していない場合に有効となります。
 アンテナ切替機をカスケード接続している場合は無効です。
- アンテナ自動切替制御信号 アンテナの自動切替処理に使用する入出力ポートを選択します。
- アンテナ ID 出力 リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用した アンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- カスケード接続
 アンテナ切替機をカスケード接続するかどうか選択します。
- カスケードポートの接続アンテナ数
 各カスケードポート毎に接続アンテナ数を入力します。
 本設定値は、カスケード接続が「有効」の場合のみ入力が可能です。
 入力可能な値の範囲は「0~8」です。
 アンテナを接続しないカスケードポートには「0」を入力します。

EEPROMConf				X
	_	EEPROM詳緒	細設定	
	アンテナ切替設定			
<u>EEPROM設定一覧</u>	アンテナ自動切替:	💽 無効	○ 有効	
	接続アンテナ数:	0 📚	[接続数 - 1]	
リーダライタ動作モード設定	アンテナ自動切替制御信号:	💿 通常ポート	○ 拡張ポート	
RFタグ動作モード設定	アンテナID出力:	● 無効	○ 有効	
汎用ポート設定	カスケード接続:	◯ 無効	 有効 	
●アンテナ切替設定	1段目	2段目(0-8[0:未使用])	
<u>各種設定1</u>	カスケードボート1の接続アンテナ数:	0 🖨		
	カスケードボート2の接続アンテナ数:	0 😂		
	カスケードボート3の接続アンテナ数:	0 🗢		
設定保存/復元	カスケードポート4の接続アンテナ数:	0 😂		
	カスケードボート5の接続アンテナ数:	0 😂		
	カスケードボート6の接続アンテナ数:	0 ᅌ		
	カスケードボート7の接続アンテナ数:	0 🗢		
	カスケードボート8の接続アンテナ数:	0 📚		
			設定	
設定於了				

5.2.6 各種設定1

EEPROMConf				
		EEPROM詳緒	田設定	
	各種設定1			
EEPROM設定一覧	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号:	1 📚		
	RDLOOPモード読み取りデータ長:	4 🤤		
リーダライタ動作モード設定	アンチコリジョンモード:	通常処理モード		
<u>RFタグ動作モード設定</u>	AFI値の設定 (HEX):	0 🗢		
汎用术一ト設定	自動読み取りモード動作時のAFI指定:	() 無効	◯ 有効	
アンテナ切替設定	RFタグ通信コマンドのリトライ回数:	1 🜲		
● <u>各種設定1</u>	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定:	() 無効	◯ 有効	
<u>各種設定2</u>	自動読み取りモード動作時のトリガー信号:	(③ 無効	◯ 有効	
	ノーリードコマンドの設定:	💿 無効	◯ 有効	
設定保存/復元	ブザー種別の設定:	● 標準	◯ ブザー音大	大
	1ブロック当たりのバイト数:	● 4/Ÿイト	🔘 8/ 위イト	
	リーダライタのID(HEX):	0 🗢		
	I-CODE SLIx サポート:	(💿 無効	◯ 有効	
			設定	
5A, ch 4A				
設定於了				
	<u> </u>			

- RDLOOP モード読み取り開始ブロック番号 RDLOOP モードで動作する際に読み取りを開始するブロック番号を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~255」です。
- RDLOOP モード読み取りデータ長
 RDLOOP モードで動作する際に読み取るデータ量(バイト数)を入力します。
 入力可能な値の範囲は「1~247」です。
- アンチコリジョンモード アンチコリジョン処理(複数の RF タグと同時に交信する際に発生する衝突を回避するための 処理)の速度を選択します。

本設定値は、次の動作に適用されます。

- ・コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モード など)においてアンチコリジョン設定を「有効」としている場合の読み取り
- Inventory2
- ・RDLOOPCmdにおいてアンチコリジョン設定を「有効」としている場合の読み取り
- AFI 値の設定(HEX)
 AFI 値を 16 進数で入力します。
 入力可能な値の範囲は「0 (0x00) ~FF (0xFF)」です。
- 自動読み取りモード動作時の AFI 指定 コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードな ど)時に RF タグの AFI 値を指定した読み取りを行うかどうかを選択します。

本設定値を「有効」にした場合は、リーダライタの EEPROM に書き込まれた AFI 指定値と同じ AFI 値を持つ RF タグのみと交信します。

 ● RF タグ通信コマンドのリトライ回数 リーダライタが RF タグとの交信を行う際のコマンドリトライ回数を設定します。 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

例.リトライ回数1回 上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは1回だけコマンドを実行し て結果を返します。

例.リトライ回数3回 上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは最大3回コマンドを実行し て結果を返します。 リーダライタは、

- ・1回目でRFタグからの応答が得られなかった場合に2回目のコマンドを実行します
- ・2回目でRFタグからの応答が得られなかった場合に3回目のコマンドを実行します
- ・3回目のコマンド実行結果を上位システムへ返します

● SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定

リーダライタが SimpleWrite を実行する際に、RF タグとの交信に UID を使用するかどうかを 設定します。

リーダライタの SimpleWrite は、以下の手順で実行されます。

- 手順1. UID の読み取り
- RF タグの UID を読み取ります。
- 手順2. ユーザデータの書き込み RF タグのユーザ領域へ TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを書き込みます。

本設定値を「有効」にした場合は、手順1で読み取った UID を指定して手順2のデータ書き込みを実行します。

(手順2の実行時点で、手順1の実行時点では存在しなかった RF タグがアンテナ更新範囲内に存在していても、手順1で読み取った UID を持つ RF タグのみにデータを書き込むことができます。)

● 自動読み取りモード動作時のトリガー信号 RFタグの読み取り条件にトリガー信号入力を指定するかどうかを設定します。

本設定値を「有効」に設定した場合は、トリガー信号未入力時には RF タグの読み取りを行わ ず、トリガー信号入力時にのみ RF タグの読み取りを行います。 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

● ノーリードコマンドの設定 RF タグが読み取れなかった場合に、ノーリードコマンドを送信するかどうかを設定します。

本設定は、連続インベントリモード時に適用されます。

94

● ブザー種別の設定 リーダライタに搭載されているブザーの種別を設定します。

リーダライタ型式に「(B)」の含まれるリーダライタの場合は、「ブザー音大」を選択します。 その他のリーダライタの場合は「標準」を選択します。

リーダライタ型式に含まれる「(B)」は、ブザー音量の大きなブザーが搭載されていることを示し、TR3-N001E(B)などの機種が該当します。

誤ったブザー種別を選択した場合は、ブザーが鳴動しなくなります。

- 1 ブロック当たりのバイト数 利用する RF タグのメモリブロックサイズを設定します。
- リーダライタの ID(HEX)
 RS485 接続を利用する際にリーダライタへ割り当てる ID を 16 進数で設定します。
 入力可能な値の範囲は「0 (0x00) ~FF (0xFF)」です。
- I-CODE SLIX サポート
 I-CODE SLIX との交信を行うかどうかを設定します。
 本設定値を「有効」に設定した場合は、I-CODE SLIX と交信できます。
 本設定値を「無効」に設定した場合は、I-CODE SLIX に対する一部のコマンドが正常に動作しません。

5.2.7 設定保存/復元

リーダライタの EEPROM 設定値をテキストファイルに保存します。(バックアップ) または、テキストファイルに保存された EEPROM 設定値を復元します。(リストア)

EEPROMConf	
	EEPROM詳細設定
	設定保存/復元
EEPROM設定一覧	設定の保存
リーダライタ動作モード設定	EEPROMの設定値をファイルに保存します。 設定保存
RFタグ動作モード設定	
汎用ポート設定	設定の復元
アンテナ切替設定	EEPROMの設定値をファイルから復元します。現在の設定値は上書きされます。
<u>各種設定1</u>	設定復元
●設定保存/復元	
<u>設定終了</u>	

※ 注意事項

設定復元は、必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用 してください。

また、設定保存機能によって出力されたテキストファイルの内容をテキストエディタ等で編集 することは絶対にしないでください。

※ 注意事項2

設定復元の機能は、本ソフトのバージョン間で互換性がありません。

TR3RWManager v1.3.0.0 以前の TR3RWManager を使用して保存された情報を TR3RWManager v1.3.0.0の本機能で復元することはできません。

設定保存/復元を行う際には、同一バージョンの TR3RWManager をご使用ください。

● 設定保存(バックアップ)
 現在の EEPROM 設定値をテキストファイルに保存します。

[設定保存]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

保存先のファイルを	選択してください					? 🛛
保存する場所型:	😂 work		~	GØE	୭	
していたつたつァイル						
です デスクトップ						
ک ۲۲ ۴¥۱ ۲۶						
ער דאר אד אר בארב אד						
S						
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	default.tr3eep			~	保存(S)
	ファイルの種類(工):	TR3設定ファイル(*.tr3eep)			~	キャンセル

保存先のフォルダ、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックします。 保存に成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🛛
(į)	設定値を保存しました。
(ОК

97

● 設定復元(リストア)

テキストファイルに保存された EEPROM 設定値を復元します。 必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用してください。

復元処理を実行すると現在の EEPROM 設定値は上書きされます。 事前に現在の設定値を保存しておくことをお奨めします。

[設定復元]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

復元元のファイルを	選択してください						? 🛛
ファイルの場所型:	😂 work		~	G	1 🕫 🛛		
していた 最近使ったファイル	radefault.tr3eep						
ごう デスクトップ							
الالا الم							
ער דאר אד א- גארב אד							
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	default.tr3eep			~]	₩(@)
	ファイルの種類(工):	TR3設定ファイル(*.tr3eep)			~]	キャンセル

復元元のファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。 復元が成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🛛 🔀
(į)	設定値を復元しました。
ĺ	OK

5.3 EEPROM 詳細設定[ROMversion1.35 以降]

ROM バージョン1.35 以降のリーダライタとの通信時に表示される EEPROM 詳細設定画面について説明します。

- ※ リーダライタの ROM バージョン(1.34 以前または 1.35 以降)によって、EEPROM 詳細設定 画面の表示項目の一部が異なります。
- ※ EEPROM の設定値変更後は、リーダライタをリスタートすることが必要です。

メニューバー – [リーダライタ EEPROM 設定] – [EEPROM 詳細設定]

📙 TR3 RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(I) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルブ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/Writ	EEPROM簡易設定(A) BI EEEPROME#Search(A) BI EEEPROME#Search(A) BI EEEPROME#Search(A) 1/29-7I-ス設定 10.16.77.170 10777
コマンド 連続インベントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes	データクリア (F9)
受信子	アドレス指定読み取り(Q)
	アドレス指定書き込み(型)

5.3.1 EEPROM 設定一覧

本ソフトウエアで変更可能な EEPROM 設定値が一覧表示されます。

		EEPROM詳細設定		
	EEPROM設定一覧			
● FEPROM 設定→暫	設定内容	設定値	設定内容	設定値
CELLING MARKE W.I	汎用ポート1の機能	LED制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード	コマンドモード
	汎用ポート2の機能	トリガー制御信号入力ポート	リーダライタ動作モード - アンチコリジョン	無効
	汎用ポート3の機能	機能選択	リーダライタ動作モード - 読み取り動作	連続読み取り
レーダライタ動作モード設定	汎用ポート7の機能	ブザー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - ブザー	鳴らす
	汎用ポート3の機能選択	RS485制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - 送信データ	ユーザデータのみ
RFタグ動作モード設定	汎用ポート1の入出力設定	入力	リーダライタ動作モード - 通信速度	19200bps
	汎用ポート2の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 符号化方式	ISO15693(1/4)
汎用ポート設定	汎用ポート3の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 変調度	10%
	汎用ポート4の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - サブキャリア	デュアルサブキャリア(FSK)
アンテナ切替設定	汎用ポート5の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号	1
	汎用ポート6の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取りデータ長	4
<u>各種設定</u>]	汎用ポート7の入出力設定	入力	アンチコリジョンモード	通常処理モード
やおモルーロ	汎用ポート8の入出力設定	入力	AFI値の設定(HEX)	0
合律設定と	汎用ポート1の初期値	1	自動読み取りモード動作時のAFI指定	無効
	汎用ポート2の初期値	1	RFタグ通信コマンドのリトライ回数	1
	汎用ポート3の初期値	1	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定	無効
設定保在/復元	汎用ポート4の初期値	1	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	無効
BAAL 100 117 1087 6	汎用ポート5の初期値	1	ノーリードコマンドの設定	無効
	汎用ポート6の初期値	1	ブザー種別の設定	標準
	汎用ポート7の初期値	1	1ブロック当たりのバイト数	4/5715
	汎用ポート8の初期値	1	RFタグ通信設定	通常設定
	アンテナ自動切替	無効	リーダライタのID (HEX)	0
	接続アンテナ数	0	I-CODE SLIx サポート	無効
	アンテナ自動切替制御信号	通常ポート	RF送信信号設定	起動時ON
	アンテナ自動切替時のアンテナID出力	無効	My-d自動識別時のアクセス方式	My-dカスタムコマンド
	カスケード接続	無効	ReadBytes/RDLOOP系の内部処理	ReadSingleBlock
	カスケードポート1の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート2の接続アンテナ数	0		1
	カスケードポート3の接続アンテナ数	0		1
設定線フ	カスケードボート4の接続アンテナ数	0		1
EXACTO: 1	カスケードボート5の接続アンテナ数	0		
	カスケードボート6の接続アンテナ数	0		1
	カスケードボート7の接続アンテナ数	0		
	カスケードボート8の接続アンテナ数	0		

5.3.2 リーダライタ動作モード設定

リーダライタの動作モードに関するパラメータを設定します。

EEPROMConf		(
	EEPROM詳細設定	
<u>EEPROM設定一覧</u>	<mark>リーダライタ動作モード設定</mark> リーダライタ動作モード: コマンドモード ✓	
●リーグライク動作モード設定 <u>RFタグ動作モード設定</u> <u>汎用ポート設定</u> <u>アンテナ切替設定</u> <u>各種設定1</u> <u>各種設定1</u> <u>各種設定2</u> <u>設定保存/復元</u>	設定パラメータ アンチコリジョン: ● 無効 請み取り動作: ① 1回読み取り ブザー: ● 鳴らさない ● 鳴らさない 鳴らす 送信データ: ● ユーザデータのみ ● ユーザデータ・UID 通信速度: 19200bps ポーリング時間: ● 金 酸定	
設定終了		

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、RF タグ動 作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

各パラメータの説明は、「4.4.1 リーダライタ動作モードの書き込み画面」を参照ください。 なお、通信速度は本設定画面から変更することはできません。 5.3.3 RF タグ動作モード設定

EPROMConf	EEPROM詳細設定	
	RFタグ動作モード設定	
<u>EEPROM設定一覧</u>	リーダライタ → RFタグ	
リーダライタ動作モード設定	符号化方式: ISO15693(1/4) ISO15693(1/256) 	
● RFタグ動作モード設定	変調度: ◎ 10% ○ 100%	
<u>汎用ポート設定</u> アンテナ切替設定	RFタグ → リーダライタ	
<u>各種設定1</u>	サブキャリア: 〇 シングルサブキャリア(ASK)	
各種設定2	● デュアルサブキャリア(FSK)	
設定保存/復元	設定	
設定終了		

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、リーダラ イタ動作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

5.3.4 汎用ポート設定

汎用ポートに関するパラメータを設定します。

		EEPROM詳細設定					
	汎用ポート設定						
PROM設定一覧	汎用ポート	機能	入出力設定		初期	初期値	
	汎用ポート1	③ LED制御信号出力ポート ○ 汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	③ 1	
<u>- ド設定</u> - ド設定	汎用ポート2	◉ トリガー制御信号入力ポート 🔘 汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	⊙ 1	
<u>-ト設定</u> 11替設定 種設定1	汎用ポート3	 ○ 機能選択 ● 汎用ポート 機能選択 ○ RS485制御信号出力ポート ● エラー制御信号出力ポート 	⊙ 入力	○ 出力	0	⊙ 1	
種設定2	汎用ポート4	汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	1	
復元	汎用ポート5	汎用ポート	⊙ 入力	〇出力	00	⊙ 1	
	汎用ポート6	汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	0 0	⊙ 1	
	汎用ポート7	◎ ブザー制御信号出力ポート 🛛 汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	⊙ 1	
	汎用ポート8	汎用ポート	⊙ 入力	○ 出力	00	1	
設定終了						設定	

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、リーダラ イタ動作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

5.3.5 アンテナ切替設定

アンテナ切替に関するパラメータを設定します。

		EEPROM詳細	田設定	
	アンテナ切替設定			
EEPROM設定一覧	アンテナ自動切替:	◎ 無効	◎ 有効	
	接続アンテナ数:	0 📚 🛛	接続数 – 1]	
-ダライタ動作モード設定	アンテナ自動切替制御信号:	◎ 通常ポート	○ 拡張ポート	
RFタグ動作モード設定	アンテナID出力:	() 無効	○ 有効	
汎用ポート設定	カスケード接続:	(💿 無効	○ 有効	
●アンテナ切替設定	1段目	2段目(0-8[0	0:未使用])	
<u>各種設定1</u>	カスケードポート1の接続アンテナ数:	0 👌		
<u>各種設定2</u>	カスケードボート2の接続アンテナ数:	0 😋		
	カスケードポート3の接続アンテナ数:	0 🛟		
設定保存/復元	カスケードポート4の接続アンテナ数:	0 🜲		
	カスケードポート5の接続アンテナ数:	0 🛫		
	カスケードポート6の接続アンテナ数:	0 💠		
	カスケードポート7の接続アンテナ数:	0 0		
	カスケードポート8の接続アンテナ数:	0 0		
	namu yana - yanda kapadi katalar dilangkata (2012) (
設定終了				

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、リーダラ イタ動作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- アンテナ自動切替 リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- 接続アンテナ数
 リーダライタに接続されたアンテナ数 -1を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~7」です。
 本設定値は、アンテナ切替機をカスケード接続していない場合に有効となります。
 アンテナ切替機をカスケード接続している場合は無効です。
- アンテナ自動切替制御信号 アンテナの自動切替処理に使用する入出力ポートを選択します。
- アンテナ ID 出力 リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用した アンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- カスケード接続
 アンテナ切替機をカスケード接続するかどうか選択します。
- カスケードポートの接続アンテナ数
 各カスケードポート毎に接続アンテナ数を入力します。
 本設定値は、カスケード接続が「有効」の場合のみ入力が可能です。
 入力可能な値の範囲は「0~8」です。
 アンテナを接続しないカスケードポートには「0」を入力します。

EEPROMConf			
		EEPROM詳細設定	
	アンテナ切替設定		
<u>EEPROM設定一覧</u>	アンテナ自動切替:	 ● 無効 ○ 有効 	
	接続アンテナ数:	0 📚 [接続数 - 1]	
リータライタ動作モード設定	アンテナ自動切替制御信号:	 ⊙ 通常ポート ○ 拡張ポート 	
RFタグ動作モード設定	アンテナID出力:	 ● 無効 ○ 有効 	
汎用ポート設定	カスケード接続:	○ 無効 ● 有効	
●アンテナ切替設定	1段目	2段目(0-8[0未使用])	
<u>各種設定1</u>	カスケードボート1の接続アンテナ数:	0 🗢	
<u>各種設定2</u>	カスケードボート2の接続アンテナ数:	0	
	カスケードボート3の接続アンテナ数:	0 😂	
設定保存/復元	カスケードボート4の接続アンテナ数:	0	
	カスケードボート5の接続アンテナ数:	0 😂	
	カスケードボート6の接続アンテナ数:	0	
	カスケードボート7の接続アンテナ数:	0	
	カスケードボート8の接続アンテナ数:	0	
		設定	
設定於了			
	L		

5.3.6 各種設定1

EEPROMConf					×
		EEPROM詳緒	田設定		
	各種設定1				
<u>EEPROM設定一覧</u>	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号: RDLOOPモード読み取りデータ長:	1 🗘			
リーダライタ動作モード設定	アンチコリジョンモード:	通常処理モード		×	
RFタグ動作モード設定	AFI値の設定 (HEX):	0 🗢			
汎用ポート設定	自動読み取りモード動作時のAFI指定:	() 無効	◯ 有効		
アンテナ切替設定	RFタグ通信コマンドのリトライ回数:	1 🜲			
● <u>各種設定1</u>	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定:	(💿 無効	◯ 有効		
<u>各種設定2</u>	自動読み取りモード動作時のトリガー信号:	💿 無効	◯ 有効		
	ノーリードコマンドの設定:	💽 無効	◯ 有効		
設定保存/復元	ブザー種別の設定:	● 標準	○ ブザー音大	₹	
	1ブロック当たりのバイト数:	 (● 4/Ÿ/ト 	O 8/Ÿ∕ ŀ		
	リーダライタのID(HEX):	0 🗘			
	I-CODE SLIx サポート:	💽 無効	🔘 有効		
			1 14-00	2	
			ER/E	<u>-</u>	
設定終了					
	<u></u>				

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、リーダラ イタ動作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- RDLOOP モード読み取り開始ブロック番号 RDLOOP モードで動作する際に読み取りを開始するブロック番号を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~255」です。
- RDLOOP モード読み取りデータ長
 RDLOOP モードで動作する際に読み取るデータ量(バイト数)を入力します。
 入力可能な値の範囲は「1~247」です。
- アンチコリジョンモード アンチコリジョン処理(複数の RF タグと同時に交信する際に発生する衝突を回避するための 処理)の速度を選択します。

本設定値は、次の動作に適用されます。

- ・コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モード など)においてアンチコリジョン設定を「有効」としている場合の読み取り
- Inventory2
- ・RDLOOPCmdにおいてアンチコリジョン設定を「有効」としている場合の読み取り
- AFI 値の設定(HEX)
 AFI 値を 16 進数で入力します。
 入力可能な値の範囲は「0 (0x00) ~FF (0xFF)」です。
- 自動読み取りモード動作時の AFI 指定 コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードな ど)時に RF タグの AFI 値を指定した読み取りを行うかどうかを選択します。

本設定値を「有効」にした場合は、リーダライタの EEPROM に書き込まれた AFI 指定値と同じ AFI 値を持つ RF タグのみと交信します。

 ● RF タグ通信コマンドのリトライ回数 リーダライタが RF タグとの交信を行う際のコマンドリトライ回数を設定します。 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

例.リトライ回数1回 上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは1回だけコマンドを実行し て結果を返します。

例.リトライ回数3回 上位システムからの1回のコマンド指示に対して、リーダライタは最大3回コマンドを実行し て結果を返します。 リーダライタは、

- ・1回目でRFタグからの応答が得られなかった場合に2回目のコマンドを実行します
- ・2回目でRFタグからの応答が得られなかった場合に3回目のコマンドを実行します
- ・3回目のコマンド実行結果を上位システムへ返します
● SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定

リーダライタが SimpleWrite を実行する際に、RF タグとの交信に UID を使用するかどうかを 設定します。

リーダライタの SimpleWrite は、以下の手順で実行されます。

手順1. UID の読み取り

RF タグの UID を読み取ります。

手順2. ユーザデータの書き込み

RF タグのユーザ領域へ TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを書き込みます。

本設定値を「有効」にした場合は、手順1で読み取った UID を指定して手順2のデータ書き込みを実行します。

(手順2の実行時点で、手順1の実行時点では存在しなかった RF タグがアンテナ更新範囲内に存在していても、手順1で読み取った UID を持つ RF タグのみにデータを書き込むことができます。)

● 自動読み取りモード動作時のトリガー信号 RFタグの読み取り条件にトリガー信号入力を指定するかどうかを設定します。

本設定値を「有効」に設定した場合は、トリガー信号未入力時には RF タグの読み取りを行わ ず、トリガー信号入力時にのみ RF タグの読み取りを行います。 本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

● ノーリードコマンドの設定 RF タグが読み取れなかった場合に、ノーリードコマンドを送信するかどうかを設定します。

本設定は、連続インベントリモード時に適用されます。

● ブザー種別の設定 リーダライタに搭載されているブザーの種別を設定します。

リーダライタ型式に「(B)」の含まれるリーダライタの場合は、「ブザー音大」を選択します。 その他のリーダライタの場合は「標準」を選択します。

リーダライタ型式に含まれる「(B)」は、ブザー音量の大きなブザーが搭載されていることを示し、TR3-N001E(B)などの機種が該当します。

誤ったブザー種別を選択した場合は、ブザーが鳴動しなくなります。

- 1ブロック当たりのバイト数 利用する RF タグのメモリブロックサイズを設定します。
- リーダライタの ID(HEX)
 RS485 接続を利用する際にリーダライタへ割り当てる ID を 16 進数で設定します。
 入力可能な値の範囲は「0 (0x00) ~FF (0xFF)」です。
- I-CODE SLIX サポート
 I-CODE SLIX との交信を行うかどうかを設定します。
 本設定値を「有効」に設定した場合は、I-CODE SLIX と交信できます。
 本設定値を「無効」に設定した場合は、I-CODE SLIX に対する一部のコマンドが正常に動作しません。

5.3.7 各種設定 2

EEPROMConf		
		EEPROM詳細設定
	各種設定2	
<u>EEPROM設定一覧</u>	RF送信信号設定:	起動時ON
<u>リーダライタ動作モード設定 RFタグ動作モード設定 汎用ポート設定</u>	My-d自動識別時のアクセス方式: ReadBytes/RDLOOP系の内部処理:	 ● My-dカスタムコマンド ● IS015693オプションマンド ● ReadSingleBlock
<u>アンテナ切替設定</u> <u>各種設定1</u>		ReadMultiBlock
●各種設定2		
設定保存/復元		設定
設定終了		

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、リーダラ イタ動作モード設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- RF 送信信号設定
 RF 送信信号設定を以下の3種類から選択します。
 ・起動時 ON
 リーダライタの電源投入時に RF 送信信号(キャリア)の出力を開始する設定です。
 - ・起動時 OFF (コマンド受付以降 ON) リーダライタの電源投入後、最初のコマンド実行時に RF 送信信号(キャリア)の出力を 開始する設定です。
 - ・コマンド実行時以外は常時 OFF コマンド実行時のみ RF 送信信号(キャリア)の出力を行う設定です。

● My-d 自動識別時のアクセス方式 My-d 自動識別時のアクセス方式を以下の2種類から選択します。

- ・My-d カスタムコマンド My-d カスタムコマンド (Myd_Read/Myd_Write)を使用して 8 バイト単位で アクセスする方式 (ページアクセス方式)です。
- ・ISO15693 オプションコマンド ISO15693 オプションコマンド(ReadSingleBlock/WriteSingleBlock など)を使用して 4 バイト単位でアクセスする方式(ブロックアクセス方式)です。
- ReadBytes/RDLOOP 系の内部処理 ReadBytes/RDLOOP 系の内部処理を以下の2種類から選択します。
 - $\boldsymbol{\cdot} \operatorname{ReadSingleBlock}$
 - $\boldsymbol{\cdot} \operatorname{ReadMultiBlock}$

5.3.8 設定保存/復元

リーダライタの EEPROM 設定値をテキストファイルに保存します。(バックアップ) または、テキストファイルに保存された EEPROM 設定値を復元します。(リストア)

EEPROMConf	
	EEPROM詳細設定
	設定保存/復元
EEPROM設定一覧	設定の保存
リーダライタ動作モード設定	EEPROMの設定値をファイルに保存します。 設定保存
RFタグ動作モード設定	
汎用ポート設定	
アンテナ切替設定	EEPROMの設定値をファイルから復元します。現在の設定値は上書きされます。
<u>各種設定1</u>	設定復元
<u>各種設定2</u>	
●設定保存/復元	
設定終了	

※ 注意事項1

設定復元は、必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用 してください。

また、設定保存機能によって出力されたテキストファイルの内容をテキストエディタ等で編集 することは絶対にしないでください。

※ 注意事項2

設定復元の機能は、本ソフトのバージョン間で互換性がありません。

TR3RWManager v1.3.0.0 以前の TR3RWManager を使用して保存された情報を TR3RWManager v1.3.0.0の本機能で復元することはできません。

設定保存/復元を行う際には、同一バージョンの TR3RWManager をご使用ください。

● 設定保存(バックアップ)
 現在の EEPROM 設定値をテキストファイルに保存します。

[設定保存]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

保存先のファイルを	選択してください					? 🛛
保存する場所①:	😂 work		~	000	୭	
していたつたつァイル						
です デスクトップ						
ک ۲۲ ۴¥۱ ۲۶						
ער דאר אד אר בארב אד						
S						
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	default.tr3eep			~	保存(S)
	ファイルの種類(工):	TR3設定ファイル(*.tr3eep)			~	キャンセル

保存先のフォルダ、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックします。 保存に成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🛛
(į)	設定値を保存しました。
(ОК

● 設定復元(リストア)

テキストファイルに保存された EEPROM 設定値を復元します。 必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用してください。

復元処理を実行すると現在の EEPROM 設定値は上書きされます。 事前に現在の設定値を保存しておくことをお奨めします。

[設定復元]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

復元元のファイルを	選択してください						? 🛛
ファイルの場所型:	😂 work		~	G	1 🕫 🛛		
していた 最近使ったファイル	radefault.tr3eep						
ごう デスクトップ							
الالا الم							
ער דאר אד א- גארב אד							
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	default.tr3eep			~]	■((_)
	ファイルの種類(工):	TR3設定ファイル(*.tr3eep)			~]	キャンセル

復元元のファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。 復元が成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🛛 🔀
(į)	設定値を復元しました。
ĺ	OK

第6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B]

本章では、ゲート型リーダライタ専用の EEPROM 設定内容と各種機能について説明します。

ゲート専用メニューのメニュー項目は、通信中のリーダライタ種別(TR3-G001B または TR3-G003) によって内容が異なります。

本章では、TR3-G001B について説明します。

メニュー項目	TR3-G001B	TR3-G003
EEPROM 設定	0	0
ゲート動作モードの読み取り	0	0
ゲート動作モードの書き込み	0	0
ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り	0	0
ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御	0	0
外部リレー解除スイッチ/DIPSW 状態の読み取り	0	0
赤外線センサー状態の読み取り	0	0
焦電センサー状態の読み取り	0	×
カウント値の書き込み	0	0
カウント値送信タイマのリセット	0	0
音声スピーカの音量	×	0
IO 基板 ROM バージョンの読み取り	×	0
音声&ランプの制御	×	0
カウント値の読み取り	0	0

6.1 EEPROM 設定

EEPROM 設定画面(ゲート専用)について説明します。

アイル使 リーダライタ熱増コマンド(型) リーダライタ熱増コマンド(型) リーダライタ熱増モード コマンドモード 脱生型イアログ. フマンド 決発イアログ. ReadBytes. WriteBytes ワード切けたードの読み取り(型) ゲート助けたートの書を込み(型). アサー/ランブ / LED / 外部リレー状態の読み取り(型) プロイ 第二 第二 第二 WriteBytes. ササー/シンブ / LED / 外部リレー状態の読み取り(型) プロイ 第二 第二 WriteBytes. ササー/シンブ / LED / 外部リレー状態の読み取り(型) プロイ 第二 第二 WriteBytes. サリー/ 北影の読み取り(型) プレー/ 小学・クジブ / LED / 外部リレー状態の読み取り(型) カウン / 低の読み取り(型) カウン / 低の読み取り(型) ガウン / 値の読み取り(型) カウン / 低の読み取り(型) カウン / 低の読み取り(型) カウン / 値の読み取り(型) カウン / 値の読み取り(型) カウン / 値の読み取り(型)	当 TR3RWManager[TR3-G001B]	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアのグー PeaBytes / WriteBytes アード的「モードの読み取り(ひ) アードの「モードの読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「大服の読み取り(ひ) アリー・「たいの「日本の書 シンタ・(ひ) カウント値の書 シンタ・(D) カウント値の読み取り(D) カウント値の読み取り(D)	ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	
	リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes コマンド 速気インベン川 RDLOOP オートスキャン 厚信データー覧 送受信ログ	EEPROM最先定(会) 7 ゲート動作モードの書き込み(Q) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(Q) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(Q) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(E) 赤外線センサー状態の読み取り(Q) 集電センサー状態の読み取り(Q) 集電センサー状態の読み取り(L) カウント値の書き込み(Q)

メニューバー – [ゲート専用メニュー] – [EEPROM 設定]

6.1.1 EEPROM 設定一覧

本ソフトウエアで変更可能な EEPROM 設定値が一覧表示されます。 また、通信中のリーダライタ型式(TR3-G001B または TR3-G003)が表示されます。

	EEP	ROM詳細設定[ゲー	ト専用]	
	EEPROM設定一覧			
TR3-G001B	設定内容	設定値	設定内容	設定値
	入側のブザー音	٢-	通路1人数カウント(入側)	無効
	入側のブザー音量	小	通路1人数カウント(出側)	無効
	出側のブザー音	ピッピッピッピ	通路1タグ読み取りカウント(入側)	無効
● EEP ROM 設定一覧	出側のブザー音量	小	通路1タグ読み取りカウント(出側)	無効
	エラー時のブザー音	LEEEEE	人数カウント値の1/2設定	有効
	エラー時のブザー音量	小	カウント値の自動送信モード	送信間隔毎に送信
	入側のランプ設定	点滅	カウント値の送信間隔単位	分
2サー/音声設定	出側のランプ設定	点滅	カウント値の送信間隔	1
	エラー時のランプ設定	フラッシング	ブザー&ランプ&リレー自動制御	ON
227 BRAL	ブザー&ランブ連続動作設定	OFF	起動時の設定読み込み先	DIPSW
赤水須わいサー設定	ブザー&ランプ時間のベースタイム	0.5s	ノーリードエラーレスポンス設定	OFF
357198C29 BRIE	ブザー&ランプ時間の倍率	3	EASモード設定	OFF
住電センサー設定	赤外線センサー動作モード	入出用	無音モード設定	OFF
ALC DATE	赤外線センサー入出判断モード	OFF		
外部リレー設定	赤外線センサー遮蔽方向	順方向		
	通過時の読み取り有効時間のベースタイム	0.5s		
人数カウント設定	通過時の読み取り有効時間の倍率	1		
	赤外線センサー休止時間	Os		
G003専用設定	赤外線センサー検知時間	0		
	赤外線センサーのテストモード	OFF		
各種設定	焦電センサー設定	OFF		
	焦電センサー検知時間	2		
	焦電センサー有効時間のベースタイム	0.5s		
	焦電センサー有効時間の倍率	4		
設定1未1子/1发元	外部リレー出力連続動作設定	OFF		
20世日(上	外部リレー出力のベースタイム	0.5s		
MAAIL	外部リレー出力の倍率	3		
設定終了				
BOALTS I				
				-

6.1.2 ブザー/音声設定

ブザーおよび音声に関するパラメータを設定します。

ただし、TR3-G001B は音声を再生することができないため、音声に関するパラメータを操作することはできません。

EEPROMConfGate						×
	EE	PROM詳細設定	[ゲート専用]			
	ブザー/音声設定					
TR3-G001B	音の選択:	ブザー	○ 音声)		
EEPROM設定一覧	入側のブザー音:	(૨ ૯–	🔘 ປັນປັນປັນປັ	0 6666666	○ ピーピピピー	
●ブザー/音声設定	入側のブザー音量:	O OFF	④ 小	○中	◎大	
<u>ランプ設定</u>	出側のブザー音:	0 Ľ-	💿	0 6666666	0 ୯-୯୯୯-	
赤外線センサー設定 焦電センサー設定	出側のブザー音量:	O OFF	④ 小	○中	0×	
外部リレー設定	エラー時のブザー音:	0 Ľ-	🔘 ປັນປັນປັນປັ	 EREFERE 	○ ピーピピピー	
人数カウント設定 G003専用設定	エラー時のブザー音量:	O OFF	◉小	0中	O大	
各種設定	音声再生回数:	10				
	入側の音声:	2-			~	
設定保存/復元	出側の音声:	ピッピッピッピ			~	
初期化	エラー時の音声:	REFERE			~	
設定終了	音声スピーカの音量:	0 😂				
					設定	

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。

各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ランプ設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 音の選択 操作できません。
- 入側のブザー音 入方向からゲートを通過した際の RF タグ読み取り時に鳴動するブザー音を選択します。
- 入側のブザー音量
 入側のブザー音の音量を選択します。
- 出側のブザー音 出方向からゲートを通過した際の RF タグ読み取り時に鳴動するブザー音を選択します。
- 出側のブザー音量 出側のブザー音の音量を選択します。
- エラー時のブザー音 ゲートを通過した際の RF タグ未読み取り時に鳴動するブザー音を選択します。
- エラー時のブザー音量
 エラー時のブザー音の音量を選択します。
- 音声再生回数 操作できません。
- 入側の音声 操作できません。
- 出側の音声 操作できません。
- エラー時の音声 操作できません。
- 音声スピーカの音量 操作できません。

6.1.3 ランプ設定

ランプに関するパラメータを設定します。

	El	EPROM詳細設	定[ゲート専用]		
	ランプ設定				
R3-G001 B	入側のランプ:	◯ 消灯	⊙ 点滅	○ 点灯	 フラッシング
	出側のランプ:	○ 消灯	⊙ 点滅	○ 点灯	○ フラッシング
EEPROM設定一覧	エラー時のランプ:	○ 消灯	○ 点滅	○ 点灯	 フラッシング
<u>ブザー/音声設定</u>	ブザー&うング連続動作設定・		O ON		
●ランプ設定	ブザー&ランプ時間のベースタイム:	0.25s	0.5s	0 1.0s	O 10s
赤外線センサー設定	ブザー&ランプ時間の倍率:	3 0	1		
焦電センサー設定					
外部リレー設定					
人数カウント設定					axie
G003専用設定					
G003専用設定 <u>各種設定</u>					
G003専用設定 <u>各種設定</u> 設定保存/復元					
G003専用設定 各種設定 設定保存/復元 辺期化					

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 入側ランプ 入方向からゲートを通過した際のRFタグ読み取り時に適用するランプ点灯方式を選択します。
- 出側ランプ 出方向からゲートを通過した際のRFタグ読み取り時に適用するランプ点灯方式を選択します。
- エラー時のランプ ゲートを通過した際の RF タグ未読み取り時に適用するランプ点灯方式を選択します。
- ブザー&ランプ連続動作設定
 ブザーおよびランプを連続で動作させるかどうかを選択します。

[無効]

ブザーおよびランプの動作時間は、「ブザー&ランプ時間のベースタイム」と「ブザー&ランプ 時間の倍率」を乗算した時間となります。

[有効]

ブザーおよびランプは、ゲートの電源 OFF まで継続します。 「ブザー&ランプ時間のベースタイム」および「ブザー&ランプ時間の倍率」の設定値は無視さ れます。

- ブザー&ランプ時間のベースタイム ブザーおよびランプの動作時間のベースタイムを選択します。
 ブザーおよびランプの動作時間は、本設定値と「ブザー&ランプ時間の倍率」を乗算した時間となります。
- ブザー&ランプ時間の倍率
 ブザーおよびランプの動作時間の倍率を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
 ブザーおよびランプの動作時間は、本設定値と「ブザー&ランプ時間のベースタイム」を乗算した時間となります。

6.1.4 赤外線センサー設定

赤外線センサーに関するパラメータを設定します。

	EEPF	OM詳細設定	[ゲート専用]		
	赤外線センサー設定				
R3-G001 B	赤外線センサー動作モード:	 入出用 	🔘 通過用)	
	赤外線センサー入出判断モード:	OFF	🔘 入方向のみ	○ 出方向のみ	○ 入出方向
EEPROM設定一覧	赤外線センサー遮蔽方向:	💿 順方向	🔘 逆方向)	
<u>ブザー/音声設定</u>) 通過時の読み取り方な加き問のベースタイル・	0.025s	0.05%	0105	0 10s
<u>ランプ設定</u>	通過時の読み取り有効時間の倍率:	1	0 0.00	0 1.00	0.000
赤外線センサー設定					
魚電センサー設定	│ 赤外線センサー休止時間:	💿 Os	🔘 0.5s	O 1.0s	🔘 2.0s
外部リレー設定	赤外線センサー検知時間:	0 📚	× 0.01s		
人数カウント設定	赤外線センサーのテストモード:	OFF	O ON)	
G003専用設定					
各種設定					設定
設定保存/復元					
初期化					
設定終了					

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。 ● 赤外線センサー動作モード
 ゲート通過時の通過方向を判断するかどうかを選択します。

[入出用]

ゲート通過時の通過方向を判断します。

[通過用]

ゲート通過時の通過方向を判断しません。

赤外線センサー入出判断モード 赤外線センサー遮蔽時のRFタグ読み取り条件を選択します。

[OFF]

赤外線センサーの遮蔽に関係なく、常時 RF タグの読み取りを行います。

[入方向のみ]

ゲート間を入方向に通過した時にのみ RF タグの読み取りを行います。

[出方向のみ]

ゲート間を出方向に通過した時にのみ RF タグの読み取りを行います。

[入出方向]

ゲート間を入方向または出方向に通過した時に RF タグの読み取りを行います。

赤外線センサー遮蔽方向 赤外線センサーの方向判断基準を選択します。

[順方向]

ゲート通過時の入方向/出方向の判断を下図「順方向」のとおりに行います。 進行方向手前側にゲート下部のクリアカバーが配置される状態を「入方向」と判断します。

[逆方向]

ゲート通過時の入方向/出方向の判断を下図「逆方向」のとおりに行います。 進行方向手前側にゲート上部のクリアカバーが配置される状態を「入方向」と判断します。





● 通過時の読み取り有効時間のベースタイム ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間のベースタイムを選択します。 ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間は、本設定値と「通過時の読み取り有効時間の倍率」 を乗算した時間となります。

赤外線センサー遮蔽前後の設定時間の間、RFタグの読み取りを行います。

- 例)設定時間 0.5 秒 赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒前から、赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒後までが有効時間です。
- 通過時の読み取り有効時間の倍率
 ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間の倍率を入力します。
 ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間は、本設定値と「通過時の読み取り有効時間のベースタイム」を乗算した時間となります。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
 - 例)設定時間 0.5 秒 赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒前から、赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒後までが有効時間です。
- 赤外線センサー休止時間
 読み取り有効時間が経過した後、次に赤外線センサーを有効と判断するまでの時間を選択します。
- 赤外線センサー検知時間
 赤外線センサーを遮蔽したと判断するまでの時間を入力します。
 設定した時間以上継続して赤外線センサーを遮蔽した場合に、ゲートが遮蔽したと判断します。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
 - 例)設定時間 0.1 秒0.1 秒以上の間、遮蔽状態が継続した場合にセンサーを遮蔽したと判断します。
- 赤外線センサーのテストモード 設定を「ON」とすると、赤外線センサー遮蔽時に、LED パネル基板の各 LED(入側 LED、出 側 LED、エラーLED)が点灯します。 赤外線センサーが正常に動作しているか確認する時などに使用してください。

6.1.5 焦電センサー設定

焦電センサーに関するパラメータを設定します。

株電センサー設定 株電センサー設定: ④ OFF 〇 N 生電センサー設定: ① OFF 〇 N 生電センサー検知時間: 2 🔍 x 0.1s ビー/音声設定 生電センサー有加時間のペースタイム: ① 0.25s ④ 0.5s ○ 1.0s ○ 10s ブザー/音声設定 生電センサー有加時間のペースタイム: ① 0.25s ④ 0.5s ○ 1.0s ○ 10s デザー/音声設定 生電センサー有加時間のペースタイム: ① 0.25s ④ 0.5s ○ 1.0s ○ 10s た数/約センサー設定 生電センサー有効時間の信率: 4 📚 ● ● 小部リレー設定 ● ● ● 公数/カワント設定 6003専用設定 ● ● ●	
FR3-G001B 集電センサー設定 生産センサー設定: ④ OFF ○ ON 生産センサー検知時間: 2 ♀ × 0.1s 生産センサー検知時間: 2 ♀ × 0.1s 生産センサー有効時間のペースタイム: ○ 0.25s ④ 0.5s ○ 1.0s ○ 10s 大型・ノ音声設定 生産センサー有効時間のペースタイム: ○ 0.25s ④ 0.5s た外線センサー設定 生産センサー有効時間の倍率: 4 ♀ ●生産センサー設定 ●生産センサー有効時間の倍率: 4 ♀ ●生産センサー設定 ●生産センサー設定 ●生産電センサー有効時間の倍率: ●生産電センサー設定 ●生産ロシー ●生産電センサー	
FR3-G001B 集電センサー設定: ④ OFF ○ ON	
EEPROM設定一覧 魚電センサー検知時間: 2 📚 x 0.1s ブザー/音声設定 魚電センサー有効時間のペースタイム: 0 0.25s 0 0.5s 1.0s 10s ブザー/音声設定 シフジ設定 4 😒 10s 10s 10s 方外線センサー設定 人数カウント設定 5 1.0s 10s 10s 公式専用設定 6003専用設定 10s 10s 10s 10s	
EEPROM設定一覧 ブザー/音声設定 ブサー/音声設定 シンフ設定 赤外線センサー設定 4 * 小部リレー設定 人数カウント設定 G003専用設定	
グザー/音声設定 焦電センサー有効時間のペースタイム: ① 0.25s ④ 0.5s ① 1.0s ○ 10s シン7設定 4 毫 ●	
2サ-2 音声設定 無電センサー有効時間の倍率: 4 € ランフ設定 赤外線センサー設定 ●焦電センサー設定 外部リレー設定 人数カウント設定 G003専用設定	
ランブ設定	
<u>赤外線センサー設定</u> <u>● 焦電センサー設定</u> <u>外部ルレー設定</u> <u>人数カウント設定</u> G003専用設定	
 ● 焦電センサー設定 	
<u>外部リレー設定</u> <u>人数カウント設定</u> G003専用設定	
<u>人数カウント設定</u> G003専用設定	
G003専用設定	
各種設定	
設定保存/復元	
<u>全刀現別化</u>	
設定終了	

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 焦電センサー設定 焦電センサーの使用有無の選択を行います。
 焦電センサーを使用することで、無人時、ゲートはキャリア OFF(不要電波 OFF)状態に 移行します。
- 焦電センサー検知時間
 焦電センサーが検知したと判断するまでの時間を入力します。
 設定した時間以上経過した場合、ゲートはキャリア OFF 状態から復帰します。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
- 焦電センサー有効時間のベースタイム 焦電センサー検知後から再度、センサーOFF となるまでの時間のベースタイムを選択します。 焦電センサー有効時間は、本設定値と「焦電センサー有効時間の倍率」を乗算した時間となり ます。
- 焦電センサー有効時間の倍率
 焦電センサー検知後から再度、センサーOFFとなるまでの時間の倍率を入力します。
 焦電センサー有効時間は、本設定値と「焦電センサー有効時間のベースタイム」を乗算した時間となります。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。

6.1.6 外部リレー設定

外部リレーに関するパラメータを設定します。

		EEPROM詳細設了	定[ゲート専用]			
	外部リレー設定					
TR3-G001 B	外部リレー出力連続動作設定:	OFF	O ON			
	外部リレー出力のベースタイム:	0.25s	📀 0.5s	🔘 1.0s	🔘 10s	
EEPROM設定一覧	外部リレー出力の倍率:	3 🗘				
ブザー/音声設定						
ランプ設定					設定	
赤外線センサー設定						
焦電センサー設定						
●外部リレー設定						
人数カウント設定						
G003専用設定						
各種設定						
設定保存/復元						
初期化						
設定終了						

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 外部リレー出力連続動作設定 タグの読み取りに連動して、外部に接続した機器へON/OFF 情報を送信します。 連続設定をON にした場合、外部リレー出力を継続します。 解除するには、本設定をOFF にするか、解除スイッチ信号を入力します。
- 外部リレー出力のベースタイム 外部リレー(CN6のみ)が出力する時間のベースタイムを選択します。
 外部リレーの出力時間は、本設定値と「外部リレー出力の倍率」を乗算した時間となります。

● 外部リレー出力の倍率
 外部リレー(CN6のみ)が出力する時間の倍率を入力します。
 外部リレーの出力時間は、本設定値と「外部リレー出力のベースタイム」を乗算した時間となります。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。

6.1.7 人数カウント設定

人数カウントに関するパラメータを設定します。

	E	EPROM詳細設	定「ゲート専田」		
	人数カウント設定		Æ17 (号/II)		
TR3-G001 B	通路1人数カウント(入側):	● 無効	◯ 有効		
	通路1人数カウント(出側):	💿 無効	◯ 有効		
EEPROM設定一覧	通路2人数カウント(入側):	() 無効	() 有効		
	通路2人数カウント(出側):	(💿 無効	() 有効		
ブザー/音声設定	通路3人数カウント(入側):	〔 ④ 無効	○ 有効		
<u>ランプ設定</u>	通路3人数カウント(出側):	(💿 無効	◯ 有効		
赤外線センサー設定	Spectrum and BRIDESSONSSONSSONSSONSSONS				
魚電センサー設定	 通路1タグ読み取りカウント(入側):	● 無効	◯ 有効		
外部リレー設定	│ │通路1タグ読み取りカウント(出側):	(③ 無効	◯ 有効		
●人数カウント設定	│ │通路2タグ読み取りカウント(入側):	() 無効	〇 有効		
G003専用設定	 通路2タグ読み取りカウント(出側):	() 無効	○ 有効		
各種設定	│ │通路3タグ読み取りカウント(入側):	() 無効	○ 有効		
	│ │通路3タグ読み取りカウント(出側):	[④ 無効	○ 有効		
設定保存/復元	an ann ann ann ann an Ann ann an Iolaichean a' an Anna Annaistean a' 1998an 1997.				
初期化	↓ 人数カウント値の1/2設定:	◯ 無効	⊙ 有効		
	カウント値の自動送信モード:	送信間隔毎に減	送信	~	
設定終了	 カウント値の送信間隔単位:	⑥分	○ 時間		
	 カウント値の送信間隔:	1 🗘			設定

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 通路1人数カウント(入側)
 通路1を入側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路1人数カウント(出側)
 通路1を出側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路2人数カウント(入側) 操作できません。
- 通路2人数カウント(出側) 操作できません。
- 通路3人数カウント(入側) 操作できません。
- 通路3人数カウント(出側) 操作できません。
- 通路1タグ読み取りカウント(入側) 通路1を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路1タグ読み取りカウント(出側) 通路1を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路2タグ読み取りカウント(入側) 操作できません。
- 通路2タグ読み取りカウント(出側) 操作できません。
- 通路3タグ読み取りカウント(入側) 操作できません。
- 通路3タグ読み取りカウント(出側) 操作できません。
- 人数カウント値の 1/2 設定 赤外線センサーの遮蔽回数(ゲートの間を通過した回数)を 1/2 するかどうかを選択します。
- カウント値の自動送信モード
 カウント値の自動送信モードを次の4種類から選択します。
 - ・ 自動送信無し
 - 通路通過毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信及びカウントリセット
- カウント値の送信間隔単位
 カウント値の送信間隔単位を選択します。
- カウント値の送信間隔
 カウント値の送信間隔を入力します。
 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

6.1.8 各種設定

EEPROMConfGate				×
		EPROM詳細設知	を[ゲート専用]	
	各種設定			
TR3-G001B	ブザー&ランブ&リレー自動制御:	O OFF	⊙ ON	
EEPROM設定一覧	起動時の設定読み込み先:	● DIPSW	C EEPROM	
ブザー/音声設定	ノーリードエラーレスポンス設定:	OFF	O ON	
<u>ランプ設定</u>	EASモード設定:	OFF	O ON	
赤外線センサー設定		OFF	O ON	
魚電センサー設定				
外部リレー設定				
人数カウント設定			設定	
G003専用設定				
●各種設定				
設定保存/復元				
初期化				
設定終了				

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- ブザー&ランプ&リレー自動制御 ブザー、ランプ、リレーを動作させるトリガーの設定を行います。 ON:通過時、タグの有無をトリガーとして各機能が連動します。 OFF:タグの有無に依存せず、上位コマンドで制御します。
- 起動時の設定読み込み先 リーダライタ電源投入時の設定読み込み先を「DIPSW」または「EEPROM」から選択します。 本項目に関連する設定値は以下のとおりです。
 - ・ 赤外線センサー入出判断モード
 - ・ 赤外線センサー遮蔽方向
 - ノーリードエラーレスポンス設定
 - ・ 焦電センサー設定
 - EAS モード設定
 - ・ 無音モード設定
- ノーリードエラーレスポンス設定 設定を「ON」とすると、赤外線センサーを併用し、ゲート通過時に RF タグのデータの読み取 りがない場合に、"BR"(アスキー文字)を返します。
- EAS モード設定 設定を「ON」とすると、RF タグのデータの読み取った場合に、"OK"(アスキー文字)を返し ます。 なお、設定された AFI 値(デフォルト値:0)に依存します。
- 無音モード設定 RF タグ読み取り時、ランプ点灯のみで読み取り可否を知らせます。

6.1.9 設定保存/復元

リーダライタの EEPROM 設定値(ゲート専用)をテキストファイルに保存します。 または、テキストファイルに保存された EEPROM 設定値(ゲート専用)を復元します。

EPROMConfGate	
	EEPROM詳細設定[ゲート専用]
	設定保存/復元
TR3-G001 B	設定の保存
EEPROM設定一覧	EEPROMの設定値をファイルに保存します。
ブザー/音声設定	設定の復元
<u>ランプ設定</u>	EEPROMの設定値をファイルから復元します。現在の設定値は上書きされます。
赤外線センサー設定	設定復元
魚電センサー設定	
外部リレー設定	
人数カウント設定	
G003専用設定	
各種設定	
● <u>設定保存/復元</u>	
初期化	
設定終了	

※ 注意事項1

設定復元は、必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用 してください。

また、設定保存機能によって出力されたテキストファイルの内容をテキストエディタ等で編集 することは絶対にしないでください。

※ 注意事項2

設定復元の機能は、本ソフトのバージョン間で互換性がありません。

TR3RWManager v1.3.0.0 以前の TR3RWManager を使用して保存された情報を TR3RWManager v1.3.0.0の本機能で復元することはできません。

設定保存/復元を行う際には、同一バージョンの TR3RWManager をご使用ください。

● 設定保存(バックアップ) 現在の EEPROM 設定値(ゲート専用)をテキストファイルに保存します。

保存先のファイルを選択してください ? 🗙 保存する場所 (D: 🗀 work 🖌 🔇 🜶 📂 🛄-Ì 最近使ったファイル デスクトップ D 71 141321 ערבארב אד マイネットワーク ファイル名(<u>N</u>): default.tr3gate1 ~ 保存(S) ファイルの種類(T): TR3設定ファイル(*.tr3gate1) ~ キャンセル

[設定保存]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

保存先のフォルダ、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックします。 保存に成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🔀
(į)	設定値を保存しました。
(ОК

● 設定復元(リストア)

テキストファイルに保存された EEPROM 設定値(ゲート専用)を復元します。 必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用してください。

復元処理を実行すると現在の EEPROM 設定値(ゲート専用)は上書きされます。 事前に現在の設定値を保存しておくことをお奨めします。

[設定復元]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

復元元のファイルを	選択してください						? 🛛
ファイルの場所型:	🗀 work		~	G	1 19	•	
していた 最近使ったファイル	default.tr3gate1						
ごう デスクトップ							
الالاد ب ا ال							
ער בארב אב א- בארב אד							
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	default.tr3gate1				~	開 ((<u>(</u>))
	ファイルの種類(工):	TR3設定ファイル(*.tr3gate1)				~	キャンセル

復元元のファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。 復元が成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🔀
(į)	設定値を復元しました。
(OK

6.1.10 初期化

リーダライタの EEPROM 設定値(ゲート専用)を工場出荷時の値に初期化します。

ROMConfGate	
	EEPROM詳細設定[ゲート専用]
TR3-G001 B	初期化 EEPROMの設定値を工場出荷時の値に対照化します。
EEPROM設定一覧	ゲート種別 ③ TR3-G001B TR3-G003
ブザー/音声設定	7.0期月上
<u>ランプ設定</u>	
赤外線センサー設定	
魚電センサー設定	
外部リレー設定	
人数カウント設定	
G003専用設定	
各種設定	
設定保存/復元	
● 初期化	
設定終了	

[初期化]ボタンをクリックすると次の確認メッセージが表示されます。

Informat	tion	×
(į)	初期化します。	
0	K キャンセル	

[OK]ボタンをクリックすると初期化処理が実行されます。 [キャンセル]ボタンをクリックすると何も処理を行いません。

初期化処理に成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informat	tion 🛛 🔀
(į)	設定値を初期化しました。
	ОК

● TR3-G001Bの EEPROM 初期設定内容

項目	設定内容	初期値
ブザー/音声	入側のブザー音	F
	入側のブザー音量	小
	出側のブザー音	ピッピッピッピ
	出側のブザー音量	小
	エラー時のブザー音	ピピピピピピ
	エラー時のブザー音量	小
ランプ設定	入側のランプ設定	点滅
	出側のランプ設定	点滅
	エラー時のランプ設定	フラッシング
	ブザー&ランプ連続動作設定	OFF
	ブザー&ランプ時間のベースタイム	0.5s
	ブザー&ランプ時間の倍率	3
赤外線センサー設定	赤外線センサー動作モード	入出用
	赤外線センサー入出判断モード	OFF
	赤外線センサー遮蔽方向	順方向
	通過時の読み取り有効時間のベースタイム	0.5s
	通過時の読み取り有効時間の倍率	3
	赤外線センサー休止時間	0.5s
	赤外線センサーサンプリング時間	0
	赤外線センサーのテストモード	OFF
焦電センサー設定	焦電センサー設定	OFF
	焦電センサーサンプリング時間	2
	焦電センサー有効時間のベースタイム	0.5s
	焦電センサー有効時間の倍率	4
外部リレー設定	外部リレー出力連続動作設定	OFF
	外部リレー出力のベースタイム	0.5s
	外部リレー出力の倍率	3
人数カウント設定	通路1人数カウント(入側)	無効
	通路1人数カウント(出側)	無効
	通路1タグ読み取りカウント(入側)	無効
	通路1タグ読み取りカウント(出側)	無効
	人数カウント値の 1/2 設定	有効
	カウント値の自動送信モード	送信間隔毎に送信
	カウント値の送信間隔単位	分
	カウント値の送信間隔	1
各種設定	ブザー&ランプ&リレー自動制御	ON
	起動時の設定読み込み先	DIPSW
	ノーリードエラーレスポンス設定	OFF
	EAS モード設定	OFF
	無音モード設定	OFF

第6章 ゲート専用メニュー[TR3-G001B] 6.2 ゲート動作モードの読み取り

6.2 ゲート動作モードの読み取り

ゲートの動作モードを読み取るコマンドです。 本コマンドで読み取り可能な設定値は以下のとおりです。

- ・ 赤外線センサー入出判断モード
- ・ 赤外線センサー遮蔽方向
- ノーリードエラーレスポンス設定
- ・ 焦電センサー設定
- EAS モード設定
- ・ 無音モード設定

なお、本コマンドは、EEPROM 設定[起動時の設定読み込み先]に書き込まれている設定値に応じて、読み取りの対象を変更します。

起動時の設定読み込み先	読み取り対象
DIPSW	リーダライタ電源投入時に RAM へ取り込まれた DIPSW の設定値を
	読み取ります。
EEPROM	リーダライタの EEPROM に保存されている設定値を読み取ります。

[起動時の設定読み込み先]については、「6.1.8 各種設定」を参照ください。

アナイル(ビ) リーダライタ動催コマンド(E) リーダライク設定コマンド(E) リーダライクをEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(E) ヘルブ(E) リーダライタ動作モード コマンドモード コマンド 認知者などの(P) オートスキャン ReaBytes WriteBytes ゲート物作モードの読み取り(E) プサークランブ/LED/外部)レー状態の読み取り(E) ホ粉線センサー状態の読み取り(E) 赤粉線センサー大能の読み取り(E) ホ粉線センサー大能の読み取り(E) ホ粉線センサー大能の読み取り(E) ホガント値返信者(4 con)セント(L) カウント値の読み取り(Q) カウント値の読み取り(Q)	🗄 TR3RWManager[TR3-G001B]		
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ. ReaBlytes / WriteBytes ゲー物がたモードの読み取り(空) マーダー 送受信ログ ゲー物/トモードの読み取り(空) プサー/ランブノ(ED/外部)レー状態の読み取り(空) プサー/ランブノ(ED/外部)レー状態の読み取り(空) パサー/いたい/大きの(読み取り(空) 大部/トモーーは 必要(シー・大きの(読み取り(空)) 大部/トモーー 小きか/トモートの読を込みし、 プサー/ランブノ(ED/外部)レー状態の読み取り(空) パサー/大きの(読み取り(空)) 大部に使いため、 小きか/トモートの読を込みし、 プリー/支いため、 小きか/トモートの読を入り、 グローの書を込みの、 ハウント値の読み取り(空) ガウント値の読み取り(空) カウント値の読み取り(空)	ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(3) 通信設定(2) ヘルブ(H)	
マンド 注気インヘル RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes ゲート物作モードの書を送み必 プレート国 送受信ログ ゲート物作モードの書を送み必 ゲート物作モードの書を送み必 ゲートが作モードの書を送み必 プレート国 送受信ログ ゲート動作モードの書を送み必 ゲートが作モードの書を送み必 ゲートが作モードの書を送み必 プレークシンプノにED/外部リレー状態の読み取り(Q) オーレークシンプノにED/外部リレー状態の読み取り(Q) 株電センサー状態の読み取り(Q) 株電センサー状態の読み取り(Q) 大い作曲の書を込み Q カウンド値の書を込み Q カウンド値の読み取り(Q) カウンド値の読み取り(Q)	リーダライタ動作モードコマンドモード 設定ダイアログー り、ワ・ワ・ケーゲー	EEPROM設定(A)	
文信データー幅 送受信ログ ブザーノうジブノLED/外部ルレー状態の読み取り(型) ブザーノうジブ/LED/外部ルレー状態の読み取り(型) ブザーノうジブノLED/外部ルレー状態の読み取り(型) ガラレー新歌ネイッチ/DIFSW状態の読み取り(型) ガリー新歌ネイッチ/DIFSW状態の読み取り(型) 焼電センサー状態の読み取り(型) 焼電センサー状態の読み取り(型) ガウント値の書を込み型 カウント値の読み取り(型)	ReaBytes/WriteBytes	ゲート動作モードの読み取り(日)	\mathbf{X}
	マンド 液法インベン川 RDLOOP オードスキャン ReadBytes WriteBytes 受信データー転 送受信ログ	ゲート動作モートの言志み取り(型) ゲート動作モートの言さ込みな) ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) 赤外線センサー状態の読み取り(型) 集電センサー状態の読み取り(型) カウント値の書き込み 型 カウント値の読み取り(型)	

アナイルを リーダライタ動体コマンド(2) リーダライタ動作モード コマンド(2) リーダライタ動作モード コマンド(2) パンドモード 設定ダイアログ- ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 1016.77.170 10777 プログラーク= 送受信ログ ReaBytes/WriteBytes WriteBytes データグリア (F9) グビデーター目 送受信ログ ReaBytes/WriteBytes データグリア (F9) グビデーター目 送受信ログ FeadBytes/WriteBytes データグリア (F9) グビデーター目 送受信ログ FeadBytes/WriteBytes FeadBytes/WriteBytes FeadBytes/WriteBytes (02/2014:53:00.214 [cmt] /* ゲート 動作モードの読み方向 !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!	💾 TR3RWManager[TR3-G001B]	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ_ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 101677.170 10777 マンド 送気インペリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データリア(Fの) 受信データーを1 送気信の アーク・低 送気信の データのの アーク・低 ブートスキャン ReadBytes WriteBytes データのの ジェア データのの ジェア データのの ジェア ジェア ジェア ジェア ジェア ジェア POD ジェア ジェア	ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(I) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(3) 通信設定(2) ヘルプ(出)
マンド 波転インペンH RDLOOP オートスキャン ReadBytes. WriteBytes データグリア (F9) 受信データー転 送受信ログ	リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes	<mark>インターフェース設定</mark> 10.16.77.170 10777
<u>愛信データー戦 送受信の</u> 102/20 14:53:00.214 [cmt] /* ゲート動作モードの読み取り */ 02/20 14:53:00.214 [send] 02 00 47 01 00 03 40 00 02/20 14:53:00.246 [cmt] 赤外線センサー入出判断モード : OFF 02/20 14:53:00.246 [cmt] 赤外線センサー入出判断モード : OFF 02/20 14:53:00.246 [cmt] ノーリードエラーレスポンス設定 : OFF 02/20 14:53:00.246 [cmt] 焦電センサー設定 : OFF 02/20 14:53:00.246 [cmt] EASモード設定 : OFF 02/20 14:53:00.246 [cmt] 新音モード設定 : OFF	コマンド 遠続インベントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	デ <i>ーもり</i> リア (F9)
02/20 14:53:00.214 [cmt] /* ゲート動作モードの読み取り */ 02/20 14:53:00.246 [crecv] 02 00 30 02 00 00 03 37 00 02/20 14:53:00.246 [crecv] 02 00 30 02 00 00 03 37 00 02/20 14:53:00.246 [cmt] 赤外線センサー入出判断モード : OFF 02/20 14:53:00.246 [cmt] ホ外線センサー通廠方向 : 順方向 02/20 14:53:00.246 [cmt] 大外線センサー連廠方向 : 0FF 02/20 14:53:00.246 [cmt] 大外線センサー設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 朱雪センサー設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 朱雪モード設定	受信データー覧送受信ログ	
	02/20 14:53:00.214 [cmt] /* ゲート動作モードの読み取り */ 02/20 14:53:00.214 [send] 02 00 47 01 00 03 40 00 02/20 14:53:00.246 [recv] 02 00 30 02 00 00 03 37 00 02/20 14:53:00.246 [cmt] 赤外線センサー入出判断モード 02/20 14:53:00.246 [cmt] 赤外線センサー入出判断モード 02/20 14:53:00.246 [cmt] 赤外線センサー入出判断モード 02/20 14:53:00.246 [cmt] ホ外線センサー入出判断モード 02/20 14:53:00.246 [cmt] 大小線センサー通定 02/20 14:53:00.246 [cmt] シリードエラーレスポンス設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 魚電センサー設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] EASモード設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 医ASモード設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 無音モード設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 無音モード設定 02/20 14:53:00.246 [cmt] 無音モード設定	

6.3 ゲート動作モードの書き込み

ゲートの動作モードを書き込むコマンドです。 本コマンドで書き込み可能な設定値は以下のとおりです。

- ・ 赤外線センサー入出判断モード
- ・ 赤外線センサー遮蔽方向
- ノーリードエラーレスポンス設定
- ・ 焦電センサー設定
- EAS モード設定
- ・ 無音モード設定

なお、本コマンドは、EEPROM 設定[起動時の設定読み込み先]に書き込まれている設定値に応じて、書き込みの対象を変更します。

起動時の設定読み込み先	書き込み対象
DIPSW	リーダライタ電源投入時に RAM へ取り込まれた DIPSW の設定値を
	上書きします。
EEPROM	書き込むことはできません。(本コマンドは使用できません)

[起動時の設定読み込み先]については、「6.1.8 各種設定」を参照ください。

H TR3RWManager [TR3-G001 B]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes	EEPROM設定(A) ゲート動作チードの詰み取り(B)
マンド 連続インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	ゲート動作モードの書き込み (C)
受信データー転 送受信ログ	プリーノランプノLEDノ外部ワレー状態の読み取り(型) ブリーノランプノLEDノ外部リレー状態の読み取り(型) 外部リレー解除スイッチノDIPSW状態の読み取り(Q) 赤外線センサー状態の読み取り(Q) 焦電センサー状態の読み取り(U) カウント値の書き込み Q カウント値の読み取り(Q)

 入方向のみ 逆方向 	○出方向のみ	🔘 入出方向
○ 逆方向		
	1	
O ON)	
O ON		
O ON)	
O ON)	
O ON]	

6.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り

ブザー/ランプ/LED/外部リレーの状態を読み取るコマンドです。

世 TR3RWManager[TR3-G001B]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルブ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ_ ReaBytes/WriteBytes	EEPROM設定(A) ゲート動作モードの読み取り(B)
コマンド 速続インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	ゲート動作モードのまき込み(C)
受信データー暫 送受信ログ	ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(D)
	ノザー/フンノ/LEU/外部リレー(大照の)制御(E) みまだい、 878~1 /
	外部リレー解除スイッチン DIPSW4入態の記念が取り上) 赤外線センサーザ能の読み取り(G)
	集雷センサー状態の読み取り(H)
	カウント値の書き込み Q
	カウント値送信タイマのリセット(」)
	カウント値の読み取り()

🗒 TR3 RWManager [TR3-G001 B]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ)通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 決続インペンド/ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグパア (F9)
受信データー覧送受信ログ
<pre>D2/20 15:24:24.496 [cmt] /* ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り */ 02/20 15:24:24.527 [cmcv] 02 00 30 03 02 00 10 03 44 0D 02/20 15:24:24.527 [cmt] 入側のブザー(音声)出力 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] 出側のブザー(音声)出力 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] エラー時のブザー(音声)出力 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] メインアンテナのランブ点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] サブアンテナのランブ点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] 九側のパネルLED点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] 出側のパネルLED点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] エラー時のパネルLED点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] エラー時のパネルLED点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] 外部リレー出力LED点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] 外部リレー出力LED点灯 : 0FF 02/20 15:24:24.527 [cmt] キャリア出力LED点灯 : 0FF</pre>

6.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御

ブザー/ランプ/LED/外部リレーの状態を制御するコマンドです。

BuzzerLampLEDReray			×
ブザー/ランフ	プ/LED/外音	部リレー	
入側のブザー(音声)出力:	OFF	O ON	
出側のブザー(音声)出力:	OFF	O ON	
エラー時のブザー(音声)出力:	OFF	O ON	
メインアンテナのランプ点灯:	OFF	O ON	
サブアンテナ1のランプ点灯:	OFF	O ON	
入側のパネルLED点灯: 出側のパネルLED点灯: エラー時のパネルLED点灯: 外部リレー出力LED点灯:	OFF OFF OFF OFF		
キャリア出力LED点灯:	O OFF	() ON	=
)K Canc	el
6.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW 状態の読み取り

外部リレー解除スイッチと DIPSW の状態を読み取るコマンドです。

💾 TR3RWManager[TR3-G001B]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
 当 TR3RWManager [TR3-G001 B] ファイル(を) リーダライタ制御コマンド(2) リーダライタ設定コマンド(2) ローグライク目のN設定(2) リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ. ReaBytes/WriteBytes. マンド 建築インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes 受信データー智 送受信ログ 	ゲート専用メニュー④ 通信設定(②) ヘルプ(山) EEPROM設定(A) ゲート動作モードの読み取り(B) ゲート動作モードの書き込み(Q) ブザー/ランブ/LED/外音PIレー状態の読み取り(D) ブザー/ランブ/LED/外音PIレー状態の読み取り(D) ブザー/ランブ/LED/外音PIレー状態の読み取り(D) ガザント値のきま込み(D)

🗒 TR3 RWManager [TR3-G001 B]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ)通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 決芸インペン川 RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグリア (F9)
受信データー覧送受信ログ
03/05 14:17:03.812 [cmt] /* 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り */ 03/05 14:17:03.812 [send] 02 00 47 01 03 03 50 00 03/05 14:17:03.843 [rev] 02 00 30 03 00 00 33 80 00 03/05 14:17:03.843 [cmt] 解除スイッチ : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[赤外線センサー入出判断モード] : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[赤外線センサー達版方向] : 順方向 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[赤小線センサー設定] : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[[素電センサー設定] : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[[素電モンサー設定] : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[EASモード設定] : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[[素電モード設定] : OFF 03/05 14:17:03.843 [cmt] DIPSW[[素電モード設定] : OFF

6.7 赤外線センサー状態の読み取り

赤外線センサーの状態を読み取るコマンドです。

. 🗒 TR3RWManager[TR3-G001B]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライダ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(Q) 通信設定(Q) ヘルブ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ_ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 連続インペントリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグリア(F9)
受信データー覧」送受信ログ
02/20 15:29:34.292 [cmt] /* 赤外線センサー状態の読み取り */ 02/20 15:29:34.292 [send] 02 00 47 01 04 03 51 00 02/20 15:29:34.324 [recv] 02 00 30 02 04 40 03 38 00 02/20 15:29:34.324 [cmt] 通路1[九側]: OFF 02/20 15:29:34.324 [cmt] 通路1[出側]: OFF

6.8 焦電センサー状態の読み取り

焦電センサーの状態を読み取るコマンドです。

TR3RWManager [TR3-G001 B]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログニ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170	10777
コマンド 連続インペン川 RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグルア(F9	
受信データー覧送受信ログ	
02/20 15:31:37.339 [cmt] /* 魚電センサー状態の読み取り */ 02/20 15:31:37.339 [send] 02 00 47 01 05 03 52 00 02/20 15:31:37.371 [recv] 02 00 30 02 05 00 03 3C 0D 02/20 15:31:37.371 [cmt] 魚電センサー : OFF	

6.9 カウント値の書き込み

人数カウント値およびタグ読み取りカウント値をリーダライタの RAM へ書き込むコマンドです。

GateWriteCount	×
カウント値の)書き込み
通路1人数カウント(入側):	0 📚
通路1人数カウント(出側):	0 😂
通路2人数カウント(入側):	00
通路2人数カウント(出側):	0 😂
通路3人数カウント(入側):	0 😂
通路3人数カウント(出側):	0 🛫
通路1タグ読み取りカウント(入側):	0 😂
通路1タグ読み取りカウント(出側):	0 😂
通路2タグ読み取りカウント(入側):	0 🗢
通路2タグ読み取りカウント(出側):	0 😄
通路3タグ読み取りカウント(入側):	0 😂
通路3タグ読み取りカウント(出側):	0 😂
	OK Cancel

6.10 カウント値送信タイマのリセット

人数カウント値およびタグ読み取りカウント値の送信タイマをリセットするコマンドです。 本コマンドは、「6.1.7 人数カウント設定 – カウント値の自動送信モード」の設定値が「送信間隔 毎に送信」である場合に、リーダライタ内部の送信間隔計測用タイマのカウント値をリセットする 目的で使用します。

世 TR3 RWManager [TR3-G001 B]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(3) 通信設定(2) ヘルブ(H)
リーダライタ動作モード コマンド シマンド 設定ダイアログ_ ReaBytes/WriteBytes コマンド 送去(シベンド) RDLOOP オートスキャン ReadBytes. WriteBytes 受信データー 送受信ログ	・ FARA-L1 (2) 「Allaszele" 「ADVALY EEPROMBRE((A) 7 ゲート動作モードの読み取り(B) ゲート動作モードの書き込み(Q) ブザー/ランブ/LED/外音PJレー状態の読み取り(D) ブザー/ランブ/LED/外音PJレー状態の読み取り(C) 赤外線センサー状態の読み取り(Q) 集電センサー状態の読み取り(Q) 大ウンド値の読み取り(Q) カウンド値の読み取り(Q)



6.11 カウント値の読み取り

リーダライタ内部の RAM に保存された人数カウント値およびタグ読み取りカウント値を読み取る コマンドです。

🖹 TR3RWManager [TR3-G001 B]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(3) 通信設定(2) ヘルブ(H)
ファイル(上) リータライタ動作コマンド(L) リータライタ動作コマンド(L) リータライタ動作コマンド(L) リータライタ動作コマンド(L) リータライタ動作コマンド(L) リータライタ動作コマンド(L) リータライタ動作コマンド(L) ReaBytes/WriteBytes コマンド 注気インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes 受信ログ	ケート専用メニュー(3) 1創言設定(2) ヘルフ(4) EEPROM設定(会) ゲート動作モードの読み取り(B) 7 ゲート動作モードの書き込み(Q) ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(E) プサー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(E) 赤外線センサー状態の読み取り(G) 焦電センサー状態の読み取り(L) カウント値の読み取り(2).

GateReadCount				
	カウント値の読み取り			
カウント値の読み取り方式:	〇 現在のEEPROM設定	官值	⑧ 指定時間毎の読み取り	
現在のEEPROM設定値			指定時間毎の読み取り	
人数カウント値の1/2設定:	(〇 無効) (⑥ ;	有効	カウント値の読み取り間隔:	1 🗊 (秒)
カウント値の自動送信モード:	送信間隔毎に送信	×		
カウント値の送信間隔単位:	③分 〇日	時間		
カウント値の送信間隔:	1 🗇			
	通過	人数	タグ読み	・取り数
	入側	出側	入側	出側
通路1	0	0	0	0
通路2	0	0	0	0
通路3	0	0	0	0
カウントクリア(F9)	ファイル保存(F5)			閉じる(F1)

● カウント値の読み取り方式 リーダライタの RAM に保存された人数カウント値を読み取る方式を選択します。

[現在の EEPROM 設定値] リーダライタの EEPROM に保存された設定に応じた動作を行います。

[指定時間毎の読み取り] カウント値の読み取り間隔(秒)でカウント値を読み取ります。

● 人数カウント値の 1/2 設定
 赤外線センサーの遮蔽回数(ゲートの間を通過した回数)を 1/2 するかどうかを示します。

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「6.1.7 人数カウント設定」から行います。

- カウント値の自動送信モード カウント値の自動送信モードを示します。
 - 自動送信無し
 - 通路通過毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信及びカウントリセット

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「6.1.7 人数カウント設定」から行います。

カウント値の送信間隔単位
 カウント値の送信間隔単位を示します。

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「6.1.7 人数カウント設定」から行います。

カウント値の送信間隔
 カウント値の送信間隔を示します。

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「6.1.7 人数カウント設定」から行います。

カウント値の読み取り間隔
 カウント値の読み取り間隔を入力します。
 本項目は、カウント値の読み取り方式に「指定時間毎の読み取り」を選択した場合のみ入力が可能です。
 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

 ● カウントクリア(F9) リーダライタ内部の RAM に保存された人数カウント値およびタグ読み取りカウント値を「0
 回」に初期化します。

ボタンをクリックすると次の確認メッセージが表示されます。

Informat	tion 🔣
(į)	カウント値をクリアします。
0	K キャンセル

[OK]ボタンをクリックすると初期化されます。 [キャンセル]ボタンをクリックすると何も処理を行いません。

● ファイル保存 (F5)

リーダライタの RAM に保存された人数カウント値およびタグ読み取りカウント値を csv 形式のファイルに保存します。

保存先ファイルのパスを設定する方法については、次頁を参照ください。

ボタンをクリックすると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🛛 🔀
(į)	カウント値を保存します。 c:¥gatecount.csv
	K キャンセル

[OK]ボタンをクリックすると保存されます。 [キャンセル]ボタンをクリックすると何も処理を行いません。 ※ カウント値保存先のファイルパス設定方法

メニューバー - [ヘルプ] -	[アプリケーション	⁄設定]をクリック	します
------------------	-----------	-----------	-----

💾 TR3RWManager[TR3-G001B]		
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C)	ヘモルプ(圧)
リーガライク動作モード、コマンドモード、設定ガイアログ	インターフェーフ設定	アプリケーション設定(A)
ReaBytes/WriteBytes	177 71 AQLE	バージョン情報(B)
ReadBytes		
受信データー 暫 送受信口グ		
		.:

[ゲート設定]タブを表示します。

	アプリ	リケーション	設定	
戦境設定 オプションフ	ラガ「ゲート設	E		
人数力中小小值出力的	キファイル:			
c:¥gatecount.csv				参照

[人数カウント値出力先ファイル]入力欄にキーボードなどから直接入力することはできません。 [参照]ボタンを使用してファイルパスを選択します。

[参照]ボタ	ンをクリッ	クすると次の画面が表示されます。	
ファイルを選択して	ください		? 🔀
ファイルの場所の	: 🔁 work	🔽 🕝 🦻 🛤	
していた 最近使ったファイル			
ごう デスクトップ			
ک ۲۲ ۴۴۱۶۷۰			
ער דא בארב אד			
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	gatecountG001 B.csv 🔽 🕅	.(<u>O</u>)
	ファイルの種類(工):	CSV771/1/(*.csv)	セル

[+> m] ド ト、 .7 ナフトルの両子がまニャルナナ

ファイル名を入力して[開く]ボタンをクリックします。

ApplicationInfo	×
アプリケーション設定	
環境設定 オブションフラグ ゲート設定	
人類も白い人値出力失つってル・	
C:¥work¥gatecountG001B.csv	参照
20 -	
	ncel

[OK]ボタンをクリックすると設定が保存されます。

第7章 ゲート専用メニュー[TR3-G003]

本章では、ゲート型リーダライタ専用の EEPROM 設定内容と各種機能について説明します。

ゲート専用メニューのメニュー項目は、通信中のリーダライタ種別(TR3-G001B または TR3-G003) によって内容が異なります。

本章では、TR3-G003 について説明します。

メニュー項目	TR3-G001B	TR3-G003
EEPROM 設定	0	0
ゲート動作モードの読み取り	0	0
ゲート動作モードの書き込み	0	0
ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り	0	0
ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御	0	0
外部リレー解除スイッチ/DIPSW 状態の読み取り	0	0
赤外線センサー状態の読み取り	0	0
焦電センサー状態の読み取り	0	×
カウント値の書き込み	0	0
カウント値送信タイマのリセット	0	0
音声スピーカの音量	×	0
IO 基板 ROM バージョンの読み取り	×	0
音声&ランプの制御	×	0
カウント値の読み取り	0	0

7.1 EEPROM 設定

EEPROM 設定画面(ゲート専用)について説明します。

💾 TR3RWManager [TR3-G003]	
ファイル(£) リーダライタ制御コマンド(£) リーダライタ設定コマンド(£) READY ReaBytes/WriteBytes リーダライク動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes コマンド 速気インペンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes 受信データー覧 送受信ログ	ゲート専用マニュー(2) 注動(言語完(2)) ヘルフ(日) EEPROM設定(A) 77 ゲート動作モードの読み取り(E) 77 ゲート動作モードの書き込み(2) 7サー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御(E) 100
	 ケキャレンキャホスイッチン DIPSWIA EX のほみ 4 (0) たか 4 (0) たか ホケシト (値の書き込み Q) カウント(値) たま (15 タイマの) セット(し) 音声スピーカ音量の読み取り (ロータリーSWJ (<u>k</u>) 音声スピーカ音量の書き込み [EEPROM](<u>k</u>) 10 基本仮ROMパージョンの読み取り (M) ステム マット(値) (10)
	■ デ & ランクの前面は02- カウント値の読み取り(Q)
	۱ ۱۱

メニューバー – [ゲート専用メニュー] – [EEPROM 設定]

7.1.1 EEPROM 設定一覧

本ソフトウエアで変更可能な EEPROM 設定値が一覧表示されます。 また、通信中のリーダライタ型式(TR3-G001B または TR3-G003)が表示されます。

	EEP	ROM詳細設定[ゲー	ト専用]	
	EEPROM設定一覧			
TR3-G003	設定内容	設定値	設定内容	設定値
	音の選択	ブザー	通路1人数カウント(入側)	無効
	入側のブザー音	2-	通路1人数カウント(出側)	無効
	入側のブザー音量	小	通路2人数カウント(入側)	無効
● EEP ROM 設定一覧	出側のブザー音	ピッピッピッピ	通路2人数カウント(出側)	無効
	出側のブザー音量	小	通路3人数カウント(入側)	無効
	エラー時のブザー音	LEEFEE	通路3人数カウント(出側)	無効
	エラー時のブザー音量	小	通路1タグ読み取りカウント(入側)	無効
フサー/ 音声設定	音声再生回数	1	通路1タグ読み取りカウント(出側)	無効
	入側の音声	2-	通路2タグ読み取りカウント(入側)	無効
22/該定	出側の音声	ピッピッピッピ	通路2タグ読み取りカウント(出側)	無効
本从 组织	エラー時の音声	ピーピピピー	通路3タグ読み取りカウント(入側)	無効
小小小家ビノリニ設定	音声スピーカの音量	0	通路3タグ読み取りカウント(出側)	無効
住電センサー設定	入側のランプ設定	点滅	人数カウント値の1/2設定	無効
二、电ビノブ 副人宅	出側のランプ設定	点滅	カウント値の自動送信モード	自動送信無し
外部リレー設定	エラー時のランプ設定	フラッシング	カウント値の送信間隔単位	分
	ブザー&ランプ連続動作設定	OFF	カウント値の送信間隔	1
人数カウント設定	ブザー&ランプ時間のベースタイム	0.5s	タグ検出モード設定	タグ有り
14 <u></u>	ブザー&ランプ時間の倍率	3	G002互換モード設定	G002互換
<u>G003専用設定</u>	赤外線センサー動作モード	入出用	ブザー&ランプ&リレー自動制御	ON
	赤外線センサー入出判断モード	OFF	起動時の設定読み込み先	DIPSW
各種設定	赤外線センサー遮蔽方向	順方向	ノーリードエラーレスポンス設定	OFF
	通過時の読み取り有効時間のベースタイム	0.5s	EASモード設定	OFF
	通過時の読み取り有効時間の倍率	1	無音モード設定	OFF
	赤外線センサー休止時間	Os		
設定1未任/18元	赤外線センサー検知時間	0		
57788/1-	赤外線センサーのテストモード	OFF		
<u>*/J,5911E</u>	外部リレー出力連続動作設定	OFF		
	外部リレー出力のベースタイム	0.5s		
	外部リレー出力の倍率	0		
設定終了				
BAAE III I				

7.1.2 ブザー/音声設定

ブザーおよび音声に関するパラメータを設定します。

EEPROMConfGate						×
		EEPROM詳細設定	[ゲート専用]			
	ブザー/音声設定					
TR3-G003	音の選択:	◎ ブザー	○ 音声)		
<u>EEPROM設定一覧</u>	入側のブザー音:	 ● ピー 	🔿 ປັ່ງປັ່ງປັ່ງປ	0 6666666	◯ ピーピピピー	
●ブザー/音声設定	入側のブザー音量:	O OFF	◉ 小	○中	O ★	
<u>ランプ設定</u>	出側のブザー音:	0 Ľ-	💿 ピッピッピッピ	0 ୯୯୯୯୯୯୯	0 ୯-୯୯୯-	
<u>赤外線センサー設定</u> 焦電センサー設定	出側のブザー音量:	O OFF	③ 小	○中	©★	
外部リレー設定	エラー時のブザー音:	0 Ľ-	🔘 ປັ່ງປັ່ງປັ່ງປໍ	⊙ ೮೮೮೮೮೮೮	0 ୯-୯୯୯-	
<u>人数カウント設定</u> G003専用設定	エラー時のブザー音量:	O OFF	◉ 小	○中	O 大	
各種設定	音声再生回数:	1 📚				
	入側の音声:	Ľ-			*	
設定保存/復元	出側の音声:	ໃ ້ນໃນໃນໃ			*	
初期化	エラー時の音声:	ี ۲-۲۲۲-			~	
設定終了	音声スピーカの音量:	0 🗢				
					設定	

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ランプ設 定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 音の選択 リーダライタの音源をブザーまたは音声スピーカから選択します。
- 入側のブザー音 入方向からゲートを通過した際の RF タグ読み取り時に鳴動するブザー音を選択します。
- 入側のブザー音量
 入側のブザー音の音量を選択します。
- 出側のブザー音 出方向からゲートを通過した際の RF タグ読み取り時に鳴動するブザー音を選択します。
- 出側のブザー音量
 出側のブザー音の音量を選択します。
- エラー時のブザー音 ゲートを通過した際の RF タグ未読み取り時に鳴動するブザー音を選択します。
- エラー時のブザー音量
 エラー時のブザー音の音量を選択します。
- 音声再生回数 音の選択「音声」を選択している場合に、音声を再生する回数を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~1」です。(0:OFF1:1回再生)
- 入側の音声 入方向からゲートを通過した際の RF タグ読み取り時に再生する音声を選択します。
- 出側の音声 出方向からゲートを通過した際の RF タグ読み取り時に再生する音声を選択します。
- エラー時の音声 ゲートを通過した際の RF タグ未読み取り時に再生する音声を選択します。
- 音声スピーカの音量
 音声の音量を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~8」です。(0:OFF1:小~8:大)
 ブザー選択時も有効となり、設定値によって、「小/中/大」の音量レベルが推移します。

ギリュート値	ブ	ザー音	圕	ボリューム値 ブサ		量 ボルューム値 ブザー音量		量
ホリューム値	小	中	大	ホリューム直	小	中	大	
1	1	2	3	5	5	6	7	
2	2	3	4	6	6	7	8	
3	3	4	5	7	7	8	8	
4	4	5	6	8	8	8	8	

7.1.3 ランプ設定

ランプに関するパラメータを設定します。

F3-G003 ランプ設定 入側のランプ: >消灯 ●点滅 点灯 フラッシング 出側のランプ: >消灯 ●点滅 点灯 フラッシング エラー時のランプ: >消灯 ●点滅 点灯 フラッシング ブザー/音声設定 ブザー&ランプ連続動作設定: ④ OFF ON ブザー&ランプ設定 ブザー&ランプ時間のベースタイム: ● 025s ● 10s 10s
R3-G003 入側のランブ: 消灯 点滅 点灯 フラッシング 正日PROM設定一覧 ゴガー 道灯 点滅 点灯 フラッシング ブザー 1ラー時のランブ: 消灯 点滅 点灯 フラッシング ブザー ションプ連続動作設定: ・ ・ ・ ・ クランプ設定 ブザー&ランプ連続動作設定: ・ ・ ・ ・ グザー&ランプ連続動作設定: ・ 025s 05s 10s 10s
EEPROM設定一覧 出側のランブ: 消灯 点滅 点減 点減 点減 点減 点ば う方ッシング ブザー ブザー キョンプ連続動作設定: デザー ・ ・ </th
EEP ROM 設定一覧 エラー時のランプ: () 消灯 点滅 () 点返 () フラッシング ブザー/音声設定 ブザー&ランプ連続動作設定: () OFF ON クザー&ランプ時間のベースタイム: () 025s () 05s () 10s
<u>ブザー/音声設定</u> <u>●ランブ設定</u> ブザー&ランプ時間のベースタイム: ○ 0FF ○ 0N ブザー&ランプ時間のベースタイム: ○ 025s ○ 1.0s ○ 10s
<u>外線センサー設定</u> ブザー&ランプ時間の倍率: 3 ✿
魚電センサー設定
外部ルー設定
人数カウント設定
<u>G003専用設定</u>
各種設定
設定保存/復元
初期们上
設定終了

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 入側ランプ 入方向からゲートを通過した際のRFタグ読み取り時に適用するランプ点灯方式を選択します。
- 出側ランプ 出方向からゲートを通過した際のRFタグ読み取り時に適用するランプ点灯方式を選択します。

● エラー時のランプ ゲートを通過した際の RF タグ未読み取り時に適用するランプ点灯方式を選択します。

ブザー&ランプ連続動作設定
 ブザーおよびランプを連続で動作させるかどうかを選択します。

[無効]

ブザーおよびランプの動作時間は、「ブザー&ランプ時間のベースタイム」と「ブザー&ランプ 時間の倍率」を乗算した時間となります。

[有効]

ブザーおよびランプは、ゲートの電源 OFF まで継続します。 「ブザー&ランプ時間のベースタイム」および「ブザー&ランプ時間の倍率」の設定値は無視さ れます。

- ブザー&ランプ時間のベースタイム ブザーおよびランプの動作時間のベースタイムを選択します。
 ブザーおよびランプの動作時間は、本設定値と「ブザー&ランプ時間の倍率」を乗算した時間となります。
- ブザー&ランプ時間の倍率
 ブザーおよびランプの動作時間の倍率を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
 ブザーおよびランプの動作時間は、本設定値と「ブザー&ランプ時間のベースタイム」を乗算した時間となります。

7.1.4 赤外線センサー設定 赤外線センサーに関するパラメータを設定します。

	EEPR	ROM詳細設定	2[ゲート専用]		
	赤外線センサー設定				
R3-G003	赤外線センサー動作モード:	 入出用 	🔘 通過用)	
	赤外線センサー入出判断モード:	OFF	🔘 入方向のみ	🔘 出方向のみ	🔘 入出方向
EEPROM設定一覧	赤外線センサー遮蔽方向:	💿 順方向	🔘 逆方向)	
<u>ブザー/音声設定</u>	通過時の読み取り方が時期のペースタイル・	0.025s	0.05%	○ 10s	0 10s
ランプ設定	通過時の読み取り方が時時間の任本・	1	0.00	0 1.00	0,100
赤外線センサー設定					
焦電センサー設定	赤外線センサー休止時間:	💿 0s	O 0.5s	O 1.0s	O 2.0s
外部リレー設定	赤外線センサー検知時間:	0 📚	× 0.01s		
人数カウント設定	赤外線センサーのテストモード:	OFF	O ON)	
<u>G003専用設定</u>					
各種設定					設定
設定保存/復元					
初期化					

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

● 赤外線センサー動作モード
 ゲート通過時の通過方向を判断するかどうかを選択します。

[入出用]

ゲート通過時の通過方向を判断します。

[通過用]

ゲート通過時の通過方向を判断しません。

赤外線センサー入出判断モード 赤外線センサー遮蔽時のRFタグ読み取り条件を選択します。

[OFF]

赤外線センサーの遮蔽に関係なく、常時 RF タグの読み取りを行います。

[入方向のみ]

ゲート間を入方向に通過した時にのみ RF タグの読み取りを行います。

[出方向のみ]

ゲート間を出方向に通過した時にのみ RF タグの読み取りを行います。

[入出方向]

ゲート間を入方向または出方向に通過した時に RF タグの読み取りを行います。

赤外線センサー遮蔽方向 赤外線センサーの方向判断基準を選択します。

[順方向]

ゲート通過時の入方向/出方向の判断を下図「順方向」のとおりに行います。 進行方向手前側にゲート下部のクリアカバーが配置される状態を「入方向」と判断します。

[逆方向]

ゲート通過時の入方向/出方向の判断を下図「逆方向」のとおりに行います。 進行方向手前側にゲート上部のクリアカバーが配置される状態を「入方向」と判断します。





● 通過時の読み取り有効時間のベースタイム ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間のベースタイムを選択します。 ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間は、本設定値と「通過時の読み取り有効時間の倍率」 を乗算した時間となります。

赤外線センサー遮蔽前後の設定時間の間、RFタグの読み取りを行います。

- 例)設定時間 0.5 秒 赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒前から、赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒後までが有効時間です。
- 通過時の読み取り有効時間の倍率
 ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間の倍率を入力します。
 ゲート通過時の RF タグ読み取り有効時間は、本設定値と「通過時の読み取り有効時間のベースタイム」を乗算した時間となります。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
 - 例)設定時間 0.5 秒 赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒前から、赤外線センサー遮蔽の 0.5 秒後までが有効時間です。
- 赤外線センサー休止時間
 読み取り有効時間が経過した後、次に赤外線センサーを有効と判断するまでの時間を選択します。
- 赤外線センサー検知時間
 赤外線センサーを遮蔽したと判断するまでの時間を入力します。
 設定した時間以上継続して赤外線センサーを遮蔽した場合に、ゲートが遮蔽したと判断します。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。
 - 例)設定時間 0.1 秒0.1 秒以上の間、遮蔽状態が継続した場合にセンサーを遮蔽したと判断します。
- 赤外線センサーのテストモード 設定を「ON」とすると、赤外線センサー遮蔽時に、メインアンテナのプロテクションカバー内 パネル基板の各 LED(入側 LED、出側 LED、エラーLED)が点灯します。 赤外線センサーが正常に動作しているか確認する時などに使用してください。

7.1.5 外部リレー設定

外部リレーに関するパラメータを設定します。

_		EEPROM詳細設	定[ゲート専用]		
	外部リレー設定				
TR3-G003	外部リレー出力連続動作設定:	OFF	O ON		
	外部リレー出力のベースタイム:	O 0.25s	📀 0.5s	🔘 1.0s	🔘 10s
EEPROM設定一覧	外部リレー出力の倍率:	0 😂			
<u>ブザー/音声設定</u>					
ランプ設定					ERÆ
赤外線センサー設定					
焦電センサー設定					
●外部リレー設定					
人数カウント設定					
<u>G003専用設定</u>					
各種設定					
設定保存/復元					
初期化					
設定終了					

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 外部リレー出力連続動作設定 タグの読み取りに連動して、外部に接続した機器へ ON/OFF 情報を送信します。 連続設定を ON にした場合、外部リレー出力を継続します。 解除するには、本設定を OFF にするか、解除スイッチ信号を入力します。
- 外部リレー出力のベースタイム 外部リレー(CN6のみ)が出力する時間のベースタイムを選択します。
 外部リレーの出力時間は、本設定値と「外部リレー出力の倍率」を乗算した時間となります。

● 外部リレー出力の倍率
 外部リレー(CN6のみ)が出力する時間の倍率を入力します。
 外部リレーの出力時間は、本設定値と「外部リレー出力のベースタイム」を乗算した時間となります。
 入力可能な値の範囲は「0~15」です。

7.1.6 人数カウント設定

人数カウントに関するパラメータを設定します。

	E	EPROM詳細設:	定[ゲート専用]			
	人数カウント設定					
TR3-G003	通路1人数カウント(入側):	◎ 無効	◯ 有効			
	通路1人数カウント(出側):	◎ 無効	◯ 有効			
EEPROM設定一覧	通路2人数カウント(入側):	() 無効	◯ 有効			
	通路2人数カウント(出側):	◎ 無効	○ 有効			
<u>ブザー/音声設定</u>	通路3人数カウント(入側):	◎ 無効	◯ 有効			
<u>ランプ設定</u>	通路3人数カウント(出側):	◎ 無効	◯ 有効			
赤外線センサー設定						
焦電センサー設定	通路1タグ読み取りカウント(入側):	◎ 無効	◎ 有効			
外部リレー設定	通路1タグ読み取りカウント(出側):	◎ 無効	○ 有効			
●人数カウント設定	通路2タグ読み取りカウント(入側):	💿 無効	◯ 有効			
<u>G003専用設定</u>	通路2タグ読み取りカウント(出側):	() 無効	◯ 有効			
各種設定	通路3タグ読み取りカウント(入側):	● 無効	◯ 有効			
	通路3タグ読み取りカウント(出側):	◎ 無効	◯ 有効			
設定保存/復元						
初期化	人数カウント値の1/2設定:	◎ 無効	◯ 有効			
	カウント値の自動送信モード:	自動送信無し		~		
設定終了	カウント値の送信間隔単位:	③分	○ 時間			
	カウント値の送信間隔:	1 🛟			設定	

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- 通路1人数カウント(入側)
 通路1を入側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路1人数カウント(出側)
 通路1を出側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路2人数カウント(入側)
 通路2を入側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路2人数カウント(出側)
 通路2を出側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路3人数カウント(入側)
 通路3を入側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路3人数カウント(出側)
 通路3を出側方向に通過した際に、人数カウントを行うかどうかを選択します。
- 通路1タグ読み取りカウント(入側) 通路1を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路1タグ読み取りカウント(出側) 通路1を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路2タグ読み取りカウント(入側) 通路2を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路2タグ読み取りカウント(出側) 通路2を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路3タグ読み取りカウント(入側) 通路3を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 通路3タグ読み取りカウント(出側) 通路3を入側方向に通過した際に、RFタグの読み取りカウントを行うかどうかを選択します。
- 人数カウント値の 1/2 設定 赤外線センサーの遮蔽回数(ゲートの間を通過した回数)を 1/2 するかどうかを選択します。
- カウント値の自動送信モード
 カウント値の自動送信モードを次の4種類から選択します。
 - ・ 自動送信無し
 - 通路通過毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信及びカウントリセット
- カウント値の送信間隔単位 カウント値の送信間隔単位を選択します。
- カウント値の送信間隔
 カウント値の送信間隔を入力します。
 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

7.1.7 G003 専用設定

TR3-G003 専用のパラメータを設定します。

ROMConfGate				
		EEPROM詳細設定	[ゲート専用]	
	G003専用設定			
TR3-G003	タグ検出モード設定:	💿 タグ有り	○ タグ無し	
		● G002互換	○ G003専用	
EEPROM設定一覧	Allen Alfrederine – Antoine Brouz			
			設定	
ブザー/音声設定				
<u>ランプ設定</u>				
赤外線センサー設定				
焦電センサー設定				
外部リレー設定				
人数カウント設定				
●G003専用設定				
各種設定				
設定保存/復元				
初期化				
設定終了				

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

● タグ検出モード設定 RF タグの有無における動作状態を変更します。

	RF タグを持ってゲート通過	RF タグを持たずにゲート通過
RF タグあり	読み取り可	読み取り不可
RFタグなし	読み取り不可	読み取り可

● G002 互換モード設定

「G002 互換」の設定にて、「カウント値の自動送信」コマンドについて、TR3-G002 と互換性を保持します。

初期設定は「G002互換」になります。

7.1.8 各種設定

EPROMConfGate				×
		EPROM詳細設的	定[ゲート専用]	
	各種設定			
TR3-G003	ブザー&ランプ&リレー自動制御:	O OFF	⊙ ON	
EEPROM設定一覧	起動時の設定読み込み先:	O DIPSW	C EEPROM	
ブザー/音声設定	ノーリードエラーレスボンス設定:	• OFF	O ON	
<u>ランプ設定</u>	EASモード設定:	OFF	O ON	
赤外線センサー設定	無音モード設定:	OFF	O ON	
焦電センサー設定				
外部リレー設定			時定	
人数カウント設定			BXAC	
<u>G003専用設定</u>				
●各種設定				
設定保存/復元				
初期化				
設定終了				

各パラメータ値の変更内容は、[設定]ボタンをクリックすることで確定します。 各パラメータ値の変更後、[設定]ボタンをクリックせずに別画面(EEPROM 設定一覧、ブザー/ 音声設定など)を表示した場合は、変更内容が無効になります。

- ブザー&ランプ&リレー自動制御 ブザー、ランプ、リレーを動作させるトリガーの設定を行います。
 ON:通過時、タグの有無をトリガーとして各機能が連動します。
 OFF:タグの有無に依存せず、上位コマンドで制御します。
- 起動時の設定読み込み先 リーダライタ電源投入時の設定読み込み先を「DIPSW」または「EEPROM」から選択します。
 本項目に関連する設定値は以下のとおりです。
 ・ 赤外線センサー入出判断モード
 - ・赤外線センサー遮蔽方向
 - ノーリードエラーレスポンス設定
 - ・ 焦電センサー設定
 - EAS モード設定
 - ・ 無音モード設定
- ノーリードエラーレスポンス設定 設定を「ON」とすると、赤外線センサーを併用し、ゲート通過時に RF タグのデータの読み取 りがない場合に、"BR"(アスキー文字)を返します。
- EAS モード設定 設定を「ON」とすると、RF タグのデータの読み取った場合に、"OK"(アスキー文字)を返し ます。 なお、設定された AFI 値(デフォルト値:0)に依存します。
- 無音モード設定 RF タグ読み取り時、ランプ点灯のみで読み取り可否を知らせます。

7.1.9 設定保存/復元

リーダライタの EEPROM 設定値(ゲート専用)をテキストファイルに保存します。 または、テキストファイルに保存された EEPROM 設定値(ゲート専用)を復元します。

EEPROMConfGate	
	EEPROM詳細設定[ゲート専用]
	設定保存/復元
TR3-G003	設定の保存
EEPROM設定一覧	EEPROMの設定値をファイルに保存します。
ブザー/音声設定	設定の消費元
<u>ランプ設定</u>	EEPROMの設定値をファイルから復元します。現在の設定値は上書きされます。
赤外線センサー設定	設定復元
焦電センサー設定	
外部リレー設定	
人数カウント設定	
<u>G003専用設定</u>	
各種設定	
●設定保存/復元	
<u>初期化</u>	
設定終了	

※ 注意事項1

設定復元は、必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用 してください。

また、設定保存機能によって出力されたテキストファイルの内容をテキストエディタ等で編集 することは絶対にしないでください。

※ 注意事項2

設定復元の機能は、本ソフトのバージョン間で互換性がありません。

TR3RWManager v1.3.0.0 以前の TR3RWManager を使用して保存された情報を TR3RWManager v1.3.0.0の本機能で復元することはできません。

設定保存/復元を行う際には、同一バージョンの TR3RWManager をご使用ください。

● 設定保存(バックアップ) 現在の EEPROM 設定値(ゲート専用)をテキストファイルに保存します。

保存先のファイルを選択してください ? 🗙 保存する場所①: 🚞 work 🖌 🔇 🜶 📂 🛄-Ì 最近使ったファイル デスクトップ D 71 141321 ערבארב אד マイネットワーク ファイル名(<u>N</u>): default.tr3gate3 ~ 保存(S) ファイルの種類(T): TR3設定ファイル(*.tr3gate3) ~ キャンセル

[設定保存]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

保存先のフォルダ、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックします。 保存に成功すると次の確認メッセージが表示されます。

In for ma	tion 🛛
(į)	設定値を保存しました。
(ОК

● 設定復元(リストア)

テキストファイルに保存された EEPROM 設定値(ゲート専用)を復元します。 必ず本ソフトウエアの設定保存機能によって出力されたテキストファイルを利用してください。

復元処理を実行すると現在の EEPROM 設定値(ゲート専用)は上書きされます。 事前に現在の設定値を保存しておくことをお奨めします。

[設定復元]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

復元元のファイルを	選択してください					? 🛛
ファイルの場所型:	🚞 work		~	00	۳	
していた 最近使ったファイル	₩ default.tr3gate3					
ごう デスクトップ						
אנאנדאין אד						
ארבאנב אד						
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	default.tr3gate3			~	開 ((<u>(</u>))
	ファイルの種類(工):	TR3設定ファイル(*.tr3gate3)			~	キャンセル

復元元のファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。 復元が成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informa	tion 🛛 🔀
(į)	設定値を復元しました。
(OK

7.1.10 初期化

リーダライタの EEPROM 設定値(ゲート専用)を工場出荷時の値に初期化します。

EPROMConfGate	
	EEPROM詳細設定[ゲート専用]
	初期化
TR3-G003	EEPROMの設定値を工場出荷時の値に初期化します。
	ゲート種別
EEPROM設定一覧	O TR3-G001B ● TR3-G003
	21188/6
ブザー/音声設定	
ランプ設定	
赤外線センサー設定	
焦電センサー設定	
外部リレー設定	
人数カウント設定	
G003専用設定	
各種設定	
設定保存/復元	
▲ 211 其日(上	
読史後マ	

[初期化]ボタンをクリックすると次の確認メッセージが表示されます。

Informat	tion 🚺	
(į)	初期化します。	
0	K	

[OK]ボタンをクリックすると初期化処理が実行されます。 [キャンセル]ボタンをクリックすると何も処理を行いません。

初期化処理に成功すると次の確認メッセージが表示されます。

Informat	tion	×
(į)	設定値を初期化しま	もした。
	ОК	

● TR3-G003 の EEPROM 初期設定内容

項目	設定内容	初期値
ブザー/音声	音の選択	ブザー
	入側のブザー音	ピー
	入側のブザー音量	小
	出側のブザー音	ピッピッピッピ
	出側のブザー音量	小
	エラー時のブザー音	ピピピピピピ
	エラー時のブザー音量	小
	音声再生回数	1
	入側の音声	۲°–
	出側の音声	ピッピッピッピ
	エラー時の音声	ピーピピピー
	音声スピーカの音量	0
ランプ設定	入側のランプ設定	点滅
	出側のランプ設定	点滅
	エラー時のランプ設定	フラッシング
	ブザー&ランプ連続動作設定	OFF
	ブザー&ランプ時間のベースタイム	0.5s
	ブザー&ランプ時間の倍率	3
赤外線センサー設定	赤外線センサー動作モード	入出用
	赤外線センサー入出判断モード	OFF
	赤外線センサー遮蔽方向	順方向
	通過時の読み取り有効時間のベースタイム	0.5s
	通過時の読み取り有効時間の倍率	1
	赤外線センサー休止時間	0s
	赤外線センサーサンプリング時間	0
	赤外線センサーのテストモード	OFF
外部リレー設定	外部リレー出力連続動作設定	OFF
	外部リレー出力のベースタイム	0.5s
	外部リレー出力の倍率	0

項目	設定内容	初期値
人数カウント設定	通路1人数カウント(入側)	無効
	通路1人数カウント(出側)	無効
	通路2人数カウント(入側)	無効
	通路2人数カウント(出側)	無効
	通路3人数カウント(入側)	無効
	通路3人数カウント(出側)	無効
	通路1タグ読み取りカウント(入側)	無効
	通路1タグ読み取りカウント(出側)	無効
	通路2タグ読み取りカウント(入側)	無効
	通路2タグ読み取りカウント(出側)	無効
	通路3タグ読み取りカウント(入側)	無効
	通路3タグ読み取りカウント(出側)	無効
	人数カウント値の 1/2 設定	無効
	カウント値の自動送信モード	自動送信無し
	カウント値の送信間隔単位	分
	カウント値の送信間隔	1
G003 専用設定	タグ検出モード設定	タグ有り
	G002 互換モード設定	G002互换
各種設定	ブザー&ランプ&リレー自動制御	ON
	起動時の設定読み込み先	DIPSW
	ノーリードエラーレスポンス設定	OFF
	EAS モード設定	OFF
	無音モード設定	OFF

7.2 ゲート動作モードの読み取り

ゲートの動作モードを読み取るコマンドです。 本コマンドで読み取り可能な設定値は以下のとおりです。

- ・ 赤外線センサー入出判断モード
- ・ 赤外線センサー遮蔽方向
- ノーリードエラーレスポンス設定
- ・ 焦電センサー設定
- ・ EAS モード設定
- ・ 無音モード設定

なお、本コマンドは、EEPROM 設定[起動時の設定読み込み先]に書き込まれている設定値に応じて、読み取りの対象を変更します。 [起動時の設定読み込み先]については、「7.1.8 各種設定」を参照ください。

起動時の設定読み込み先	読み取り対象
DIPSW	リーダライタ電源投入時に RAM へ取り込まれた DIPSW の設定値を
	読み取ります。
EEPROM	リーダライタの EEPROM に保存されている設定値を読み取ります。

※ TR3-G003 は焦電センサーを搭載しないため、焦電センサー設定は無効となります。

H TR3RWManager[TR3-G003]	
 □ TR3RWManager [TR3-G003] ファイル(£) リーダライタ制御コマンド(£) リーダライ気設定コマンド(2) RF9グ通信コマンド(1) リーダライタEEPROM設定(£) リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes コマンド 違法インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes 受信データー転 送受信ログ 	 ▶ > >
	ii.

🗒 TR3 RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルブ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170	10777
コマンド 建装インペン円 RDL00P オートスキャン ReadBytes WriteBytes WriteBytes データリルア (F9)	
受信データー覧送受信ログ	
02/20 16:39:48.277 [cmt] /* ゲート動作モードの読み取り */ 02/20 16:39:48.277 [send] 02 00 30 02 00 00 03 37 00 02/20 16:39:48.308 [recv] 02 00 30 02 00 00 03 37 00 02/20 16:39:48.308 [cmt] 赤外線センサー込制町モード : OFF 02/20 16:39:48.308 [cmt] ホ外線センサー連廠方向 : 順方向 02/20 16:39:48.308 [cmt] 大り中ドエラーレスポンス設定 : OFF 02/20 16:39:48.308 [cmt] 大り中世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世世	
7.3 ゲート動作モードの書き込み

ゲートの動作モードを書き込むコマンドです。 本コマンドで書き込み可能な設定値は以下のとおりです。

- ・ 赤外線センサー入出判断モード
- ・ 赤外線センサー遮蔽方向
- ノーリードエラーレスポンス設定
- ・ 焦電センサー設定
- EAS モード設定
- ・ 無音モード設定

なお、本コマンドは、EEPROM 設定[起動時の設定読み込み先]に書き込まれている設定値に応じ て、書き込みの対象を変更します。 [起動時の設定読み込み先]については、「7.1.8 各種設定」を参照ください。

起動時の設定読み込み先	書き込み対象
DIPSW	リーダライタ電源投入時に RAM へ取り込まれた DIPSW の設定値を
	上書きします。
EEPROM	書き込むことはできません。(本コマンドは使用できません)

※ TR3-G003 は焦電センサーを搭載しないため、焦電センサー設定は無効となります。

ファイルを) リーダライ外観歌コマンド(2) リーダライが設定コマンド(2) アーダライタEEPROMB設定(2) ケート専用メニュー(2) 通信設定(2) ヘルプ(1) リーダライク動作モード コマンドモード 設定ダイアログ. ママンド 砂ビーダークシークシークシークシークシークシークシークシークシークシークシークシークシー	💾 TR3RWManager[TR3-G003]	
受信データー パラ・ノラノブ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) プリー/シンブ/LED/外部リレー状態の調み取り(型) パーター パークノージンブ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) パーター パークシンブ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) パークノンブ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) パークシンブ/LED/外部リレー状態の読み取り(型) ガウンド値の送み取り(コータリーの) パークリーン ガウンド値の送み取り(コータリーSW1(k) 音声スピーカ音量の読み取り(ロータリーSW1(k) 音声スピーカ音量の読み取り(い) 音声をシングの影り(い) 音声をシンブの動御(型) ガウンド値の読み取り(い)	ファイル(E) リーダライタ動作コマンド(E) リーダライク設定コマンド(E) RFタグ通信コマンド(E) リーダライク設定(E) リーダライク動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes コマンド 送島インベン川 RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	ゲート専用メニュー(2) 通信設定(2) ヘルブ(H) EEPROM設定(A) アート動作モードの詰み取り(B) 7 ゲート動作モードの書参込み(2) アート動作モードの書参込み(2)
	受信子	プサーブランプ/EE/ 外音呼レー状態の読み取り(型) プサーブランプ/LED/ 外音呼レー状態の前御(印) 外音呼レー解除えイッチ/DIPSW状態の読み取り(E) 赤外線センサー状態の読み取り(Q) カウント値の書き込み Q カウント値送信をイマのリセット(型) 音声スピーカ音量の読み取り(ロータリーSWJ(g) 音声スピーカ音量の読み取り(M) 音声 & ラングの制/師(型) カウント値の読み取り(Q)

GateActionMode					X
	ゲート動	」作モードの書き辺	∖ み	-	
赤外線センサー入出判断モード:	OFF	○ 入方向のみ	○出方向のみ	○ 入出方向)
赤外線センサー遮蔽方向:	💿 順方向	○ 逆方向)		
ノーリードエラーレスポンス設定:	OFF	O ON)		
焦電センサー設定:	OFF	O ON)		
EASモード設定:	OFF	O ON)		
無音モード設定:	OFF	O ON)		
					_
			OK	Cancel	

7.4 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り

ブザー/ランプ/LED/外部リレーの状態を読み取るコマンドです。

💾 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(を) リーダライタ制御コマンド(型) リーダライク設定コマンド(型) RF2が通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) リーダライタ動作モード コマンドモード コマンド シモスシャン ReadBytes. WriteBytes. マグド シモスシャン アンド アンド アンド シモスシャン アンド アンド アンド アン アン アン アン アン アン アン アン アン	ゲート専用メニュー(④) 通信設定(④)、 7 ゲート動作モードの読み取り(④) ア 7 ゲート動作モードの読み取り(④) ゲート動作モードの読み取り(④) 7 プザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(Φ) 7 プザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(Φ) 7 プザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(Φ) 7 プザー/ウン/LED/外部リレー状態の読み取り(Φ) 7 プサー/前除スイッチ/DIPSW状態の読み取り(Φ) 7 カウント値の書を込み(Φ) カウント値と信を1マのリセット(J) 音声スピー力音量の読み取り(□ ータリーSWI(Δ) 音声スピー力音量の書を込み取り(Δ) 音声 & ラングの制御(Ψ)… カウント値の読み取り(Φ)… カウント値の読み取り(Φ)… カウント値の読み取り(Φ)…

💾 TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(Q) 通信設定(C) ヘルプ(円)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定	10.16.77.170 10777
マンド 速装インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	データクリア (F9)
受信データー覧 送受信ログ	
02/20 16:45:16.792 [cmt] /* ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り */ 02/20 16:45:16.792 [send] 02 00 47 01 08 03 55 00 02/20 16:45:16.824 [recv] 02 00 30 04 08 00 10 00 03 51 0D 02/20 16:45:16.824 [cmt] 入側のブザー(音声)出力 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] 出側のブザー(音声)出力 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] エラー時のブザー(音声)出力 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] メインアンテナのランブ点灯 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] サブアンテナのランブ点灯 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] サブアンテナ3のランブ点灯 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] サブアンテナ3のランブ点灯 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] 大側のパネルLED点灯 0FF 02/20 16:45:16.824 [cmt] 外部リレー出力LED点灯 0FF </th <th></th>	

7.5 ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御

ブザー/ランプ/LED/外部リレーの状態を制御するコマンドです。

BuzzerLampLEDReray			X
ブザー/ラン	プ/LED/外部	部リレー	
入側のブザー(音声)出力:	OFF	O ON	
出側のブザー(音声)出力:	OFF	O ON	
エラー時のブザー(音声)出力:	OFF	O ON	
メインアンテナのランプ点灯:	OFF	O ON	
サブアンテナ1のランプ点灯:	OFF	O ON	
サブアンテナ2のランプ点灯:	OFF	O ON	
サブアンテナ3のランプ点灯:	OFF	O ON	
入側のパネルLED点灯:	OFF	O ON	
出側のパネルLED点灯:	OFF	O ON	
エラー時のパネルLED点灯:	OFF	O ON	
外部リレー出力LED点灯:	OFF	O ON	
キャリア出力LED点灯:	O OFF	💿 ON	
外部リレー出力1(CN7):	OFF	O ON	
外部リレー出力2(CN8):	OFF	O ON	
外部リレー出力3(CN9):	OFF	O ON	
)K Cano	el
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

7.6 外部リレー解除スイッチ/DIPSW 状態の読み取り

外部リレー解除スイッチと DIPSW の状態を読み取るコマンドです。

별 TR3R\Manager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ動像モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes コマンド 半線インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes 受信データー転 送受信ログ	ゲート専用メニュー(④) 通信詰設定(⑤) ヘルブ(比) EEPROM設定(A) ゲート動作モードの読み取り(E) ゲート動作モードの書き込み(©) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブサー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブサー/育除スイッチ/DIPSw状状態の読み取り(E) 亦小森センワース駆り読み取り(D) ホウント値の書き込み(D カウント値の書き込み(D カウント値の書き込み(D カウント値の読み取り(D) ●書声えピーカ音量の読み取り(D) ●書声えピーカ音量の書き込み(EEPROM](L) D>基板ROM(デジョンの読み取り(M) 音声 & ランブの制調(N) カウント値の読み取り(O)

🗄 TR3RWManager[TR3-G003]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(D) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes / WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 速続インペンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データクリア (F9)
受信データー 暫 送受信ログ
03/05 14:18:48.031 [cmt] /* 外部リレー解除スイッチ/DIPSW状態の読み取り */ 03/05 14:18:48.031 [send] 02 00 47 01 03 03 50 0D 03/05 14:18:48.046 [recv] 02 00 30 03 03 00 00 03 38 0D 03/05 14:18:48.046 [cmt] 解除スイッチ : OFF 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[赤外線センサー入出判断モード] : OFF 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[赤外線センサー込出判断モード] : 順方向 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[ホ外線センサー遮蔽方向] : 順方向 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[シリードエラーレスポンス設定] : OFF 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[シリードエラーレスポンス設定] : OFF 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[EASモード設定] : OFF 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[無音モード設定] : OFF 03/05 14:18:48.046 [cmt] DIPSW[無音モード設定] : OFF

7.7 赤外線センサー状態の読み取り

赤外線センサーの状態を読み取るコマンドです。

アイル(を) リーダライタ熱検定コマンド(2) リーダライタ延行コマンド(2) リーダライタEEPROM設定(2) ゲート専用人ニュー(2) 通信設定(2) ヘルブ(4) リーダライタ動作モード コマンドモード 話定ダイアログニ マンド ほどなくハレクリ ReadBytes. WriteBytes. プログニ ほどなくハレクリ パレロのP オートスキャン ReadBytes. WriteBytes. フサーベランブイン(2) レーズ総の構み取り(2) プリー・クシンブ・ノング・レクリーズ総の制み取り(2) アリー・クシンブ・レクリーズ総の構み取り(2) プリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・分(4) アリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシンブ・しの(4) アリー・クシンブ・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・プリー・クシング・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシング・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシング・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・クシング・レクリーズ総の読み取り(2) アリー・フシンの読み取り(2) アレー・プレクリーズ総の読み取り(2) 日本のとり・レクリーズ総の読み取り(2) アレクリーズ アント(4) アント(4) アンリーズ <th>当 TR3RWManager[TR3-G003]</th> <th></th>	当 TR3RWManager[TR3-G003]	
	■ TR3RWManacer[TR3=G003] ファイル(E) リーダライク熱節コマンド(B) リーダライク設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライクEEPROM設定(E) リーダライク動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes コマンド 速気インベンド RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes 受信データー智 送受信ログ ジライン マーク マーク マーク マーク	ゲート専用メニュー(2) 通信設定(2) ハルブ(4) EEPROM設定(A) ア ゲート動作モードの読み取り(B) ア ゲート動作モードの読み取り(C) ア ブザー/ランプ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) フザー/ランプ/LED/外部リレー状態の制御(E) 大島田しー観客さムのモークDIPSWH地の読み取り(E) ホ分線センサー状態の読み取り(G) ガワンド値の書きなのい カウンド値送信タイマのリセット(J) 音声スピー力音量の読み取り(D) 日本規一の読み取り(M) 音声 & ランプの制御(M) カウント値の読み取り(Q)

🗒 TR3 RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)	
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaButes / MiniteButes インターフェース設定 10.16.77.170 10	777
コマンド 注続インベンドリ RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグリア(F9)	
受信データー覧 送受信口グ	
U3/U5 10:44:27.734 [cmt] /* 亦外線センワースための記み取り */ 03/05 16:44:27.734 [send] 02 00 47 01 04 03 51 0D 03/05 16:44:27.765 [recv] 02 00 30 02 04 08 03 43 0D 03/05 16:44:27.765 [cmt] 通路1[入側]: OFF 03/05 16:44:27.765 [cmt] 通路2[入側]: OFF 03/05 16:44:27.765 [cmt] 通路2[L1側]: OFF 03/05 16:44:27.765 [cmt] 通路3[入側]: OFF 03/05 16:44:27.765 [cmt] 通路3[入側]: OFF 03/05 16:44:27.765 [cmt] 通路3[L1側]: OFF	

7.8 カウント値の書き込み

人数カウント値およびタグ読み取りカウント値をリーダライタの RAM へ書き込むコマンドです。

GateWriteCount	×
カウント値の	書き込み
通路1人数カウント(入側):	0 📚
通路1人数カウント(出側):	0 😂
通路2人数カウント(入側):	0 📚
通路2人数カウント(出側):	0 📚
通路3人数カウント(入側):	0 📚
通路3人数カウント(出側):	0 😂
通路1タグ読み取りカウント(入側):	0 😂
通路1タグ読み取りカウント(出側):	0 😂
通路2タグ読み取りカウント(入側):	0 🗢
通路2タグ読み取りカウント(出側):	0 😂
通路3タグ読み取りカウント(入側):	0 😂
通路3タグ読み取りカウント(出側):	0 🗢
	OK Cancel

7.9 カウント値送信タイマのリセット

人数カウント値およびタグ読み取りカウント値の送信タイマをリセットするコマンドです。 本コマンドは、「7.1.6 人数カウント設定 – カウント値の自動送信モード」の設定値が「送信間隔 毎に送信」である場合に、リーダライタ内部の送信間隔計測用タイマのカウント値をリセットする 目的で使用します。



7.10 音声スピーカ音量の読み取り[ロータリーSW]

音声スピーカ音量[ロータリーSW](LEDパネル基板上のSW1)の値を読み取るコマンドです。

💾 TR3RWManager[TR3-G003]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 連続インペン川 RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データウリア (F9)
02/20 16:59:24.011 [cmt] /* 音声スピーカ音量の読み取り[ロータリーSW] */ 02/20 16:59:24.011 [send] 02 00 47 01 0C 03 59 00 02/20 16:59:24.042 [recv] 02 00 30 02 0C 0F 03 52 00 02/20 16:59:24.042 [cmt] 音声スピーカ音量[ロータリーSW]: 0x0F

7.11 音声スピーカ音量の書き込み[EEPROM]

音声スピーカ音量の値をリーダライタの EEPROM へ書き込むコマンドです。

VoiceVolume	X
音声スピーカ音量の書き込み[EEPROM]
スピーカ音量(HEX): 8 ◆	
0:OFF 1(音量小)~ 8(音量大) LEDパネル基板のSW1を9~Fのいずれかに設定しておく必要がありま OK Can	च. cel

 スピーカ音量(HEX) スピーカ音量を入力します。 入力可能な値の範囲は「0~8」です。

7.12 IO 基板 ROM バージョンの読み取り

リーダライタ IO 基板の ROM バージョン (ファームウェアバージョン)を読み取るコマンドです。

TR3RWManager [TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(R) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E)	ゲート専用メニュー(③) 通信設定(◎) ヘルプ(出)
リーダライク動作モード コマンドモード 設定ダイアログ- ReaBytes/WiteBytes コマンド 建築インベン川 RDLOOP オートスキャン ReadBytes. WriteBytes. 受信データー覧 送受信ログ	EEPROMBRE(Q) 7 ゲート動作モードの読み取り(E) 7 ゲート動作モードの書お込み(Q) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(D) ブザー/ランブ/LED/外部リレー状態の読み取り(E) 赤外線センサー状態の読み取り(G) カウント値の書お込み(Q) カウント値の読み取り(D) カウント値の読み取り(D) ロータリーSWI(Q) 音声スピー力音量の読み取り(D) シントー第日まえ込み(D) 10基板ROMパージョンの読み取り(M) 日戸 をラフフの新師(Q) カウント値の読み取り(Q) 10

TR3 RWManager [TR3-G003]
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ)通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C) ヘルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes/WriteBytes インターフェース設定 10.16.77.170 10777
コマンド 連続インペン州 RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes データグルア (F9)
受信データー 暫 送受信ログ
02/20 17:02:48.089 [cmt] /* GD0310基板ROMバージョンの読み取り */ 02/20 17:02:48.089 [send] 02 00 47 01 90 03 00 0 02/20 17:02:48.121 [recv] 02 00 30 0A 90 31 30 39 31 30 30 31 32 38 03 95 0D 02/20 17:02:48.121 [cmt] ROMバージョン : 1.09 100128

7.13 音声& ランプの制御

リーダライタの音声とランプを同時に制御するコマンドです。

SoundLamp				×		
音声&ランプの制御						
音の選択:	● 制御しない	◯ ブザー	○音声			
音量の制御:	① 無効	○ 有効)			
音声/ランプ時間制御:	💽 無効	○ 有効]			
ブザー音:	(💿 Ľ –	🔿 ชิงชิงชิงชิ	0 6666666	<u> </u>		
音声:	おはようございます。			~		
音 量:	0 🗢					
<mark>ランプ:</mark>	💿 消灯	◯ 点滅	○ 点灯	〇 フラッシング		
音声/ランプ制御時間:	0 🗢 :	×10ms				
			-			
			ОК	Cancel		

- 音の選択
 - 音(音源)を選択します。
 - 制御しない
 - ・ブザー
 - 音声
- 音量の制御 音量の制御有無を選択します。 本項目は、[音の選択]において「ブザー」または「音声」を選択している場合のみ有効となります。
- 音声/ランプ時間制御 音声/ランプの時間制御有無を選択します。
- ブザー音 再生するブザー音を選択します。
 本項目は、[音の選択]において「ブザー」を選択している場合のみ有効となります。
- 音声
 再生する音声を選択します。
 本項目は、[音の選択]において「音声」を選択している場合のみ有効となります。
- 音量 スピーカ音量を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~8」です。
 本項目は、[音量の制御]において「有効」を選択している場合のみ有効となります。
- ランプ
 - ランプの点灯方式を選択します。
 - 消灯
 - ・ 点滅
 - 点灯
 - ・ フラッシング
- 音声/ランプ制御時間
 音声およびランプの制御時間を入力します。
 入力可能な値の範囲は「0~65535」です。
 本項目は、[音声/ランプ時間制御]において「有効」を選択している場合のみ有効となります。

7.14 カウント値の読み取り

リーダライタ内部の RAM に保存された人数カウント値およびタグ読み取りカウント値を読み取る コマンドです。

SateReadCount					
カウント値の読み取り					
カウント値の読み取り方式:	〇 現在のEEPROM設定値		⑧ 指定時間毎の読み取り		
現在のEEPROM設定値			指定時間毎の読み取り		
人数カウント値の1/2設定:	() 無効 () ;	有効	カウント値の読み取り間隔:	1 🔹 (秒)	
カウント値の自動送信モード:	自動送信無U	~			
カウント値の送信間隔単位:	③分 ○日	 ● 分 ○ 時間 			
カウント値の送信間隔:	1 🗘				
	通過	人数	タグ読み取り数		
	入側	出側	入側	出側	
通路1	0	0	0	0	
通路2	0	0	0	0	
通路3	0	0	0	0	
カウントクリア(F9)	ファイル保存(F5)			閉じる(F1)	

● カウント値の読み取り方式 リーダライタの RAM に保存された人数カウント値を読み取る方式を選択します。

[現在の EEPROM 設定値] リーダライタの EEPROM に保存された設定に応じた動作を行います。

[指定時間毎の読み取り] カウント値の読み取り間隔(秒)でカウント値を読み取ります。

● 人数カウント値の 1/2 設定
 赤外線センサーの遮蔽回数(ゲートの間を通過した回数)を 1/2 するかどうかを示します。

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「7.1.6 人数カウント設定」から行います。

- カウント値の自動送信モード カウント値の自動送信モードを示します。
 - 自動送信無し
 - 通路通過毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信
 - ・ 送信間隔毎に送信及びカウントリセット

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「7.1.6 人数カウント設定」から行います。

カウント値の送信間隔単位
 カウント値の送信間隔単位を示します。

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「7.1.6 人数カウント設定」から行います。

● カウント値の送信間隔 カウント値の送信間隔を示します。

本画面で設定値を変更することはできません。 設定値の変更は、「7.1.6 人数カウント設定」から行います。

カウント値の読み取り間隔
 カウント値の読み取り間隔を入力します。
 本項目は、カウント値の読み取り方式に「指定時間毎の読み取り」を選択した場合のみ入力が可能です。
 入力可能な値の範囲は「1~255」です。

 ● カウントクリア(F9) リーダライタ内部の RAM に保存された人数カウント値およびタグ読み取りカウント値を「0
 回」に初期化します。

ボタンをクリックすると次の確認メッセージが表示されます。

Informat	tion 🔣
į	カウント値をクリアします。
	K ++>>セル

[OK]ボタンをクリックすると初期化されます。 [キャンセル]ボタンをクリックすると何も処理を行いません。

● ファイル保存 (F5)

リーダライタの RAM に保存された人数カウント値およびタグ読み取りカウント値を csv 形式のファイルに保存します。

保存先ファイルのパスを設定する方法については、次頁を参照ください。

ボタンをクリックすると次の確認メッセージが表示されます。

Information	
(į)	カウント値を保存します。 c:¥gatecount.csv
	K キャンセル

[OK]ボタンをクリックすると保存されます。 [キャンセル]ボタンをクリックすると何も処理を行いません。

※ カウント値保存先のファイルパス設定方法

メニューバー – [ヘルプ] – [ア	プリケーション設定]をク	リックします。
---------------------	--------------	---------

TR3RWManager[TR3-G003]	
ファイル(E) リーダライタ制御コマンド(B) リーダライタ設定コマンド(Q) RFタグ通信コマンド(T) リーダライタEEPROM設定(E) ゲート専用メニュー(G) 通信設定(C)	へルプ(H)
リーダライタ動作モード コマンドモード 設定ダイアログ ReaBytes /WriteBytes インターフェース設定	アプリケーション設定(A)
マンド 速装インペン州 RDLOOP オートスキャン ReadBytes WriteBytes	バージョン情報(B)
受信データー 暫 送受信ログ	

[ゲート設定]タブを表示します。

	アプリク	テーション設定	È	
。 関東設定 オプションフ	フラヴ ゲート設定]		
人教力ウント値出力・	先ファイル:			
c:¥gatecount.csv				参照

[人数カウント値出力先ファイル]入力欄にキーボードなどから直接入力することはできません。 [参照]ボタンを使用してファイルパスを選択します。

[参照]ボタ	ンをクリッ	クすると次の画面が表示	されま	す。
ファイルを選択して	ください			? 🔀
ファイルの場所の	i 🗁 work	G Ø	📂 🛄 •	
していた 最近使ったファイル				
ごう デスクトップ				
אלאנדאיז זד די אלאנד				
ער דאר אר איז				
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	gatecountG003.csv	~	
	ファイルの種類(工):	CSV7r116(*.csv)	~	キャンセル

[か四].ドル、チ ナフトルの両子が書二とれます

ファイル名を入力して[開く]ボタンをクリックします。

ApplicationInfo	×
アプリケーション設定	
環境設定 オプションフラグ ゲート設定	
人類市中心人植出力失力マイル・	
C:#work¥gatecountG003.csv	参照
)
OK	cel

[OK]ボタンをクリックすると設定が保存されます。

変更履歴

Ver No	日付	内容
1.00	2011/6/10	新規作成

仕様については、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

タカヤ株式会社 事業開発本部 RF 事業部 [URL] http://www.takaya.co.jp/ [Mail] rfid@takaya.co.jp